

平成17年度  
住みよか太宰府まちづくり市民意識調査  
< 報告書 >

平成18年3月  
太宰府市

## <目 次>

<b>第1章 調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1. 調査の目的 .....	1
2. 調査の性格 .....	1
(1) 調査地域 .....	1
(2) 調査対象 .....	1
(3) 調査対象者数 .....	1
(4) 抽出方法 .....	1
(5) 調査方法 .....	1
(6) 調査期間 .....	1
(7) 回収状況 .....	1
(8) 調査実施機関 .....	1
3. 調査項目 .....	2
4. 調査結果利用上の注意 .....	3
<b>第2章 調査結果の概略</b> .....	<b>5</b>
1. 回答者の属性 .....	5
2. まちの住みやすさ .....	6
3. 日ごろの暮らし、行動に対する意識等 .....	7
4. 歴史と文化の環境税 .....	8
5. これからのまちづくり .....	8
<b>第3章 詳細調査結果</b> .....	<b>9</b>
第1節 回答者の属性 .....	9
1. 性別(問1) .....	9
2. 年齢(問2) .....	10
3. 世帯構成(問3) .....	11
4. 職業(問4) .....	12
5. 通勤・通学先(問4付問) .....	13
6. 居住地域(問5) .....	14
(1) 小学校区 .....	14
(2) 行政区 .....	15
7. 居住年数(問6) .....	16
8. 住居形態(問7) .....	17
第2節 「まちの住みやすさ」について .....	18
1. 住みやすさの評価(問8) .....	18
2. 継続居住意向(問9) .....	19
3. 住み続けたい理由(問9付問1) .....	21
4. 住み続けたくない理由(問9付問2) .....	23

第3節 「日ごろの暮らし、行動に対する意識等」について	24
1．人権	24
(1) 人権侵害の経験と内容(問10、付問1)	24
(2) 同和地区差別の認識(問11)	25
(3) 結婚の家柄、血筋に対する考え方(問12)	26
2．男女共同参画	27
(1) 固定的役割分担に対する考え方(問13)	27
3．生涯学習	29
(1) 学習活動の取組み状況(問14)	29
(2) 学習活動の取組み意向(問15)	30
4．スポーツ	31
(1) 運動・スポーツの実施頻度(問16)	31
5．健康づくり	32
(1) 健康状態(問17)	32
(2) 健康増進の取組み状況(問18)	33
6．高齢者福祉	34
(1) 生活に対する生きがい(問19)	34
7．子育て支援	35
(1) 子育てと仕事の両立性(問20)	35
(2) 子育てに対する不安(問21)	36
(3) 子育ての楽しさ(問22)	37
8．防犯	38
(1) 防犯面の安心度(問23)	38
(2) 防犯上危険と思う場所(問23付問)	39
9．防災	43
(1) 災害に対する取組み状況(問24)	43
10．環境保全	44
(1) 節電などの二酸化炭素排出削減等の取組み状況(問25)	44
(2) 生活排水に対する取組み状況(問26)	45
11．自然環境	46
(1) 自然の豊かさに対する意識(問27)	46
12．市街地整備	47
(1) 居住地区の住みやすさに対する満足度(問28)	47
13．都市拠点整備	48
(1) 駅周辺の利便性に対する意識(問29)	48
(2) 駅周辺における拠点場所(問30)	49
14．バリアフリー	50
(1) 公共施設の配慮に対する意識(問31)	50
(2) 民間施設の配慮に対する意識(問32)	51
15．道路事情	52
(1) 道路の円滑性に対する意識(問33)	52

16. 公共交通機関 -----	53
( 1 ) 鉄道の利便性に対する意識 ( 問 34 ) -----	53
( 2 ) バスの利便性に対する意識 ( 問 35 ) -----	54
17. 景観 -----	55
( 1 ) 美しい自然に対する意識 ( 問 36 ) -----	55
( 2 ) 美しい歴史的景観に対する意識 ( 問 37 ) -----	56
( 3 ) 良好な町並みに対する意識 ( 問 38 ) -----	57
18. 情報化 -----	58
( 1 ) 世帯におけるパソコンによるインターネットの接続の有無 ( 問 39 ) -----	58
( 2 ) インターネットの利用状況 ( 問 40 ) -----	59
19. 文化財 -----	60
( 1 ) 歴史文化遺産の誇りに対する意識 ( 問 41 ) -----	60
( 2 ) 歴史文化遺産の大切さに対する意識 ( 問 42 ) -----	61
20. 文化活動 -----	62
( 1 ) 文化芸術とのふれあい頻度 ( 問 43 ) -----	62
21. 伝統文化 -----	63
( 1 ) 伝統文化とのふれあい頻度 ( 問 44 ) -----	63
22. 国際交流・地域間交流 -----	64
( 1 ) 外国人との交流頻度 ( 問 45 ) -----	64
( 2 ) 姉妹都市・友好都市との交流頻度 ( 問 46 ) -----	65
23. 情報公開 -----	66
( 1 ) 広報紙の閲読状況 ( 問 47 ) -----	66
( 2 ) 情報公開・提供に対する意識 ( 問 48 ) -----	67
( 3 ) 情報交換の双方向性に対する意識 ( 問 49 ) -----	68
24. 行政サービス -----	69
( 1 ) 市役所窓口の利用の有無 ( 問 50 ) -----	69
( 2 ) 事務処理の迅速性に対する意識 ( 問 50 付問 1 ) -----	70
( 3 ) 職員の対応・姿勢に対する満足度 ( 問 50 付問 2 ) -----	71
25. 広域行政 -----	72
( 1 ) 広域圏による住民サービスの向上に対する意識 ( 問 51 ) -----	72
第 4 節 「歴史と文化の環境税」について -----	73
1. 歴史と文化の環境税の認知状況 ( 問 52 ) -----	73
2. 歴史と文化の環境税の取組みに対する評価 ( 問 53 ) -----	74
3. 評価する理由 ( 問 53 付問 1 ) -----	75
4. 評価しない理由 ( 問 53 付問 2 ) -----	76
第 5 節 「これからのまちづくり」について -----	77
1. 九州国立博物館を生かしたまちづくりに対する意識 ( 問 54 ) -----	77
2. 各種施策に対する考え方 ( 問 55 ) -----	79
第 6 節 まちづくりに対する自由意見 -----	83
1. 記入状況 -----	83
2. 自由意見の分類 -----	84
参考資料 ( 調査票 ) -----	85

## 第 1 章 調査の概要

---

## 第 1 章 調査の概要

### 1 . 調査の目的

市民の声を市政に生かし市民参画の行政を進めていくため、市民の生活実態や問題意識、現状の施策に対する評価、今後のまちづくりに対する期待などを把握し、今後のまちづくりの基礎資料とする目的で実施した。

### 2 . 調査の性格

#### ( 1 ) 調査地域

太宰府市全域

#### ( 2 ) 調査対象

太宰府市内に居住する 20 歳以上の男女個人

#### ( 3 ) 調査対象者数

1,000 サンプル

#### ( 4 ) 抽出方法

住民基本台帳による無作為二段階抽出

#### ( 5 ) 調査方法

郵送法（お礼兼督促状 1 回郵送）

#### ( 6 ) 調査期間

配 布：平成 18 年 2 月 21 日（火） 発送

投函締切：平成 18 年 3 月 3 日（金）

回収締切：平成 18 年 3 月 6 日（月）

#### ( 7 ) 回収状況

回 収 数：742 件（回収率 74.2%）

うち有効回答数：740 件

#### ( 8 ) 調査実施機関

（株）西日本リサーチセンター

### 3. 調査項目

.あなたご自身について(属性)	問1	性別	
	問2	年齢	
	問3	世帯構成	
	問4	職業	
	問4付問	通勤・通学地	
	問5	行政区	
	問6	居住年数	
.まちの住みやすさについて	問7	住居形態	
	問8	住みやすさ評価	
	問9	継続居住意向	
.日ごろの暮らし、行動に対する意識等について	問9付問1	住み続けたい理由	
	問9付問2	住み続けたくない理由	
.日ごろの暮らし、行動に対する意識等について	人権	問10	人権侵害の経験
		問10付問	人権侵害の内容
		問11	同和地区の差別の認識
		問12	結婚の家柄、血筋に対する考え方
	男女共同参画	問13	固定的役割分担に対する考え方
	生涯学習	問14	学習活動の取組み状況
		問15	学習活動の取組み意向
	スポーツ	問16	運動・スポーツの実施頻度
	健康づくり	問17	健康状態
		問18	健康増進の取組み状況
	高齢者福祉	問19	生活に対する生きがい
	子育て支援	問20	子育てと仕事の両立性
		問21	子育てに対する不安
		問22	子育ての楽しさ
	防犯	問23	防犯面の安心度
		問23付問	防犯上危険と思う場所
	防災	問24	災害に対する取組み状況
	環境保全	問25	二酸化炭素排出削減等の取組み状況
		問26	生活排水に対する取組み状況
	自然環境	問27	自然の豊かさに対する意識
	市街地整備	問28	居住地区の住みやすさに対する満足度
	都市拠点整備	問29	駅周辺の利便性に対する意識
		問30	駅周辺における拠点場所
	バリアフリー	問31	公共施設の配慮に対する意識
		問32	民間施設の配慮に対する意識
	道路事情	問33	道路の円滑性に対する意識
	公共交通機関	問34	鉄道の利便性に対する意識
		問35	バスの利便性に対する意識
	景観	問36	美しい自然に対する意識
		問37	美しい歴史的景観に対する意識
		問38	良好な町並みに対する意識
	情報化	問39	インターネットの接続の有無
		問40	インターネットの利用状況
	文化財	問41	歴史文化遺産の誇りに対する意識
		問42	歴史文化遺産の大切さに対する意識
	文化活動	問43	文化芸術とのふれ合い頻度
	伝統文化	問44	伝統文化とのふれ合い頻度
	国際交流・地域間交流	問45	外国人との交流頻度
		問46	姉妹都市・友好都市との交流頻度
	情報公開	問47	広報紙の閲読状況
		問48	情報公開・提供に対する意識
		問49	情報交換の双方向性に対する意識
	行政サービス	問50	市役所窓口の利用の有無
		問50付問1	事務処理の迅速性に対する意識
		問50付問2	職員への対応・姿勢に対する満足度
	広域行政	問51	広域圏による住民サービスの向上に対する意識
	.歴史と文化の環境税について	問52	環境税の取組の認知状況
		問53	環境税の取組みに対する評価
		問53付問1	評価する理由
		問53付問2	評価しない理由
	.これからのまちづくりについて	問54	九州国立博物館を生かしたまちづくりに対する意識
	.まちづくりに対する自由意見	問55	各種施策に対する考え方

---

#### 4 . 調査結果利用上の注意

- ( 1 ) 集計は小数点以下第 2 位を四捨五入している。したがって、回答比率の合計は必ずしも 100%にならない場合がある。
- ( 2 ) 2 つ以上の回答を要する ( 複数回答 ) 質問の場合、その回答比率の合計は 100%を超える場合がある。
- ( 3 ) 数表、図表、文中に示す「 N ( または n ) 」は、比率算出上の基数 ( 標本数 ) である。
- ( 4 ) 80 歳以上の回答者は 2 人 ( 0.3% ) と標本数が少数のため、70 歳代と合わせて「 70 歳以上」として集計している。





## 第2章 調査結果の概略

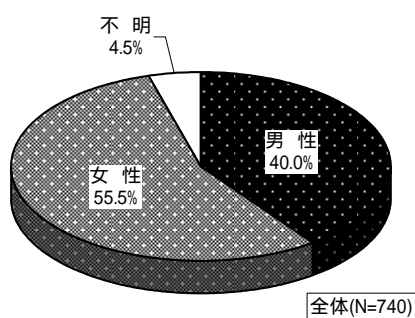
## 第2章 調査結果の概略

### 1. 回答者の属性

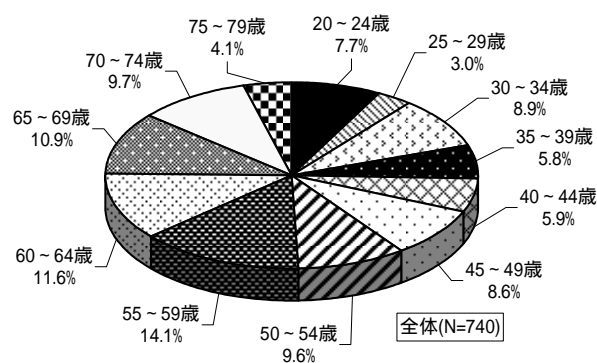
回答者は「女性」が「男性」を若干上回り、50～60歳代が全体の4割強となっている。また、「太宰府小学校区」の居住者が全回答数の2割を占めている。

通勤・通学先は「福岡市」「太宰府市」が多い。居住状況は10年以上～20年未満の居住者が約4割を占め、持ち家・分譲マンション居住者が中心となっている。

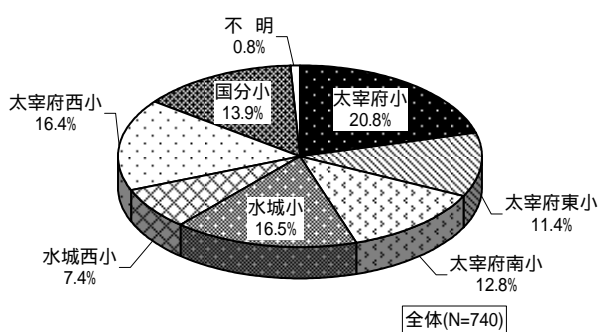
性別



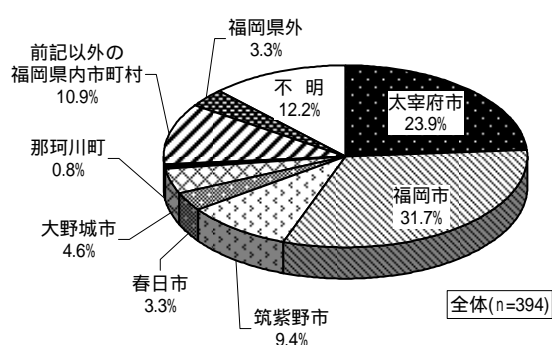
年代



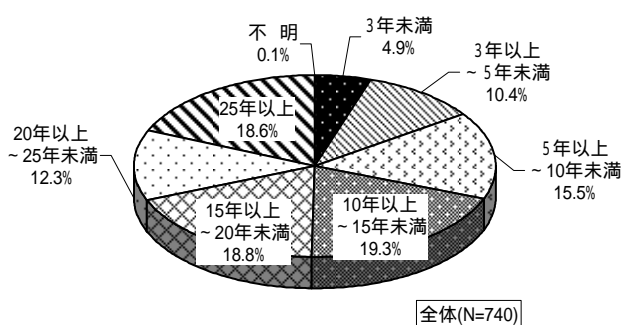
居住校区



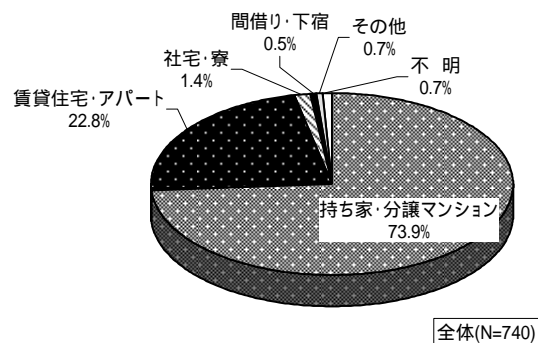
通勤・通学先



居住年数

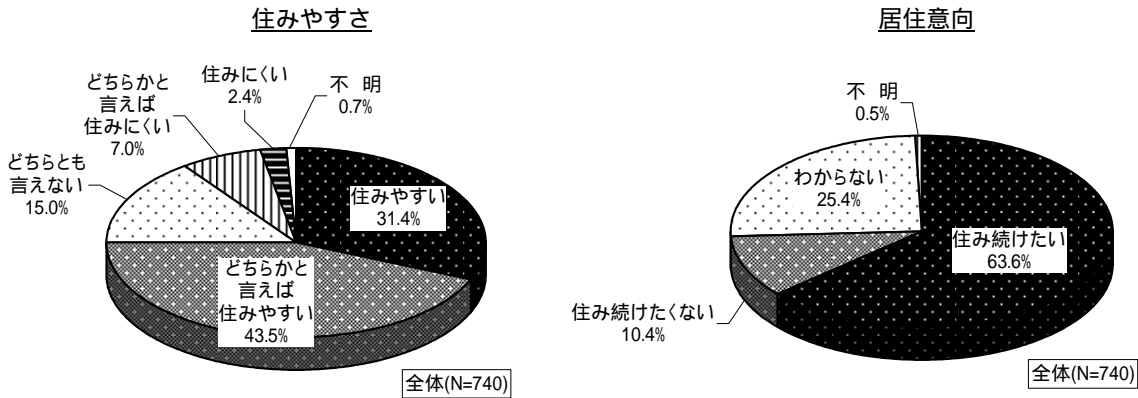


居住形態

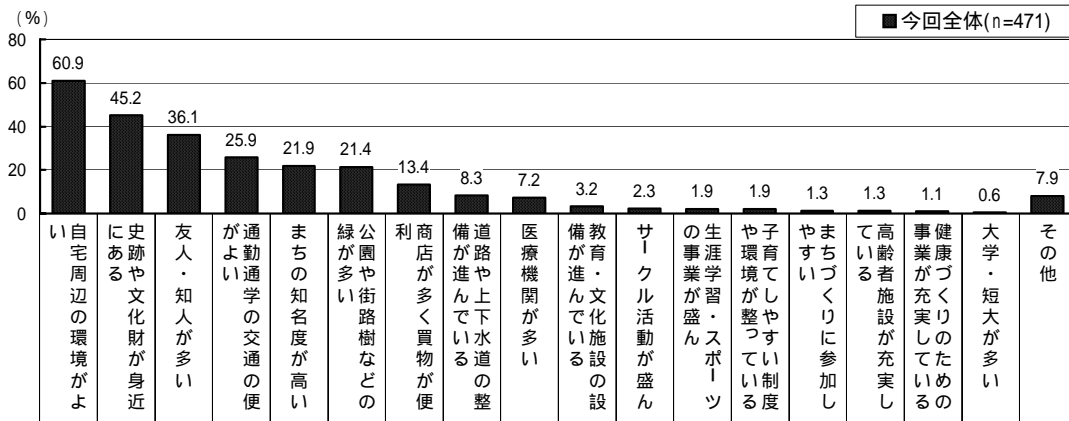


## 2. まちの住みやすさ

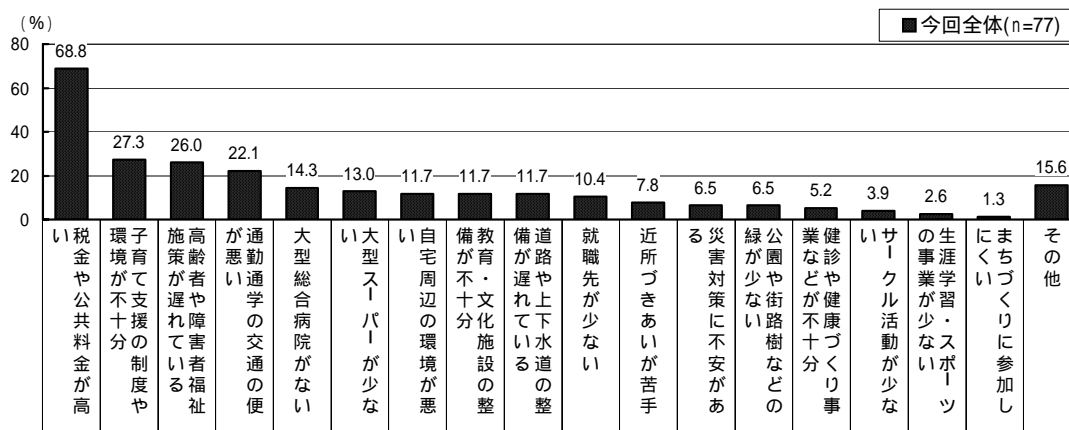
太宰府市の住みやすさは満足派（「住みやすい」、「どちらかと言えば住みやすい」の合計）が7割以上を占めている。今後の居留意向も「住み続けたい」が6割に達し、その理由は「自宅周辺の環境がよい」、「史跡や文化財が身近にある」、「友人・知人が多い」が多い。一方、「住み続けたくない」は1割にとどまり、「税金や公共料金が高い」という理由が多くなっている。



### 住み続けたいと思う理由



### 住み続けたくないと思う理由



### 3. 日ごろの暮らし、行動に対する意識等

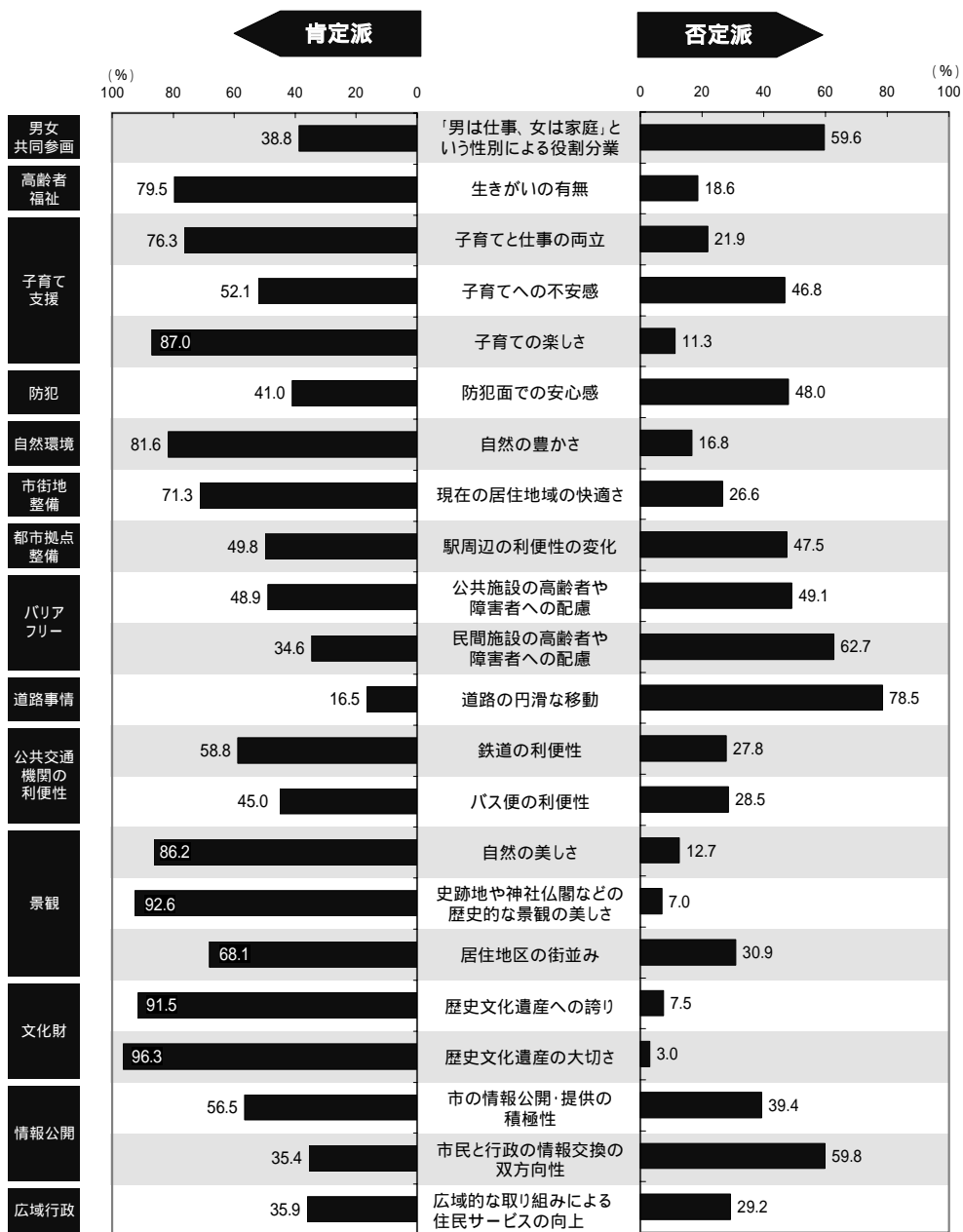
日ごろの暮らしや行動に対する意識の質問については、次のような傾向がみられた。

#### A：『否定派』が『肯定派』に比べ多い

「問 33 . 道路の円滑な移動」、「問 32 . 民間施設の高齢者・障害者に対する配慮」、「問 49 . 市民と行政の情報交換の双方向性」、「問 13 . 男は仕事、女は家庭という性別による役割分担」、「問 23 . 防犯面での安心感」

#### B：『否定派』と『肯定派』が拮抗

「問 31 . 公共施設の高齢者・障害者に対する配慮」、「問 29 . 駅周辺の利便性の変化」



---

#### 4．歴史と文化の環境税

歴史と文化の環境税の取組みに対する評価者は過半数を占めるが、非評価者も2割以上もみられた。

評価する人の理由では、「歴史的文化遺産の保全・整備に活かされる」(54.7%)、「観光資源・設備の保全・整備によってサービスが充実する」(49.6%)、「まちづくりに独自の財源は必要である」(49.3%)など多岐にわたり、評価しない人は、「新たに財源を求めるよりも、経費を抑えることを進めるべきである」(56.5%)という理由が中心であった。

#### 5．これからのまちづくり

『九州国立博物館』を生かしたまちづくりでは、『自然・歴史的景観や街並みを守り、太宰府らしい景観づくりを進める』、『九州国立博物館に関するイベント開催、様々な情報提供』の必要派(「必要だと思う」「やや必要だと思う」の合計)が8割以上を占めた。

また、すみよいまちになるための施策では、『とにかく歳出の無駄をなくして納税者の負担を軽減する』、『事故や災害、犯罪のない安心して生活できるまちづくりを進める』ことの優先度(=「最優先で取り組むべき」+「今までより力を入れて取り組む」の合計)が8割以上を占めた。

## 第 3 章 詳細調査結果

### 第3章 詳細調査結果

#### 第1節 回答者の属性

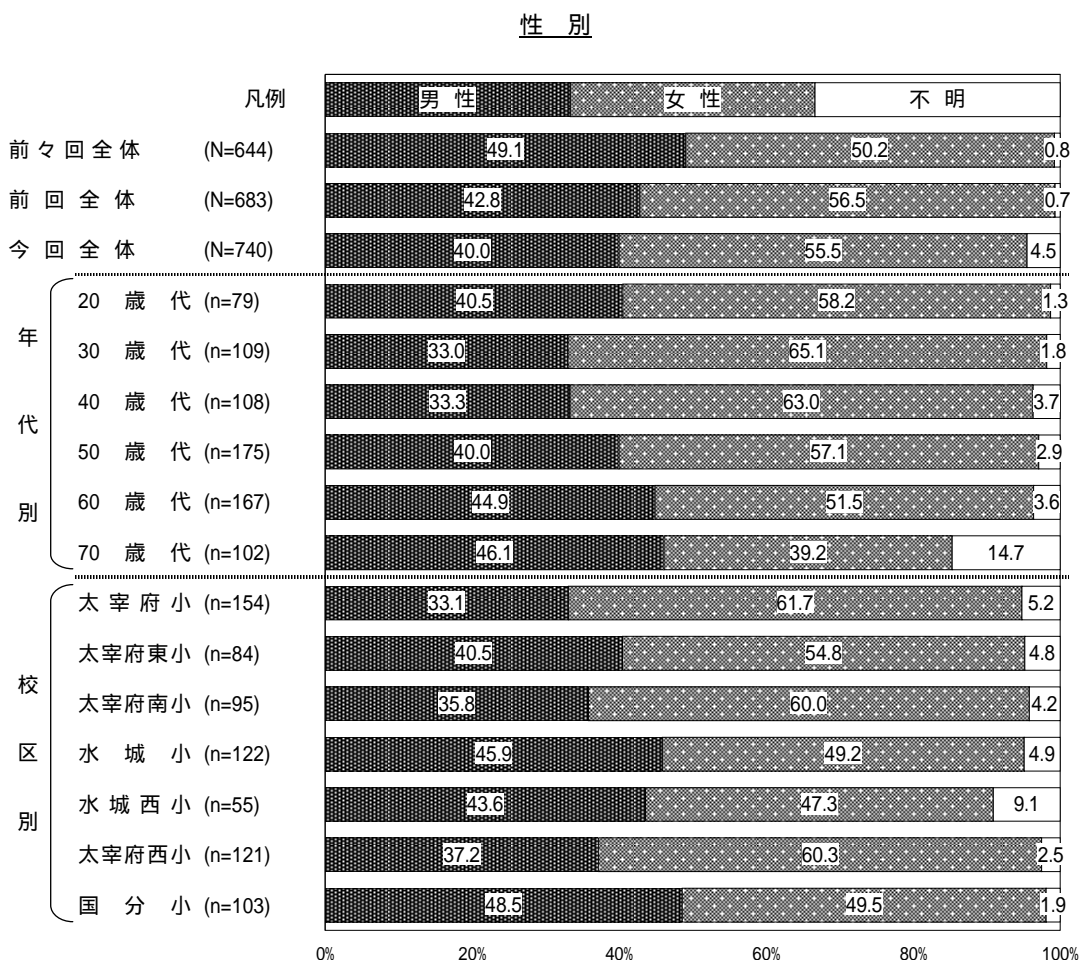
##### 1. 性別（問1）

全体では、「女性」が「男性」を上回っており、30～40歳代でその傾向が強い。

性別をみると、「男性」40.0%、「女性」55.5%であり、前回、前々回に比べ「男性」の回答者の比率が減少している。

年代別でみると、70歳以上では「男性」が「女性」を上回っているが、20歳代～60歳代は「女性」の方が多い。特に30歳代、40歳代は男性の回答者が3割台にとどまっている。

校区別でみると、各地区とも「女性」が「男性」を上回り、太宰府小学校区、太宰府南小学校区、太宰府西小学校区では男性が3割台にとどまっている。



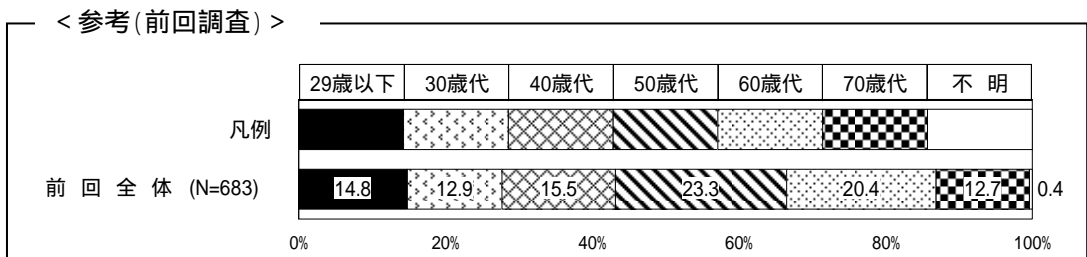
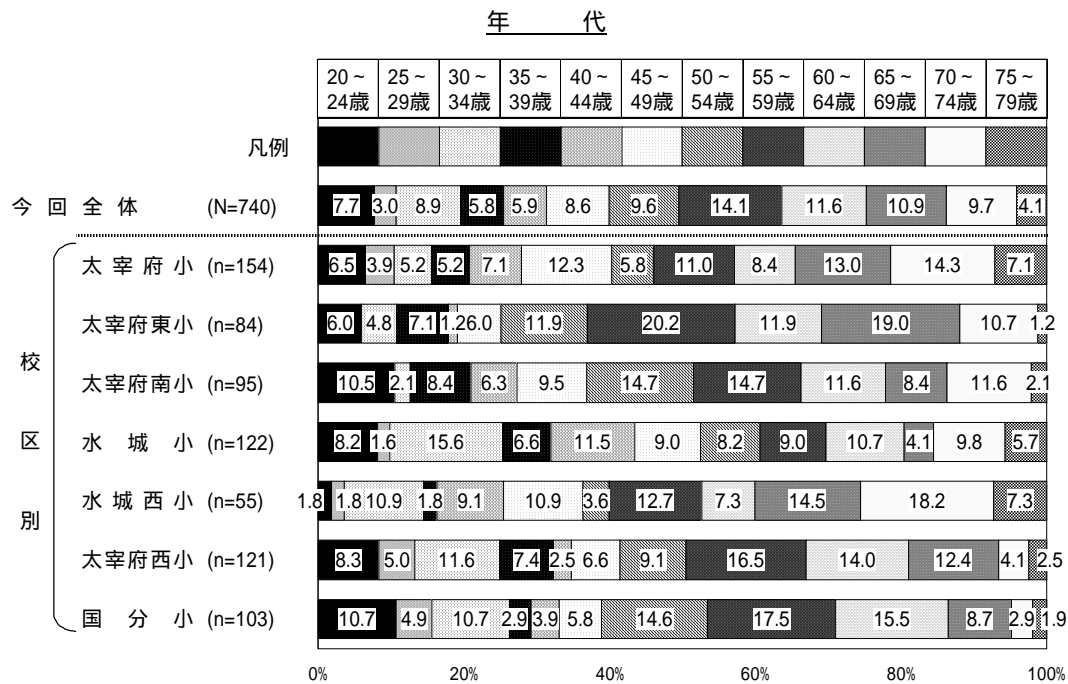


## 2. 年齢（問2）

全体では、50～60歳代が4割強を占める。

年齢をみると、「50歳代」が23.7%、「60歳代」が22.5%と高く、全体の4割強を占めている。前回と比べても、この傾向は変わらない。

校区別でみると、水城西小学校区は若年層の回答者が少なく、「60歳代以上」が約半数を占める。



### 3. 世帯構成（問3）

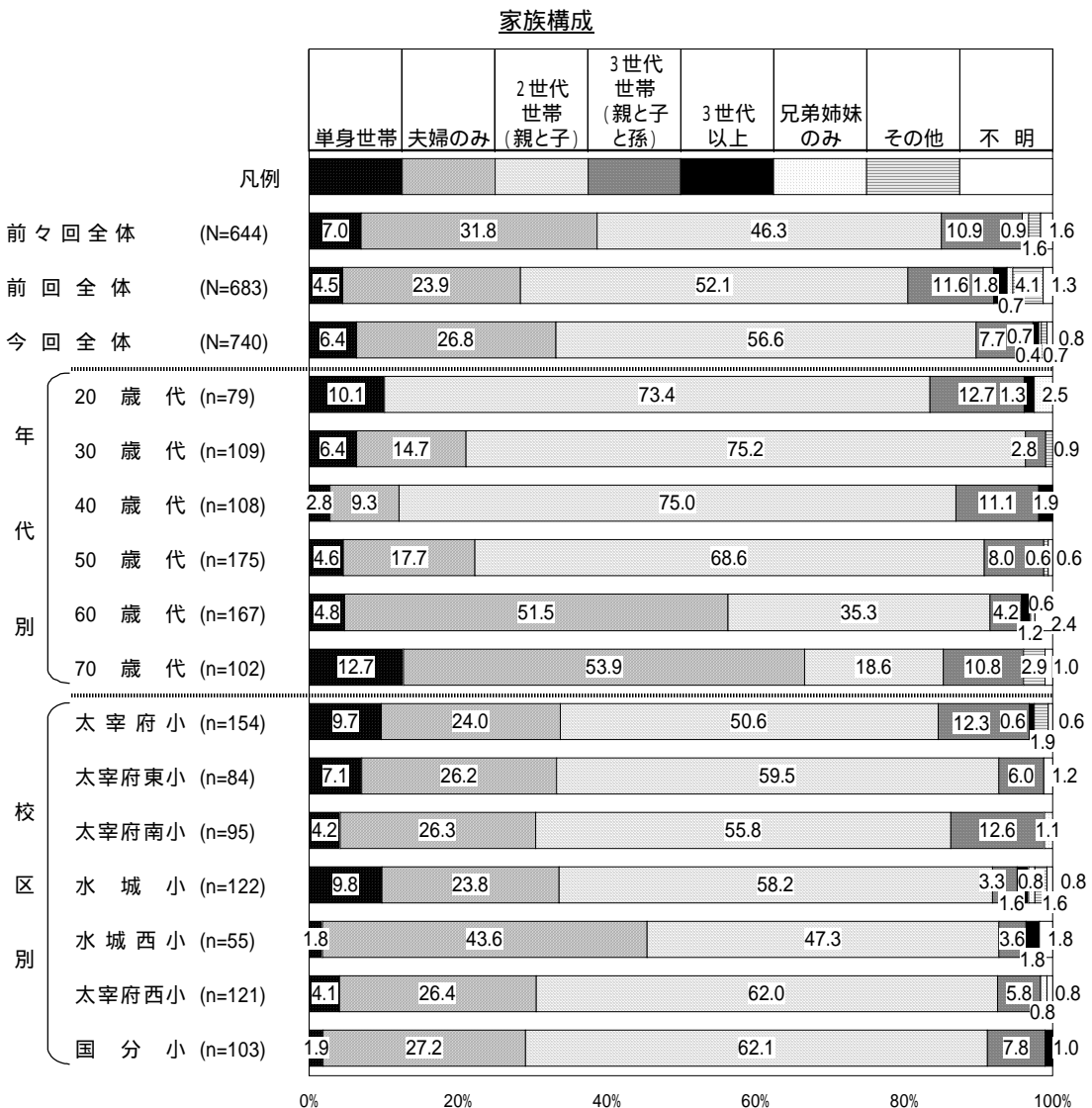
全体では、「夫婦のみ」「親子2世代」の核家族が多い。  
60歳代以上では、「夫婦のみ」が過半数を占める。

世帯構成をみると、「夫婦のみ」(26.8%)、「親子2世代」(56.6%)といった核家族が多くみられる。

時系列でみると、前回に比べ「夫婦のみ」、「親子2世代」が増加しているが、大きな差はみられない。

年代別でみると、20歳代～50歳代までは「親子2世代」が中心であり、各年代とも7割程度を占める。また、年代が高いほど「夫婦のみ」の世帯が多くなり、60歳以上では過半数を占める。

校区別でみると、各地区とも「親子2世代」が中心であるが、水城西小学校区では「夫婦のみ」の世帯が他の校区に比べ相対的に高くなっている。



4. 職業（問4）

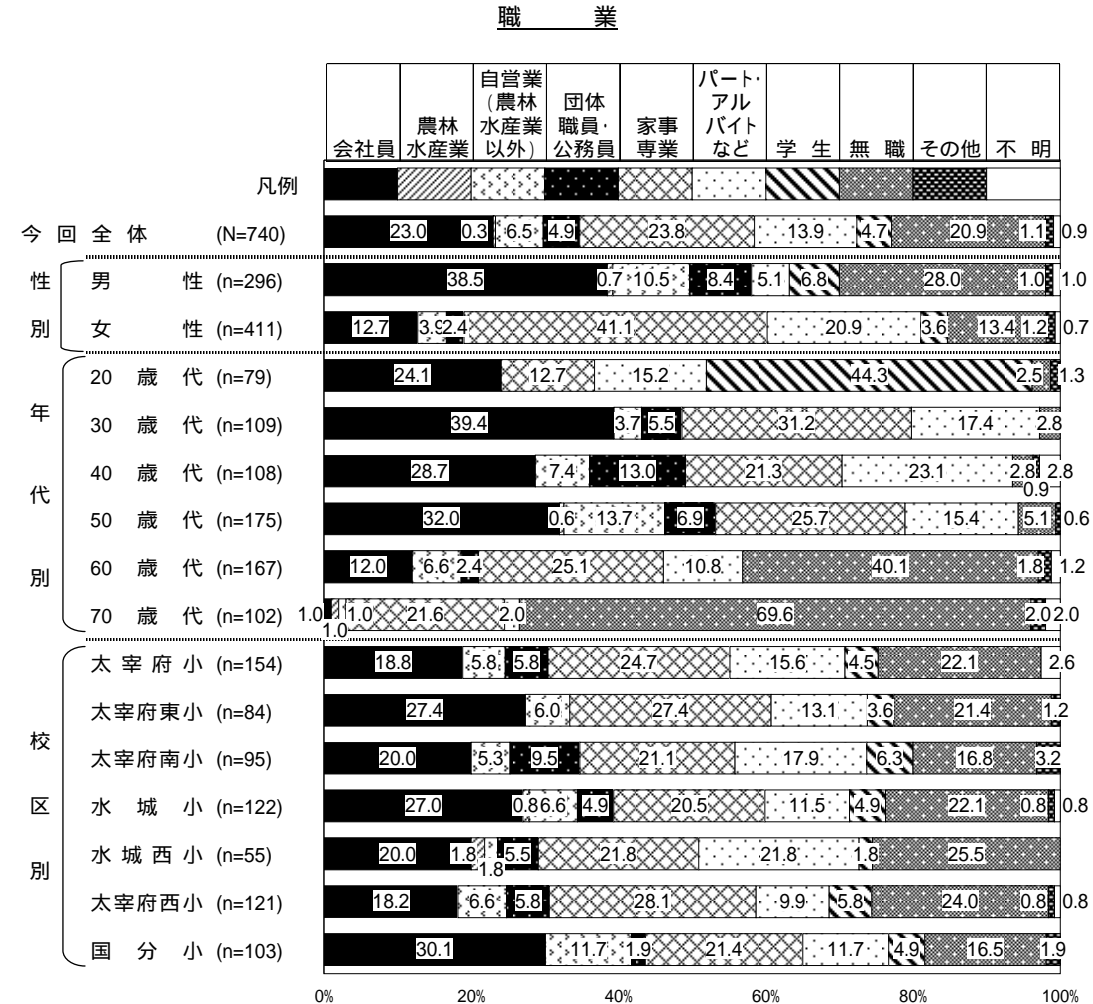
全体では、「家事専業」、「会社員」、「無職」の回答者が多い。  
20歳代は「学生」が4割、70歳以上は「無職」が約7割を占める。

職業をみると、「家事専業」が23.8%と最も高く、以下「会社員」(23.0%)、「無職」(20.9%)と続いている。

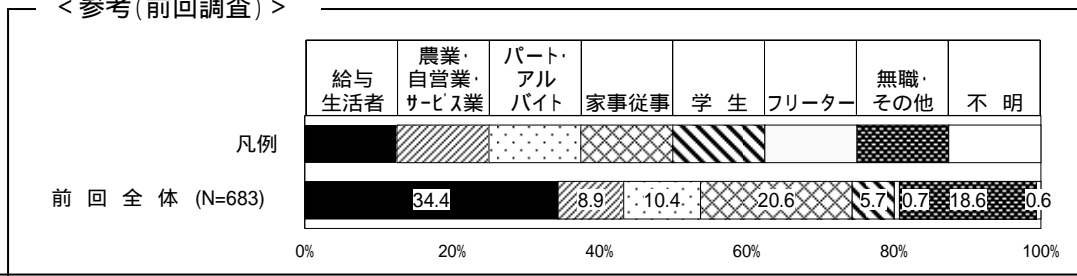
性別でみると、男性は「会社員」、女性は「家事専業」が最も多い。

年代別でみると、20歳代は「学生」が4割以上を占め、30歳代～50歳代は「会社員」が最も多い。また、60歳代以上になると、「無職」が最も多く、70歳代では「無職」が約7割を占める。

校区別でみると、国分小学校区で「会社員」の割合が他の地区に比べ相対的にやや高いものの、どの地区ともほぼ同様の傾向を示している。



< 参考 (前回調査) >



5 . 通勤・通学先（問4付問）

全体では、「福岡市」への通勤・通学者が3割を占める。  
市内の通勤者は40歳代、太宰府小学校区、水城西小学校区で多い。

通勤・通学先をみると、「福岡市」が31.7%と最も高く、次いで「太宰府市」(23.9%)となっている。なお、太宰府市を含めた筑紫地域内の通勤通学者は42.0%である。

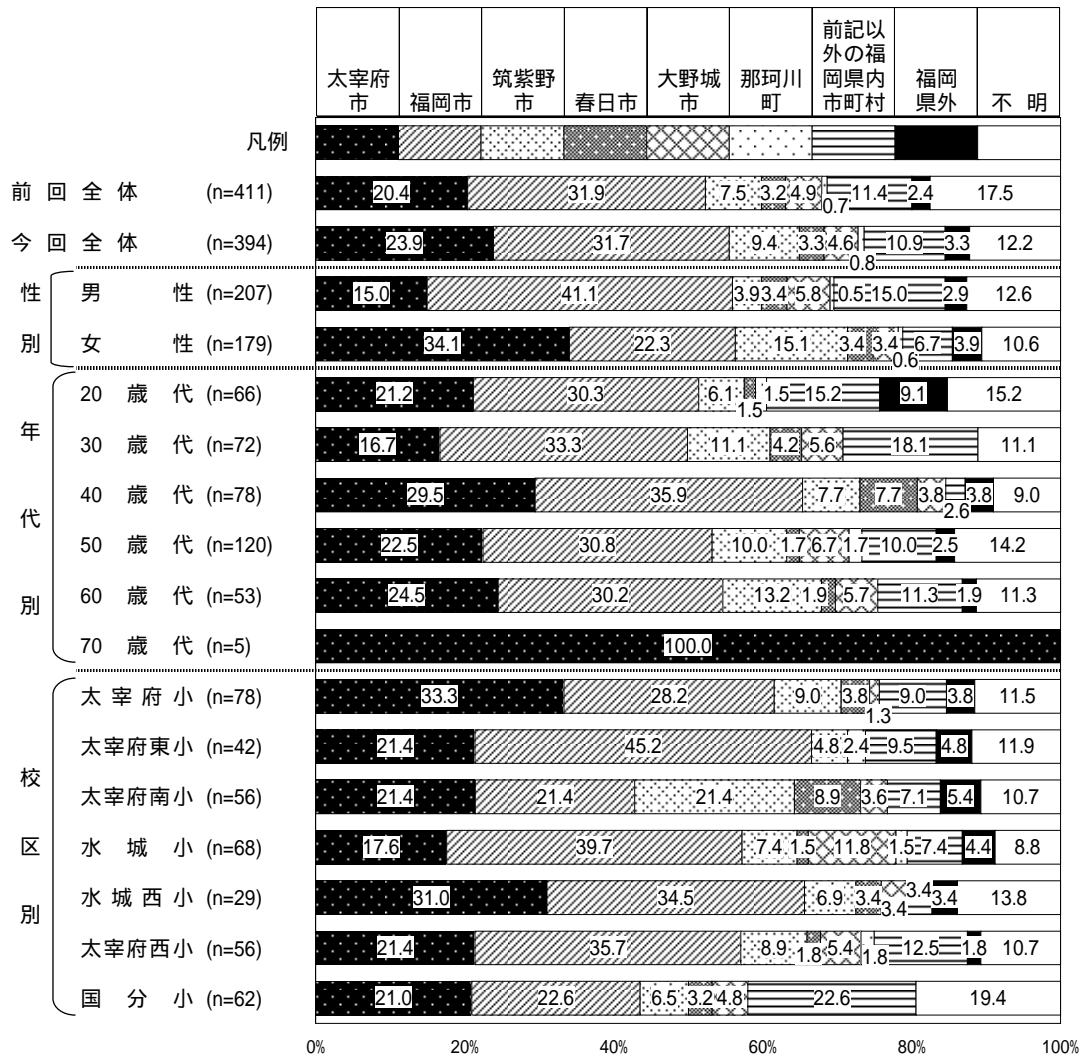
前回と比較すると、太宰府市を含めた筑紫地域内の通勤・通学者の割合が増加している。

性別でみると、男性は「福岡市」、女性は「太宰府市」が最も多い。

年代別でみると、「太宰府市」は40歳代が他の年代に比べ相対的に多くなっている。

校区別でみると、「太宰府市」は太宰府小学校区、水城西小学校区、「福岡市」は太宰府東小学校区、水城小学校区で相対的に多くなっている。

通勤・通学先



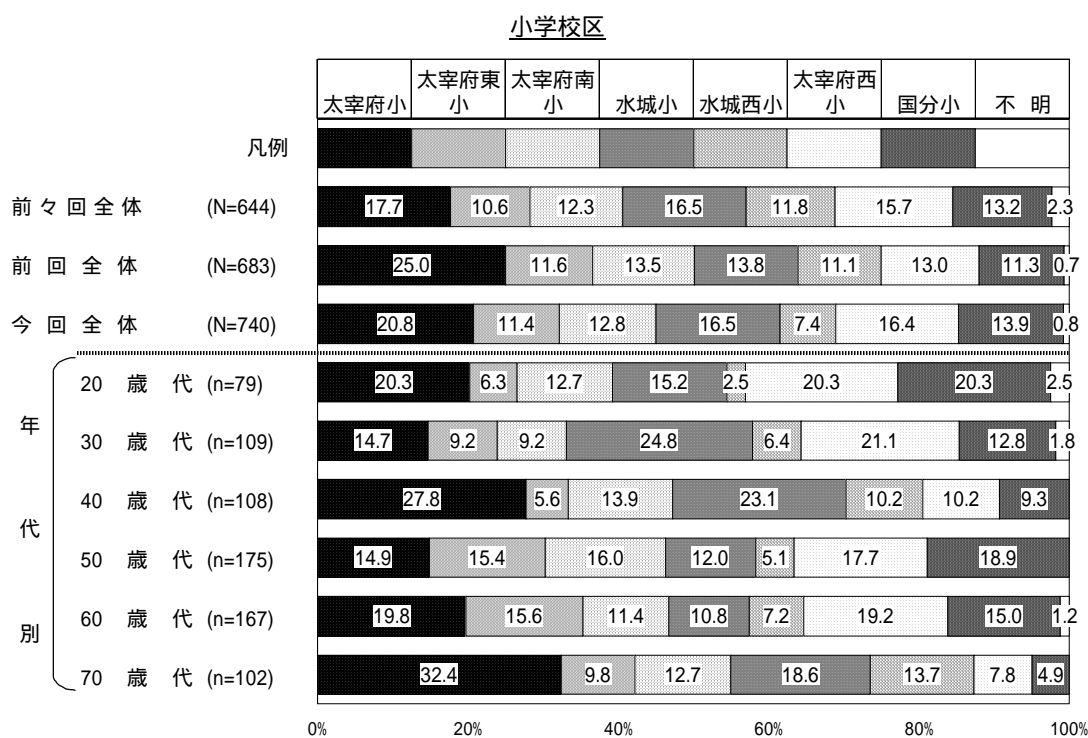
## 6 . 居住地域 ( 問 5 )

### ( 1 ) 小学校区

全体では、「太宰府小学校区」が2割を占め最も多い。

居住地域をみると、「太宰府小学校区」( 20.8% ) が最も多く、「水城西小学校区」( 7.4% ) が最も少ないが、他の地区についてはかなり分散している。

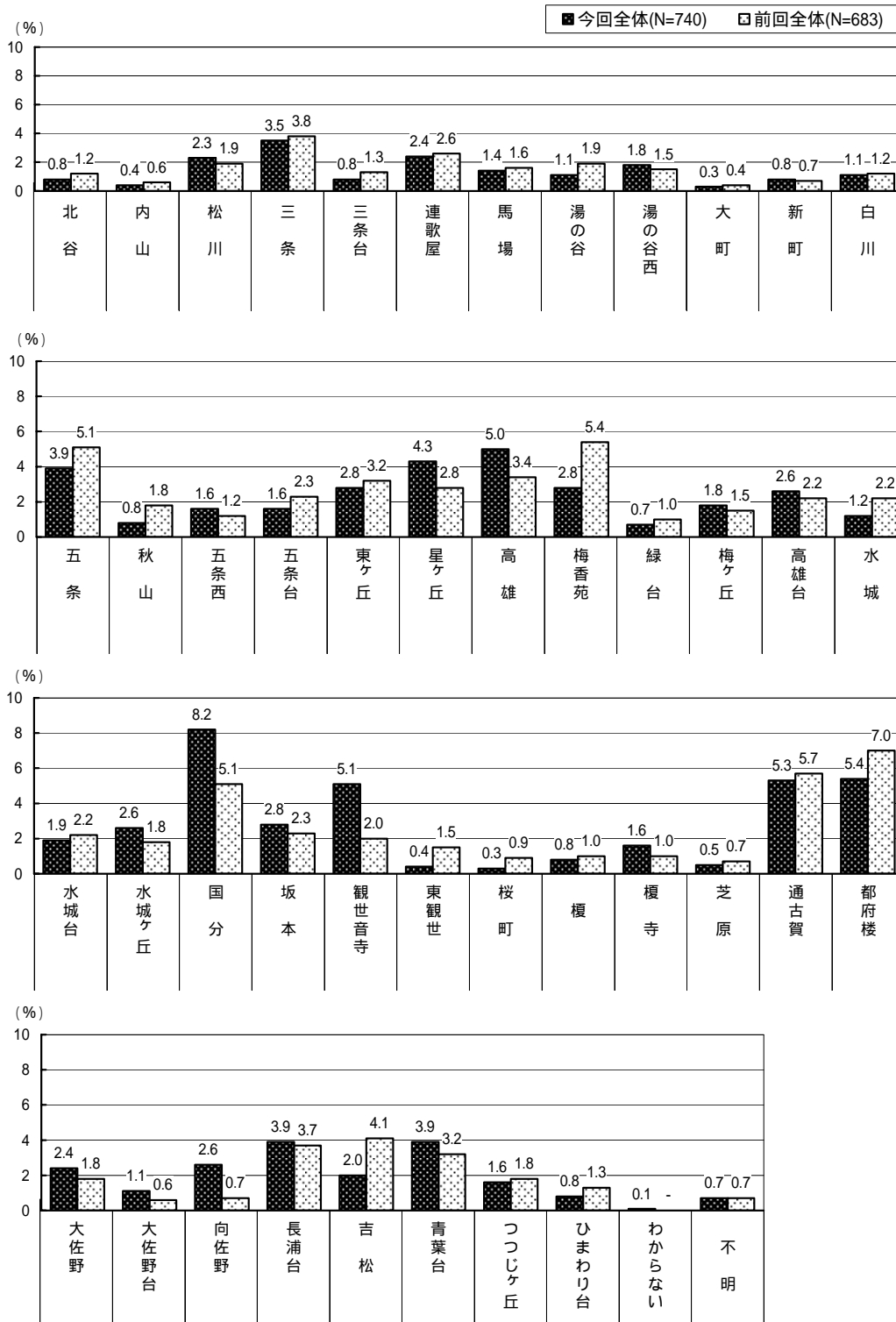
時系列でみると、前回と比較すると「太宰府小学校区」の割合が若干低くなっているが、前々回を含め大きな差はみられない。



(2) 行政区

行政区をみると、「国分」が8.2%と最も高く、次いで「都府楼」(5.4%)、「通古賀」(5.3%)、「観世音寺」(5.1%)、「高雄」(5.0%)、「星ヶ丘」(4.3%)と続いている。逆に低いのは「大町」(0.3%)、「桜町」(各0.3%)、「内山」(0.4%)、「東観世」(各0.4%)、「芝原」(0.5%)である。

行政区



7. 居住年数 (問6)

全体では、居住年数がかなり分散している。

居住年数を見ると、「10年以上～15年未満」(19.3%)が最も多く、次いで「15年以上～20年未満」(18.8%)、「25年以上」(18.6%)となっているが、かなり分散している。

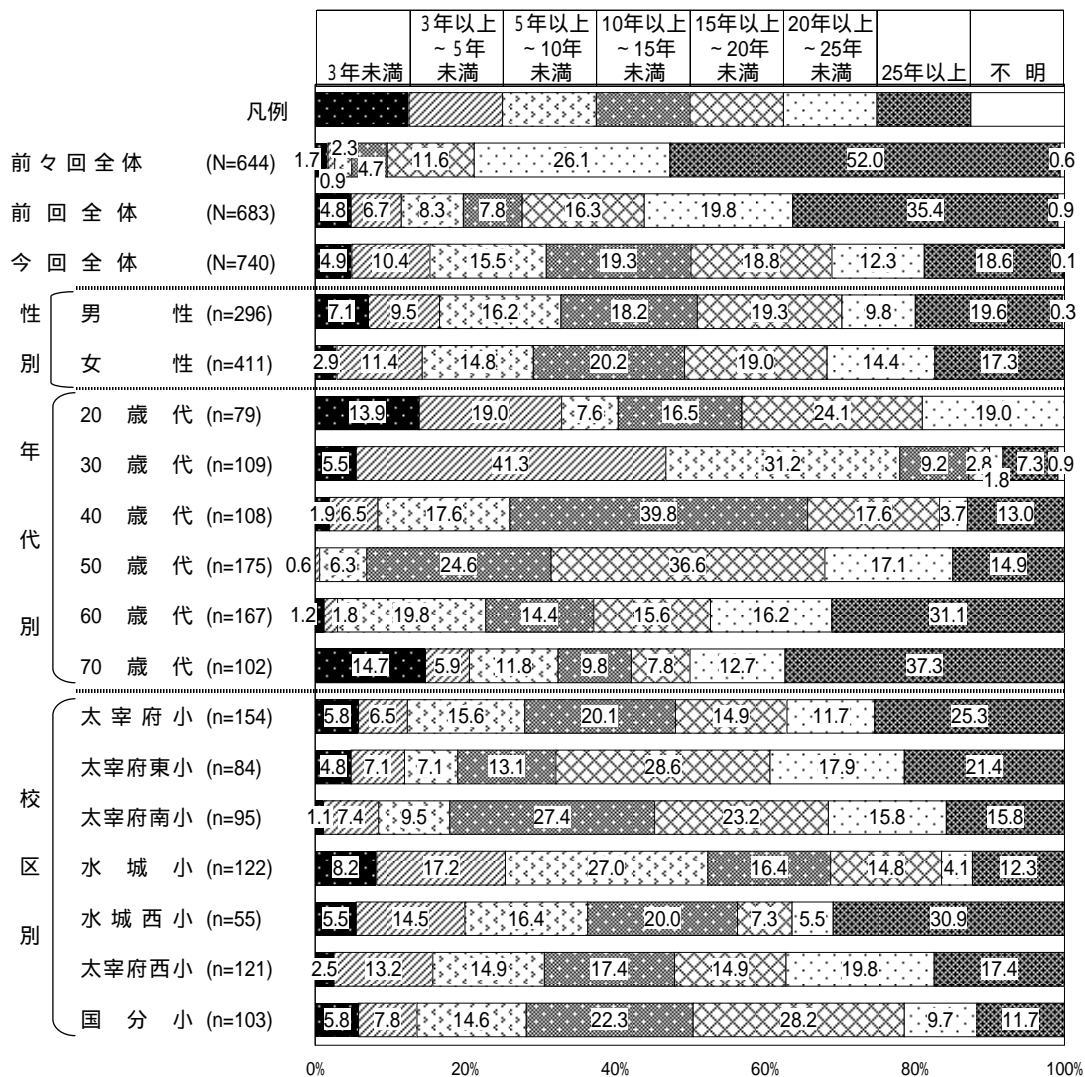
時系列で見ると、20年未満の居住者がかなり増加している。

性別で見ると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

年代別で見ると、30歳代は『10年未満』が約8割を占め、他の年代と傾向が大きく異なる。

校区別で見ると、水城小学校区は10年未満の居住者が特に多く、5割を占めている。一方、水城西小学校区は25年以上の居住者が特に多く、約3割を占めている。

居住年数



8 . 住居形態 ( 問 7 )

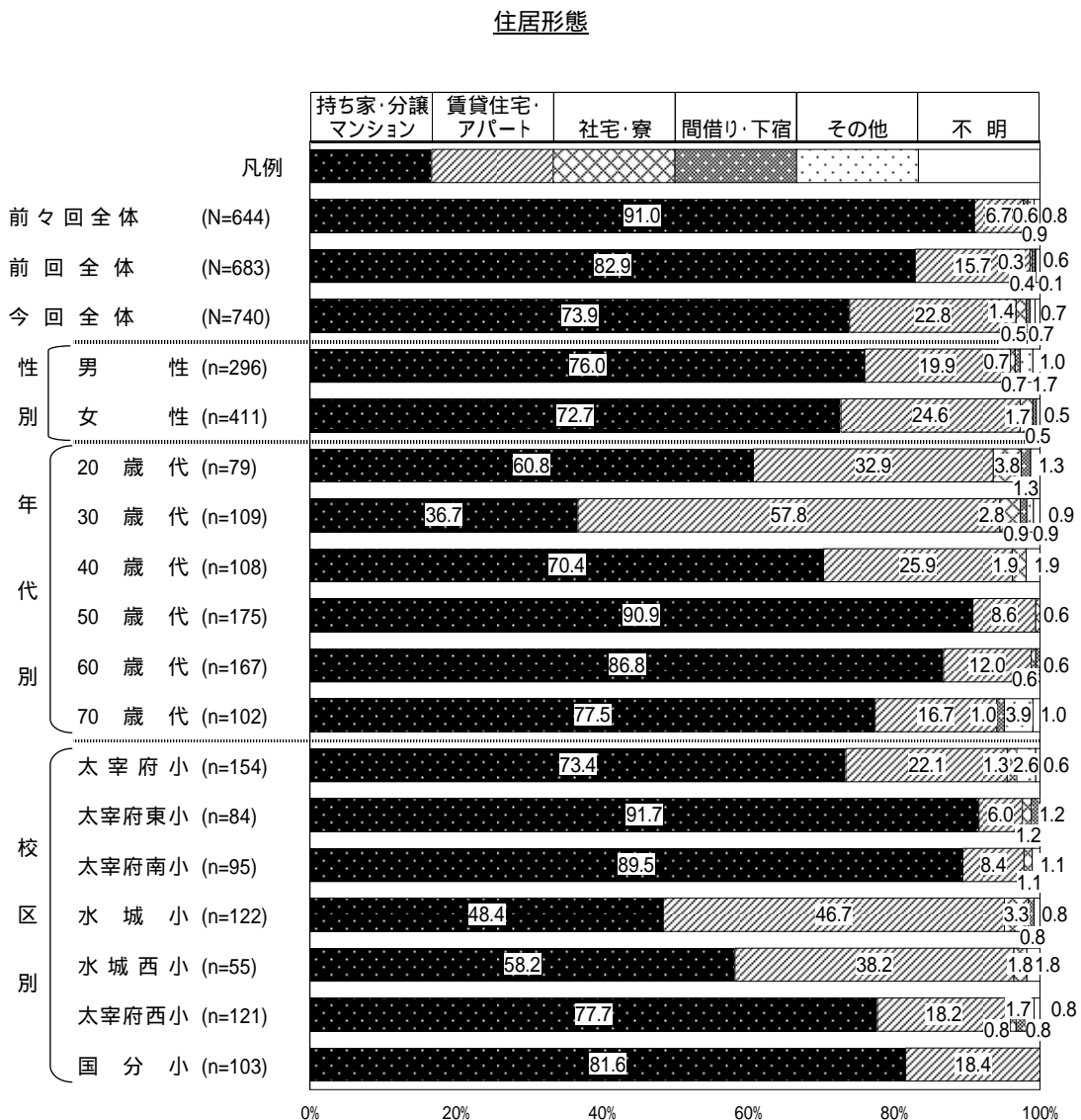
全体では、「持ち家・分譲マンション」が中心である。

住居形態をみると、「持ち家・分譲マンション」(73.9%)が中心であり、次いで「賃貸住宅・アパート」(22.8%)となっている。

時系列でみると、「持ち家・分譲マンション」は減少しており、その分「賃貸住宅・アパート」が増加している。

年代別でみると、30歳代は「賃貸住宅・アパート」が約6割を占め、他の年代と傾向が大きく異なる。

校区别でみると、各校区とも「持ち家・マンション」が最も多いものの、水城小学校区・水城西小学校区では「賃貸住宅・アパート」の居住者が多くなっている。





## 第2節 「まちの住みやすさ」について

### 1. 住みやすさの評価（問8）

全体では、満足派(=住みやすいと感じている人)が7割以上を占める。

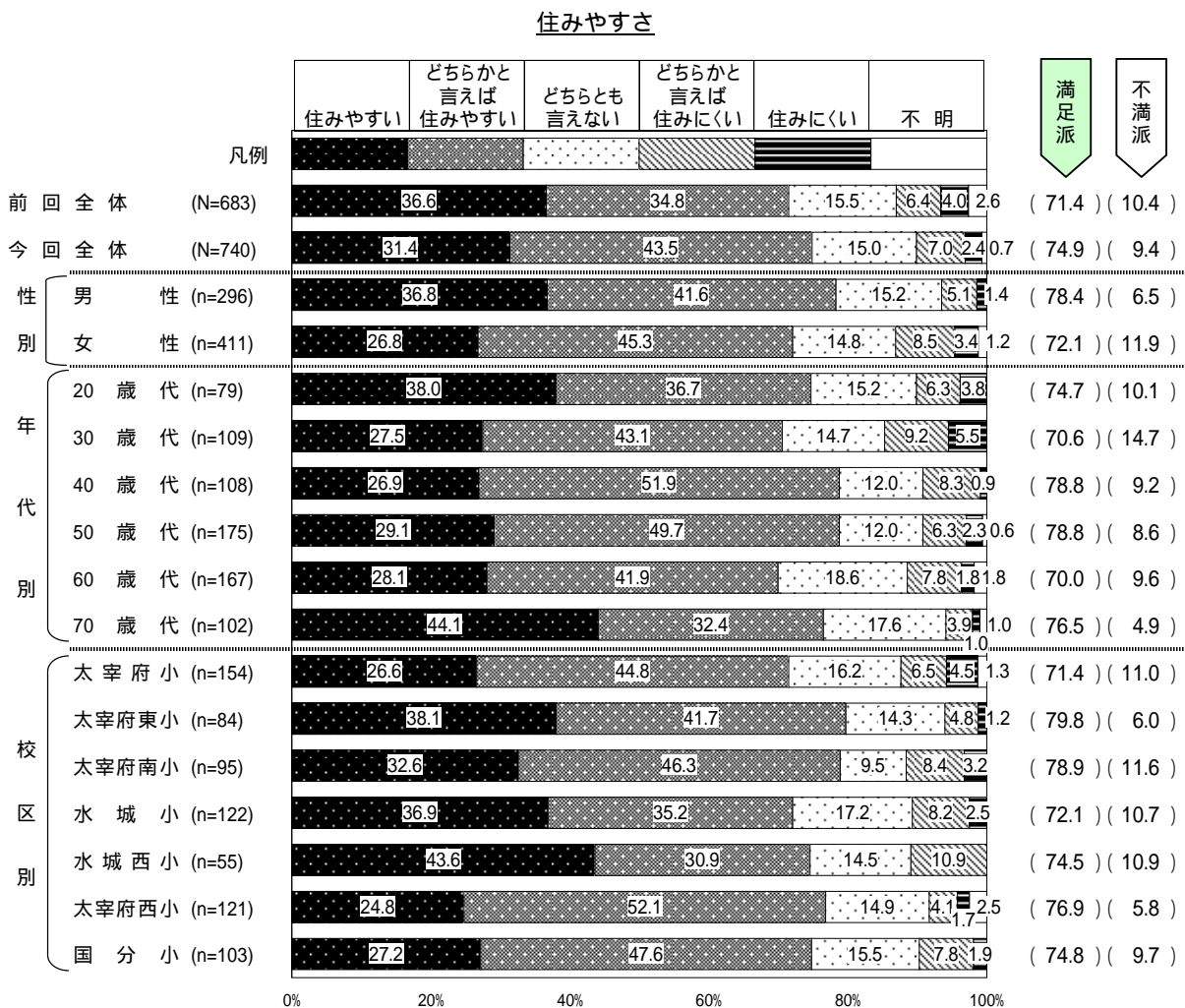
太宰府市の住みやすさをみると、「住みやすい」は31.4%、「どちらかと言えば住みやすい」は43.5%であり、両者を合わせた満足派が7割以上を占める。一方、「住みにくい」「どちらかと言えば住みにくい」と回答した不満派は1割程度(9.4%)にとどまっている。なお、「どちらともいえない」は15.0%となっている。

前回と比較すると、満足派がやや増加している。

性別でみると、男性が女性に比べ満足度が高い。

年代別でみると、40～50歳代において満足派が多く、逆に30歳代、60歳代の満足派が少ない。

校区别でみると、太宰府東小学校区、太宰府南小学校区は満足派が8割近くを占めるもの、どの地区とも満足派が7割台を占めている。



2. 継続居住意向（問9）

全体では、「住みたい」が「住みたくない」を大きく上回る。

太宰府市での継続居住意向をみると、「住みたい」が63.6%となっており、「住みたくない」（10.4%）を大きく上回っている。なお、「わからない」は25.4%で約4人中1人を占める。

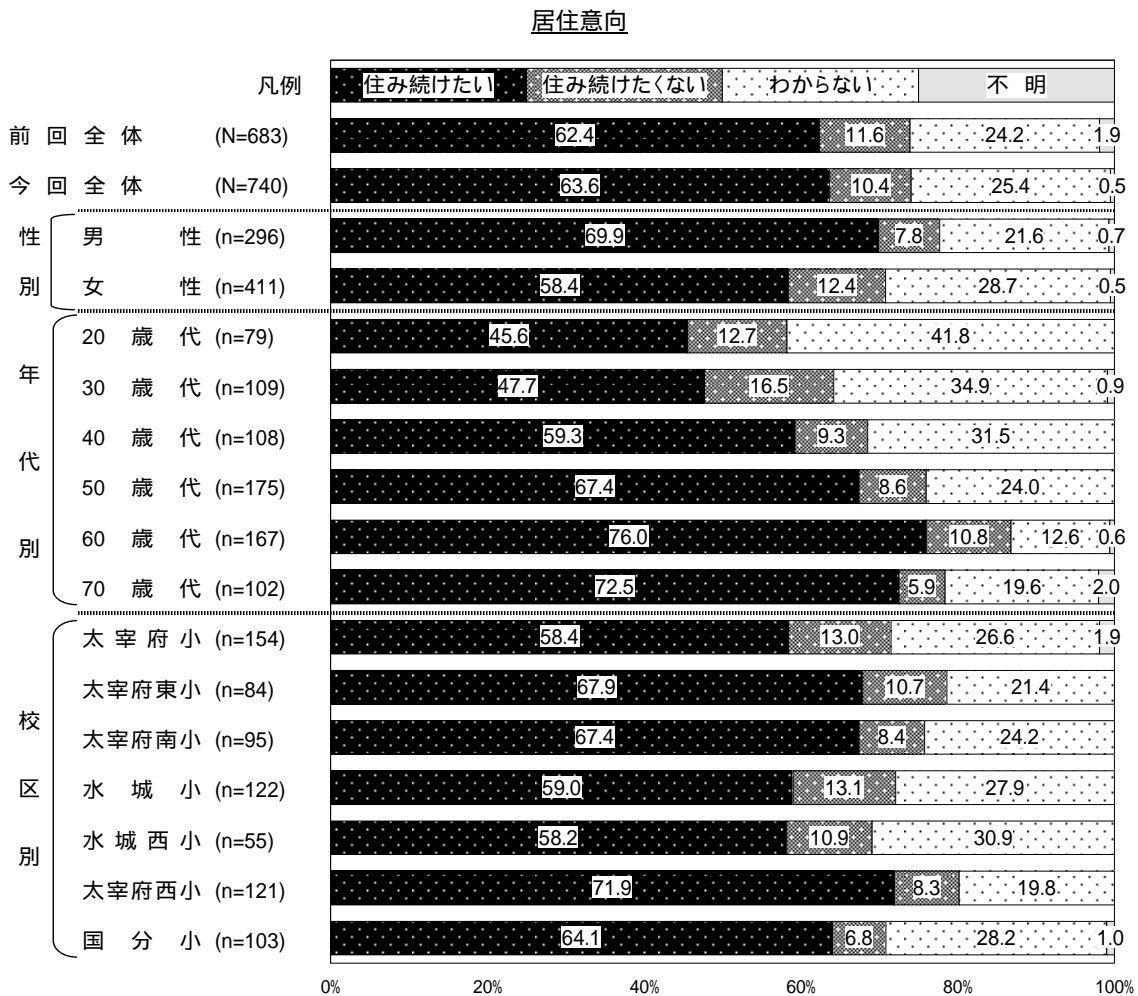
前回と比較しても、ほぼ同様の傾向を示している。

性別でみると、男性が女性に比べ継続居住意向の比率が高い。

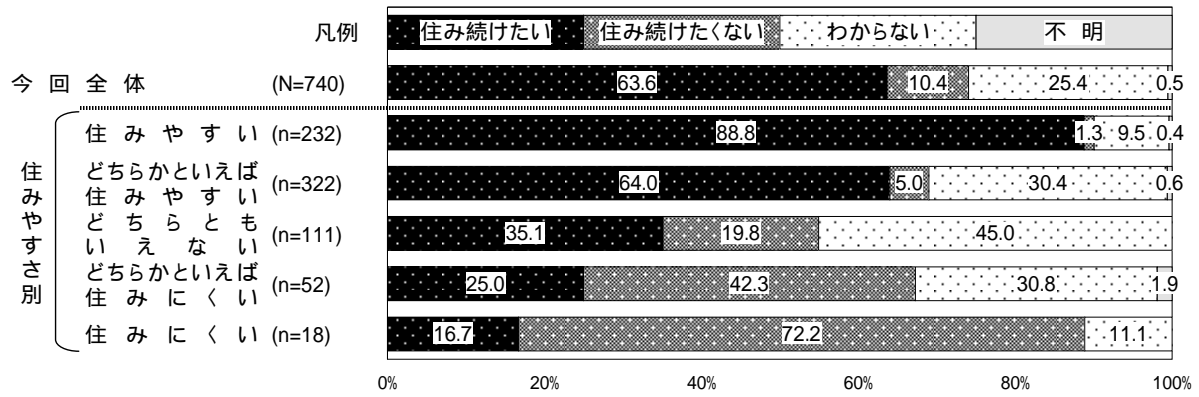
年代別でみると、年代が高くなるとともに、継続居住意向の比率が高くなっている。

校区别でみると、継続居住意向は「太宰府西小学校区」が71.9%で最も高く、次いで「太宰府東小学校区」（67.9%）、「太宰府南小学校区」（67.4%）となっている。

住みやすさ別でみると、住みやすさの程度が高いほど「住みたい」と回答しており、「住みやすい」と答えた人の約9割を占めている。



### 居留意向



### 3. 住み続けたい理由（問9付問1）

全体では、1位：「自宅周辺の環境がよい」2位：「史跡や文化財が身近にある」3位：「友人・知人が多い」となっている。

太宰府市に住み続けたいと回答した人（471人）の理由をみると、「自宅周辺の環境がよい」が60.9%で最も高く、以下「史跡や文化財が身近にある」（45.2%）、「友人・知人が多い」（36.1%）、「通勤通学の便がよい」（25.9%）、「まちの知名度が高い」（21.9%）、「公園や街路樹など緑が多い」（21.4%）と続いている。

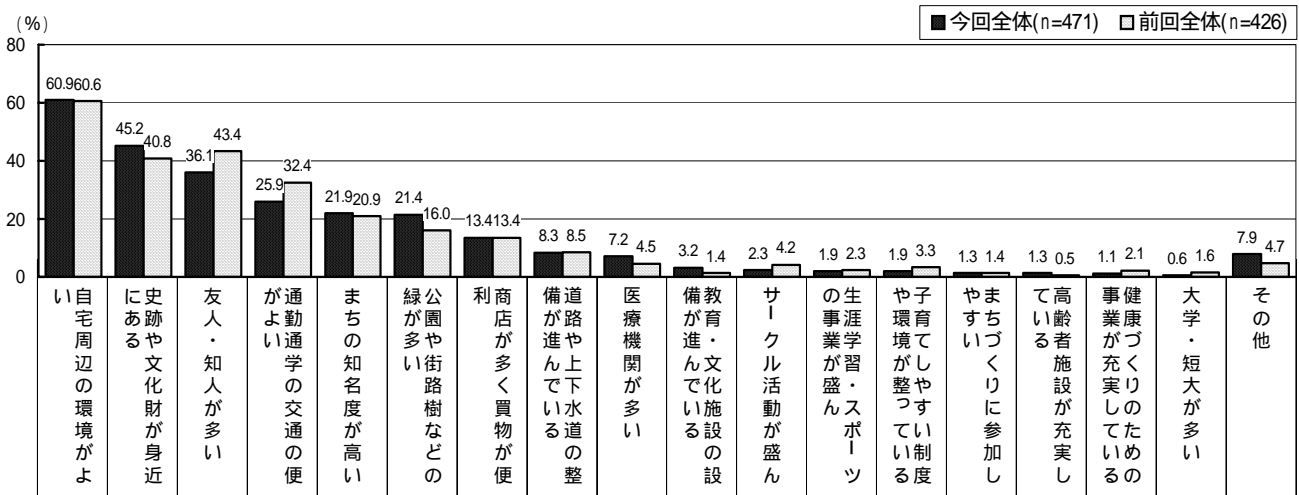
前回と比較しても、ほぼ同様の傾向を示している。

性別でみると、男女とも「自宅周辺の環境がよい」という理由が最も多いが、男性は「史跡や文化財が身近にある」、「まちの知名度が高い」、女性は「友人・知人が多い」、「公園や街路樹など緑が多い」という理由をあげる人が多い。

年代別でみると、20歳代は「友人・知人が多い」、30歳代以上は「自宅周辺の環境がよい」という理由が第1位である。また、年代が上がるほど「史跡や文化財が身近にある」という理由をあげる人が多くなっている。

校区別でみると、水城小学校区・水城西小学校区の場合、「通勤通学の交通の便がよい」、水城西小学校区・太宰府西小学校区では「商店が多く買物が便利」、太宰府東小学校区では「自宅周辺の環境がよい」という理由が、他校区と比べ高くなっている。

住み続けたい理由



住み続けたい理由

数値：%

	サンプル数	自宅周辺の環境がよい	史跡や文化財が身近にある	友人・知人が多い	が通勤通学の交通の便	まちの知名度が高い	公園や街路樹などの緑が多い	利商店が多く買物が便利	道路や上下水道の整備が進んでいる	医療機関が多い	教育・文化施設の設備が進んでいる	サークル活動が盛ん	生涯学習・スポーツの事業が盛ん	子育てしやすい制度や環境が整っている	まちづくりに参加しやすい	高齢者施設が充実している	健康づくりのための事業が充実している	大学・短大が多い	その他	不明	
全 体	471	60.9	45.2	36.1	25.9	21.9	21.4	13.4	8.3	7.2	3.2	2.3	1.9	1.9	1.3	1.3	1.1	0.6	7.9	1.1	
性別	男 性	207	58.5	48.8	29.5	26.6	25.6	16.9	10.1	9.7	5.8	3.9	1.0	2.9	1.0	0.5	1.4	0.5	-	8.2	2.4
	女 性	240	61.7	41.7	42.5	27.1	18.8	24.2	15.4	6.7	7.5	2.9	3.3	1.3	2.9	2.1	0.8	1.7	1.3	7.5	-
年 代 別	20 歳 代	36	52.8	27.8	61.1	25.0	27.8	11.1	13.9	-	-	2.8	-	-	2.8	-	-	-	-	11.1	-
	30 歳 代	52	61.5	26.9	36.5	36.5	13.5	30.8	15.4	3.8	5.8	3.8	-	3.8	7.7	-	-	-	-	7.7	-
	40 歳 代	64	53.1	39.1	45.3	39.1	12.5	10.9	14.1	6.3	6.3	1.6	3.1	-	4.7	-	-	-	3.1	7.8	3.1
	50 歳 代	118	63.6	47.5	40.7	33.1	22.9	23.7	10.2	6.8	5.9	3.4	-	2.5	0.8	1.7	-	1.7	0.8	5.9	1.7
	60 歳 代	127	59.8	56.7	28.3	17.3	24.4	22.8	15.0	10.2	6.3	3.9	3.1	3.1	-	0.8	0.8	1.6	-	9.4	-
70 歳 代	74	68.9	48.6	21.6	10.8	27.0	23.0	13.5	16.2	16.2	2.7	6.8	-	1.4	2.7	6.8	1.4	-	6.8	1.4	
校 区 別	太 宰 府 小	90	52.2	44.4	38.9	24.4	22.2	17.8	13.3	7.8	11.1	3.3	5.6	1.1	2.2	4.4	2.2	3.3	-	8.9	2.2
	太 宰 府 東 小	57	73.7	52.6	40.4	19.3	24.6	28.1	5.3	7.0	12.3	1.8	-	1.8	-	-	-	-	-	1.8	-
	太 宰 府 南 小	64	68.8	48.4	34.4	18.8	25.0	18.8	6.3	7.8	6.3	3.1	6.3	3.1	1.6	1.6	-	1.6	1.6	7.8	1.6
	水 城 小	72	61.1	48.6	37.5	50.0	13.9	25.0	15.3	2.8	9.7	2.8	-	1.4	4.2	-	4.2	-	2.8	2.8	-
	水 城 西 小	32	53.1	43.8	28.1	40.6	12.5	18.8	25.0	18.8	-	3.1	3.1	-	3.1	-	-	-	-	9.4	3.1
	太 宰 府 西 小	87	60.9	33.3	40.2	16.1	27.6	23.0	24.1	10.3	3.4	2.3	1.1	2.3	-	-	-	1.1	-	10.3	-
国 分 小	66	59.1	50.0	27.3	21.2	22.7	19.7	6.1	9.1	4.5	6.1	-	3.0	3.0	1.5	1.5	-	-	12.1	1.5	

#### 4. 住み続けたくない理由（問9付問2）

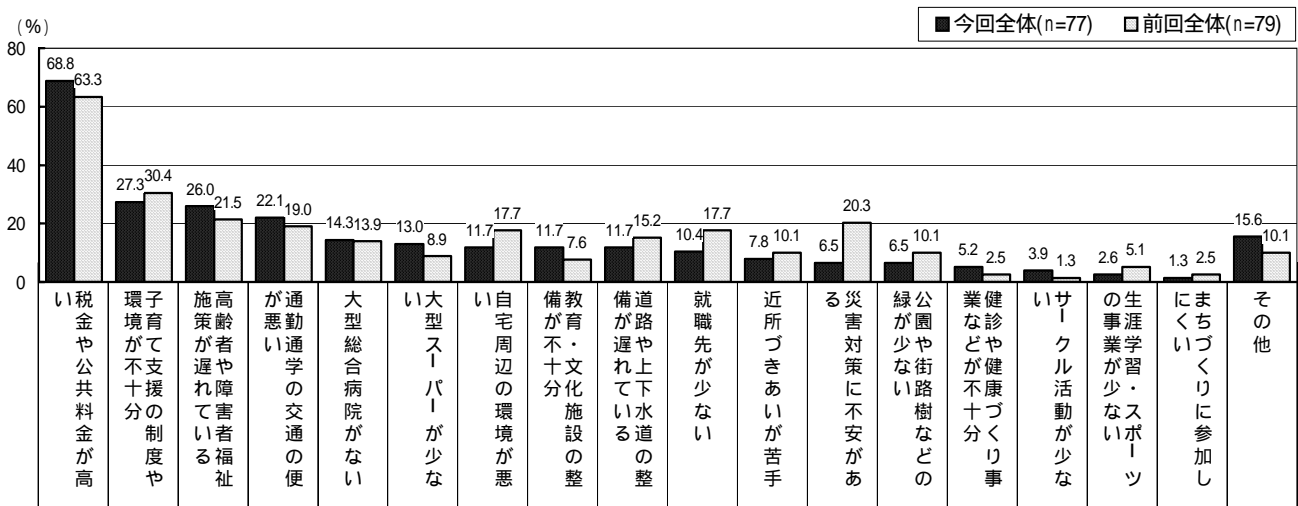
全体では、1位：「税金や公共料金が高い」2位：「子育て支援の制度や環境が不十分」3位：「高齢者や障害者福祉施設が遅れている」となっている。

太宰府市に住み続けたくないと回答した人（77人）の理由をみると、「税金や公共料金が高い」が68.8%で最も高く、以下「子育て支援の制度や環境が不十分」（27.3%）、「高齢者や障害者福祉施設が遅れている」（26.0%）、「通勤通学の便が悪い」（22.1%）と続いている。

前回と比較しても、ほぼ同様の傾向を示している。

性別・年代別・校区別については、サンプル数が少ないため、コメントは避ける。

住み続けたくない理由



### 第3節 「日ごろの暮らし、行動に対する意識等」について

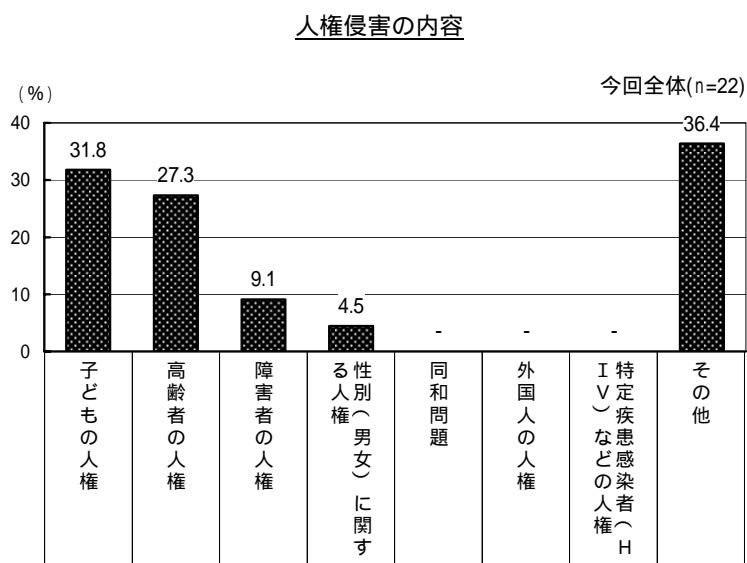
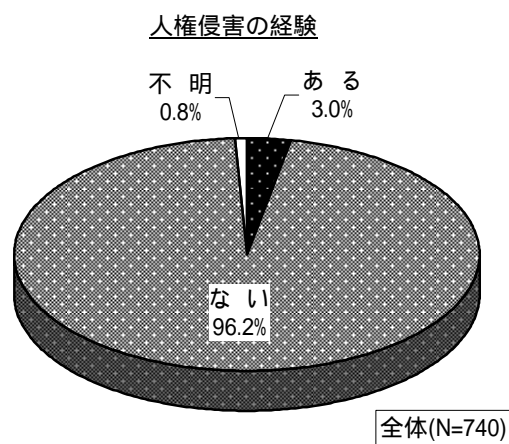
#### 1. 人権

##### (1) 人権侵害の経験と内容(問10、付問1)

全体では、人権侵害の経験者は少ないが、経験者の内容では「子どもの人権」、「高齢者の人権」が多くあがっている。

最近1年間における人権侵害の経験についてみると、全体では、「ある」が3.0%、「ない」が96.2%であり、大半は経験したことがないと回答している。

また、人権侵害を経験した人(22人)の内容をみると、「子どもの人権」(31.8%)、「高齢者の人権」(27.3%)が多くあがっている。



(2) 同和地区差別の認識 (問 11)

全体では、「中世から封建時代にかけて社会的・政治的に作られた」が約半数を占め最も多く、「わからない」、「同和問題自体を知らない」をあわせると約3割を占める。

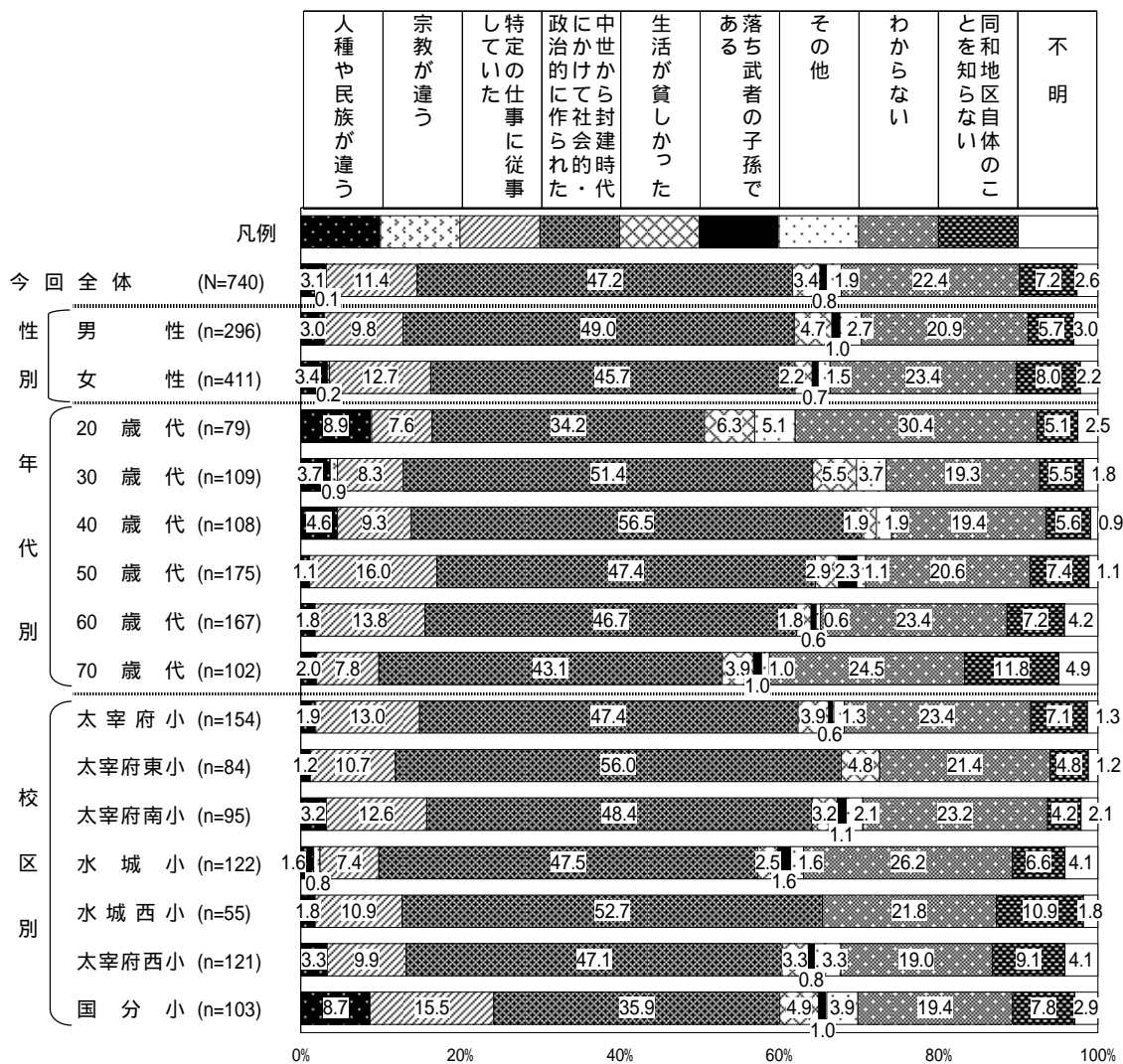
同和地区差別がおきた経緯についてみると、「中世から封建時代にかけて社会的・政治的に作られた」が47.2%で最も高く、次いで「特定の仕事に従事していた」(11.4%)となっている。なお、「わからない」は22.4%、「同和問題自体を知らない」は7.2%である。

性別でみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

年代別でみると、年代に係らず「中世から封建時代にかけて社会的・政治的に作られた」と答える人が最も多く、40歳代でその傾向が最も顕著である。また、50歳代で「宗教が違う」と回答する人が他の年代に比べ相対的に多い。

校区別でみると、校区に係らず「中世から封建時代にかけて社会的・政治的に作られた」と答える人が最も多くなっている。

同和地区の差別の認識





(3) 結婚の家柄、血筋に対する考え方(問12)

全体では、「不都合だから、なくしていかなければならないと思う」が6割を占めるが、「当然のことと思う(いつも気にしている)」と回答する人が1割ほどみられる。

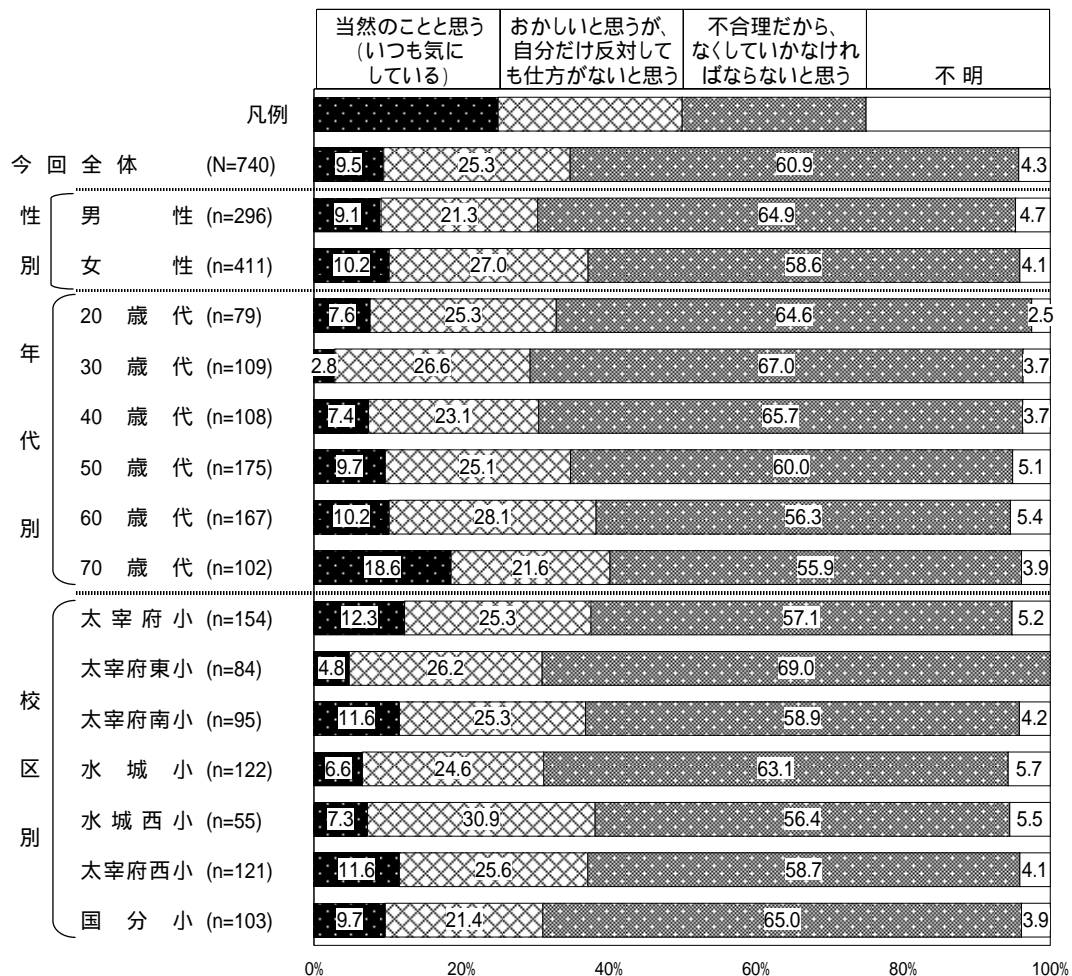
結婚の家柄、血筋に対する考え方についてみると、「不都合だから、なくしていかなければならないと思う」が60.9%で最も高く、次いで「おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う」(25.3%)となり、「当然のことと思う(いつも気にしている)」(9.5%)は1割となっている。

性別でみると、「当然のことと思う(いつも気にしている)」は性別に係らずほぼ同率である。

年代別でみると、年代に係らず「不都合だから、なくしていかなければならないと思う」と答える人が最も多く、年代が低いほどその傾向が強い。逆に、「当然のことと思う(いつも気にしている)」は年代が高くなるほど割合が高い。

校区別でみると、校区に係らず「不都合だから、なくしていかなければならないと思う」と答える人が最も多くなっている。

結婚の家柄、血筋に対する考え方



## 2. 男女共同参画

### (1) 固定的役割分担に対する考え方(問13)

全体では、『同感派』が約4割、『非同感派』が約6割である。  
男性が女性に比べ『同感派』が多く、年代が高いほどその傾向が強い。

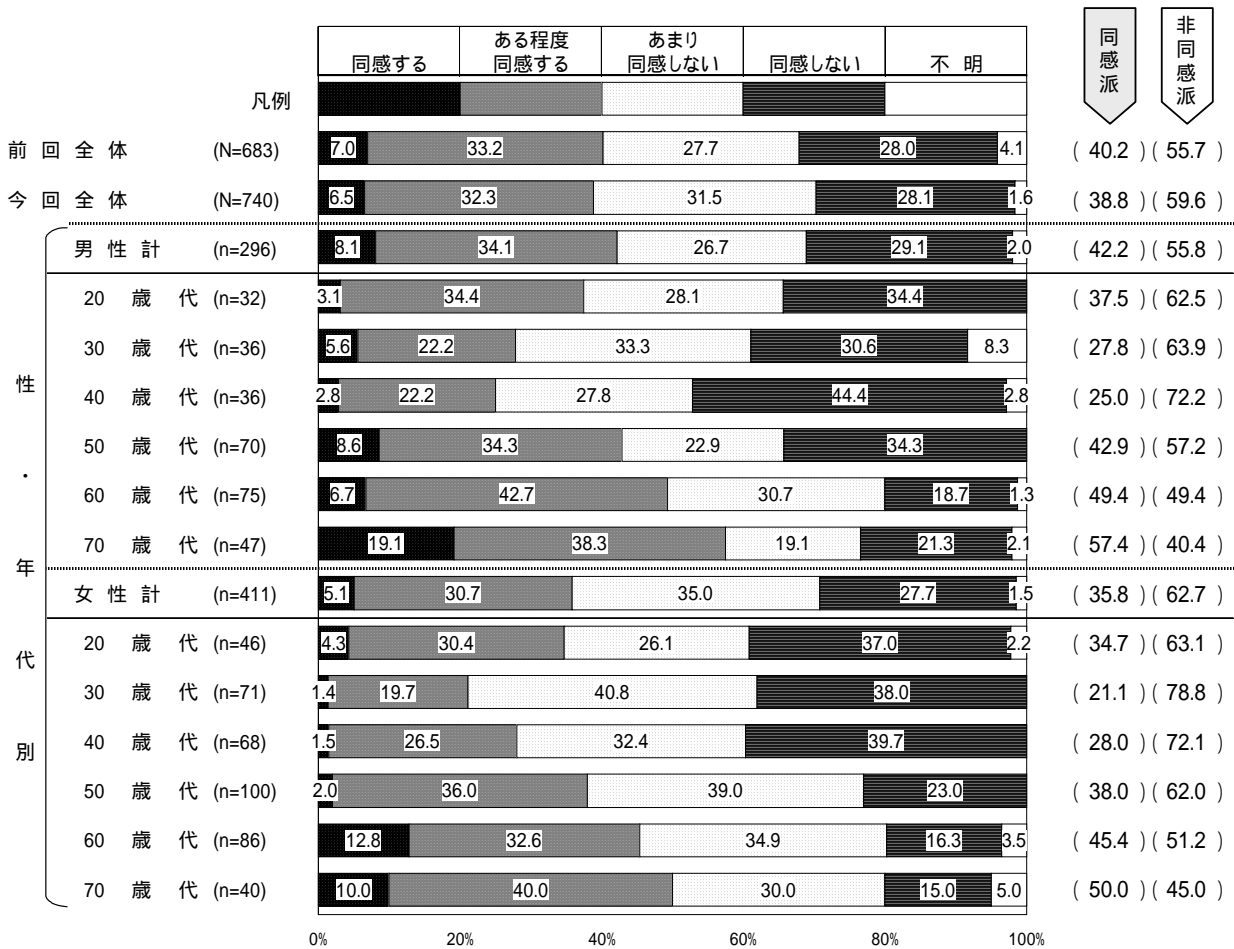
固定的役割分担に対する考え方についてみると、「同感する」が6.5%、「ある程度同感する」が32.3%と、これらを合わせた『同感派』が約4割を占める。一方、「あまり同感しない」(31.5%)、「同感しない」(28.1%)を合計した『非同感派』は約6割を占める。

前回と比較すると、大きな差はみられない。

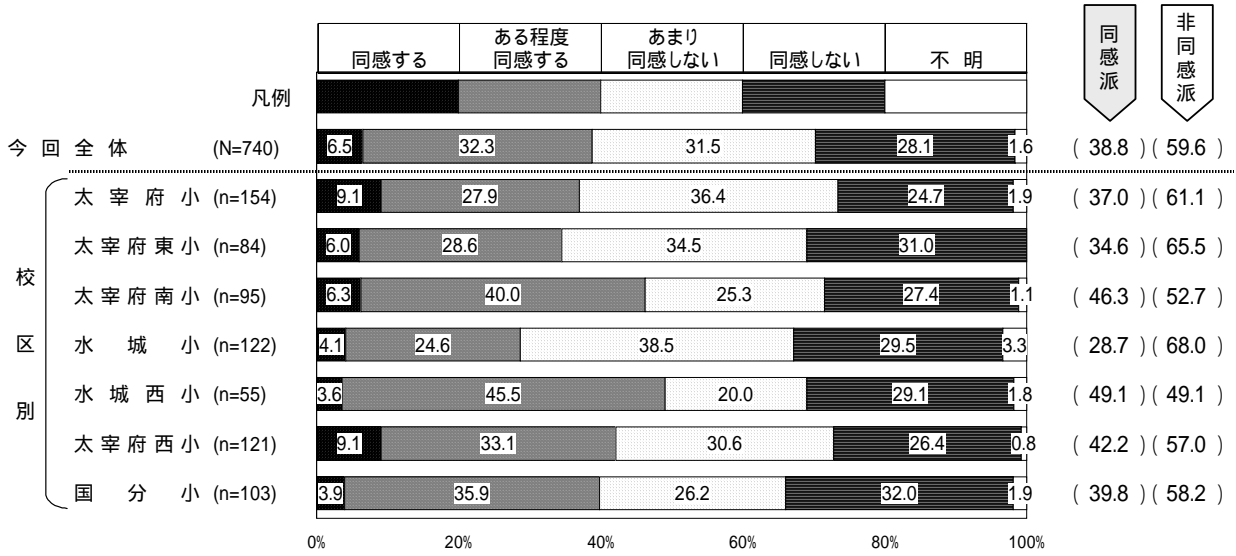
性・年代別でみると、男性が女性に比べ『同感派』が多くみられる。また、性別に係らず年代が高いほど『同感派』が多くなっており、男性70歳代は約6割を占める。

校区別でみると、水城西小学校区で『同感派』が他地区に比べ多くなっている。

固定的役割分担に対する考え方



固定的役割分担に対する考え方



### 3. 生涯学習

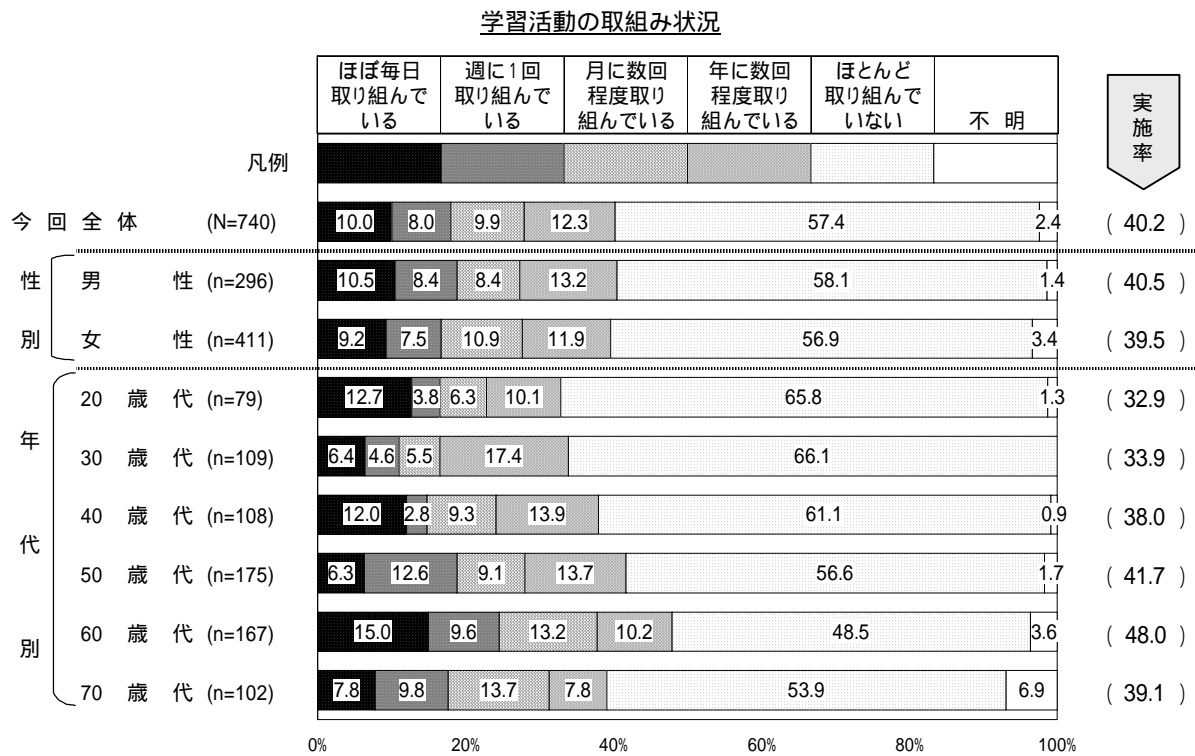
#### (1) 学習活動の取組み状況 (問 14)

全体では『実施率』が4割であり、年代が高くなるほどその傾向が強い。

学習活動の取組み状況についてみると、「ほぼ毎日取り組んでいる」が10.0%、「週に1回程度取り組んでいる」が8.0%、「月に数回程度取り組んでいる」が9.9%、「年に数回程度取り組んでいる」が12.3%と、これらを合わせた『実施率』は4割となっている。なお、「ほとんど取り組んでいない」は57.4%である。

性別でみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

年代別でみると、60歳代の『取り組み率』が約5割を占め他の年代に比べ高い。



( 2 ) 学習活動の取組み意向 ( 問 15 )

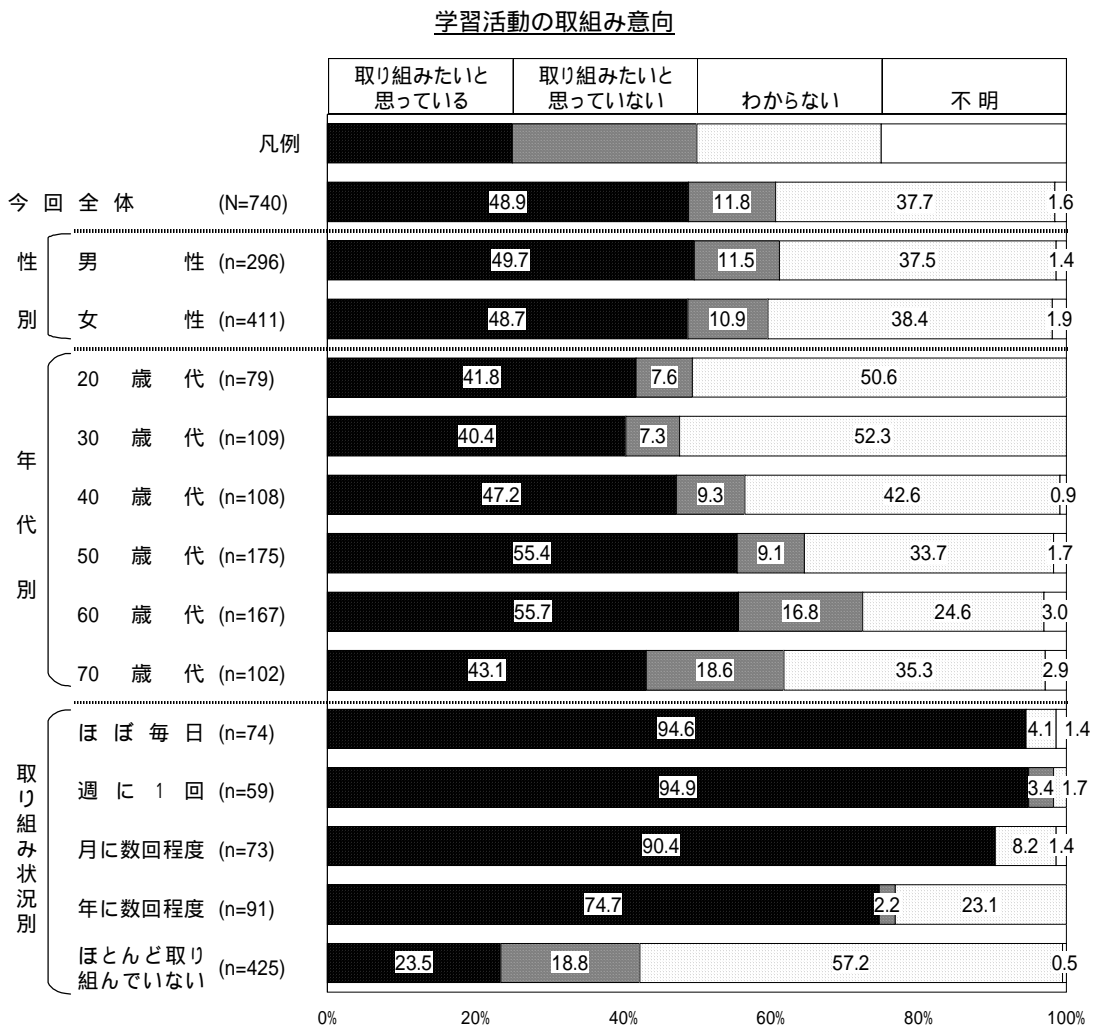
全体では、「はい(取組みたいと思っている)」が約5割であり、現在の取組み率が高い人ほど今後の意向率も高い。

学習活動の取組み意向についてみると、「はい(取組みたいと思っている)」が48.9%でほぼ半数を占める。なお、「いいえ(取組みたいと思っていない)」は11.8%であり、「わからない」(37.7%)が4割弱を占める。

性別でみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

年代別でみると、50～60歳代で「はい(取組みたいと思っている)」と答える人が他の年代に比べ高い。

現在の取組み状況別にみると、取組み頻度が高いほど今後の意向率が高い傾向がみられ、「ほとんど取組んでいない」と回答した人でも2割以上は取組みたいと回答している。



## 4 . スポーツ

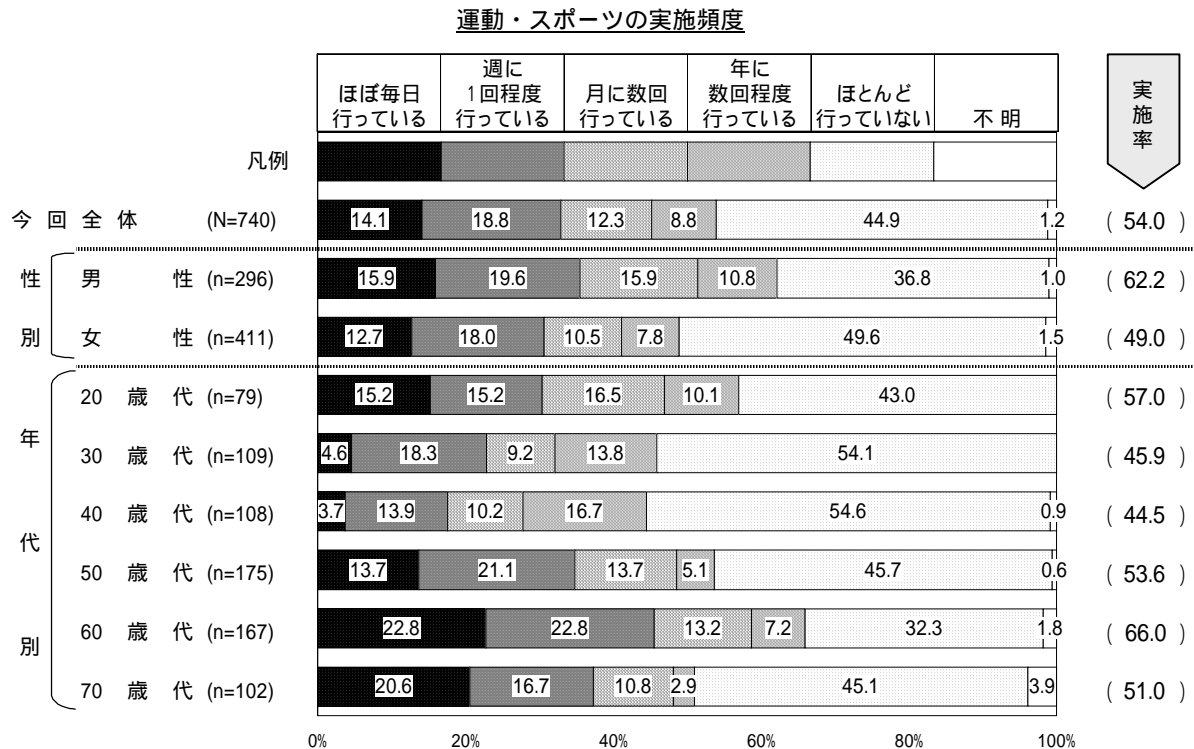
### ( 1 ) 運動・スポーツの実施頻度 ( 問 16 )

全体では『実施率』が5割以上を占め、60歳代の実施率が最も高い。

運動・スポーツの実施頻度についてみると、「ほぼ毎日取り組んでいる」が14.1%、「週に1回程度取り組んでいる」が18.8%、「月に数回程度取り組んでいる」が12.3%、「年に数回程度取り組んでいる」が8.8%と、これらを合わせた『実施率』は5割以上を占める。なお、「ほとんど行っていない」は44.9%である。

性別でみると、男性が女性に比べ『実施率』が高く、男性全体では6割以上を占める。

年代別でみると、60歳代の『実施率』が66.0%を占め他の年代に比べ高い。



## 5. 健康づくり

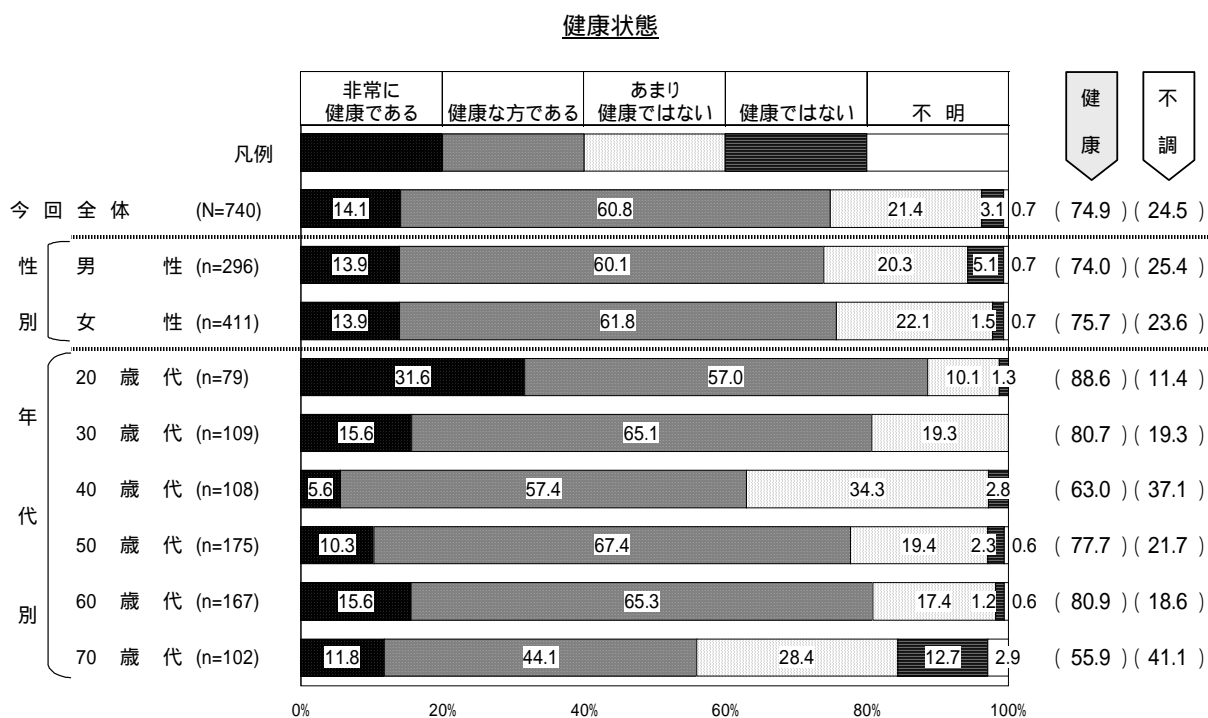
### (1) 健康状態(問17)

全体では『健康』だと回答する人は4人中3人を占めるが、40歳代、70歳代で『あまり健康ではない』、『健康ではない』と答える人が多い。

ここ数週間の健康状態についてみると、「非常に健康である」が14.1%、「健康なほうである」が60.8%と、4人中3人は『健康』だと回答している。一方、「あまり健康ではない」と回答した人は21.4%、「健康ではない」は3.1%となっている。

性別でみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

年代別でみると、20歳代は「非常に健康である」と回答した人が31.6%と高く、「健康なほうである」(57.0%)を含めると約9割を占める。逆に、40歳代、70歳代において「あまり健康ではない」、「健康ではない」と答える人が多い。



( 2 ) 健康増進の取組み状況 ( 問 18 )

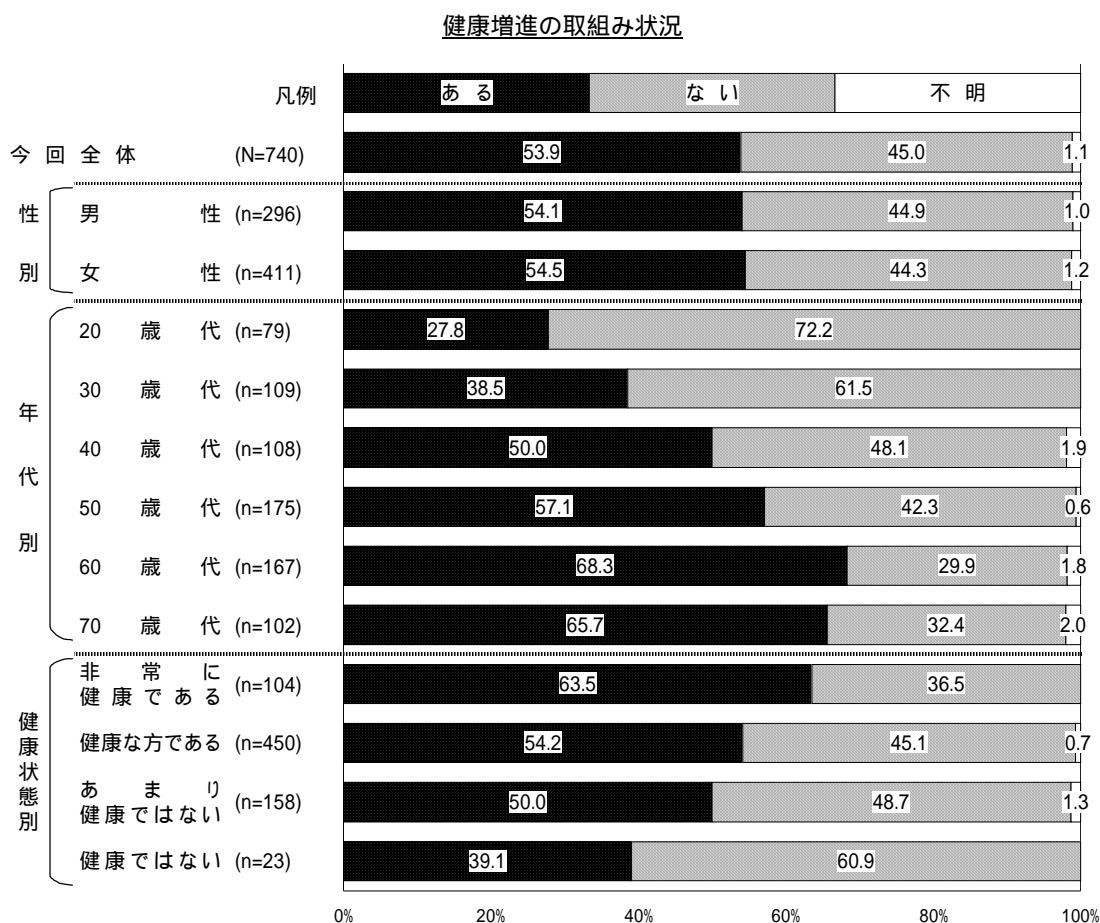
全体では「ある」が5割以上占め、健康状態が良好な人ほど健康増進のための取組みを行っている。

健康増進のための取組み状況についてみると、「ある」が 53.9%でほぼ半数を占める。なお、「ない」は 45.0%となっている。

性別でみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

年代別でみると、年代が高いほど「ある」と答える人が多く、60歳代以上は6割強を占める。

健康状態別にみると、現在の健康状態が良好な人ほど健康増進のための取組みを行っている人が多い。





## 6 . 高齢者福祉

### ( 1 ) 生活に対する生きがい ( 問 19 )

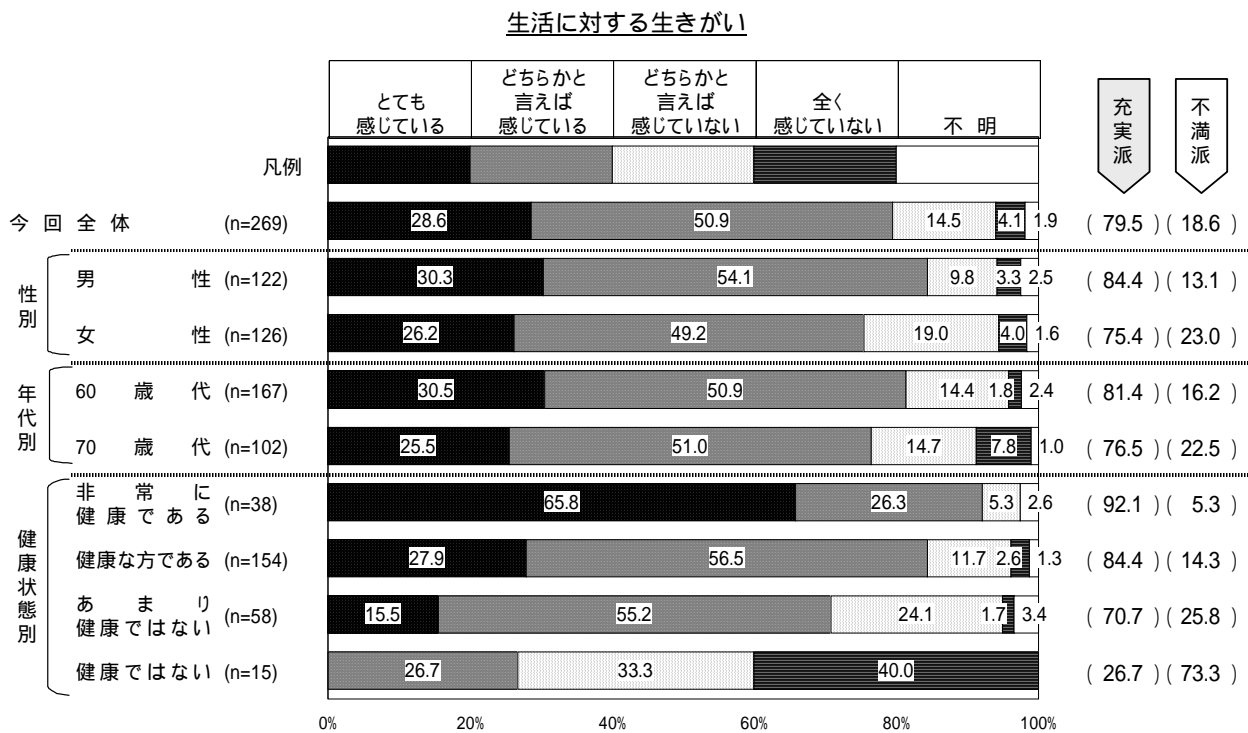
全体では『充実派』が約8割を占め、年代による差はあまりみられない。

60歳以上の人(269人)の生活に対する生きがいについてみると、「とても感じている」が28.6%、「どちらかと言えば感じている」が50.9%と、これらを合わせた『充実派』が約8割を占める。一方、「どちらかと言えば感じていない」(14.5%)、「感じていない」(4.1%)を合計した『不満派』は約2割を占める。

性別でみると、男性が女性に比べ『充実派』が多い。

年代別でみると、60歳代が70歳代に比べ『充実派』は多いが、70歳代においても4人中3人は充実していると答えている。

健康状態別にみると、現在の健康状態が良好な人ほど『充実派』が多い。



7. 子育て支援

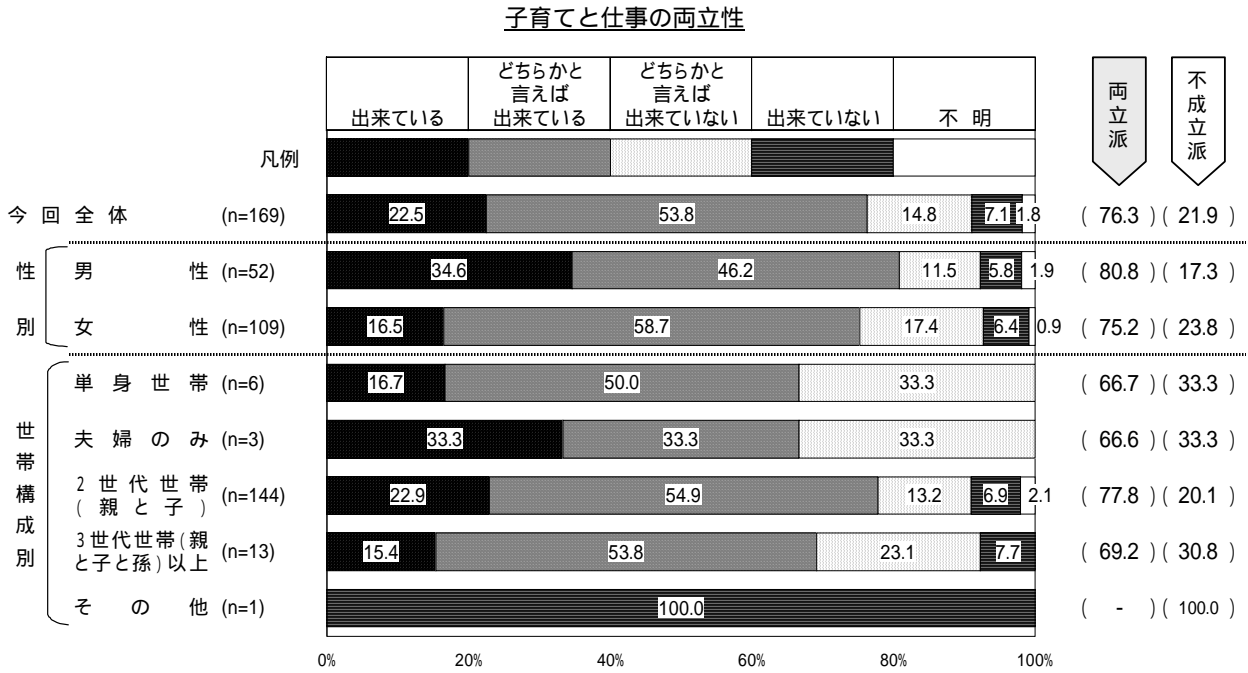
(1) 子育てと仕事の両立性 (問 20)

全体では、2割の世帯が『両立』が出来ていないと回答している。特に、女性が男性より『両立』が出来ていないと回答する人が多い。

中学生以下の子どもがいる人(169人)の子育てと仕事の両立についてみると、「出来ている」が22.5%、「どちらかと言えば出来ている」が53.8%と、4人中3人は『両立』が出来ている回答している。一方、「どちらかと言えば出来ていない」と回答した人は14.8%、「出来ていない」は7.1%となっている。

性別でみると、女性が男性に比べ『両立』が出来ていないと答える人が多くみられる。

世帯構成別については、サンプル数が少ないためコメントは省略する。



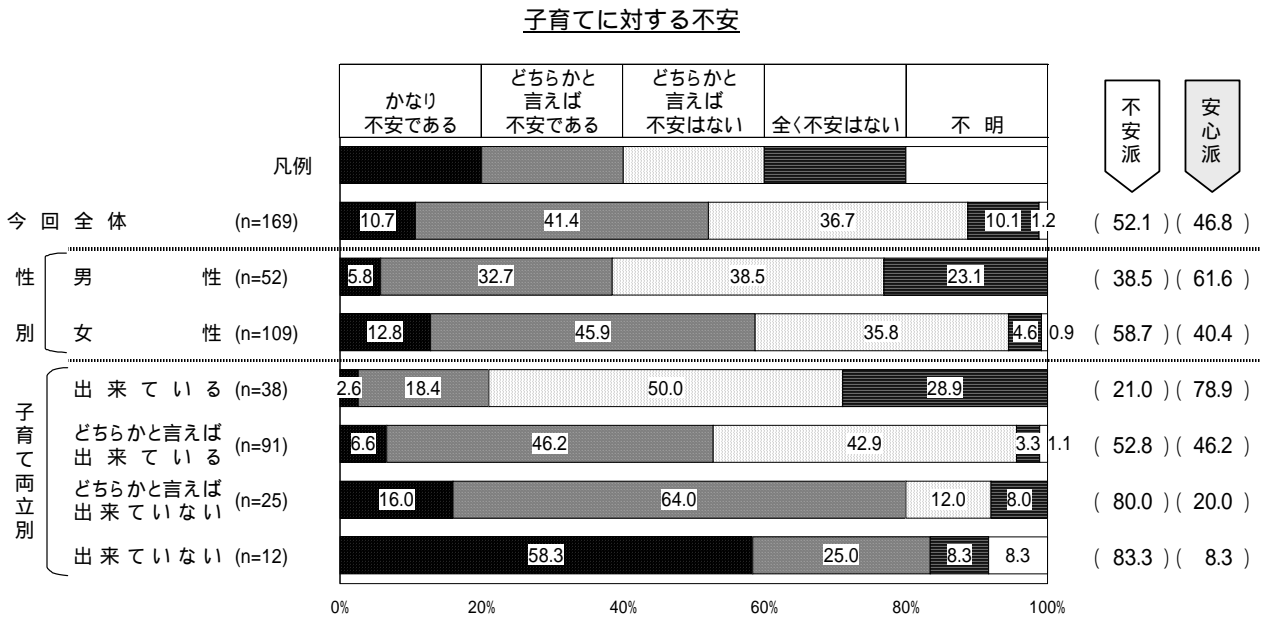
( 2 ) 子育てに対する不安 ( 問 21 )

全体では『不安派』が過半数を占め、女性が男性に比べその傾向が強い。  
 子育てと仕事の両立との相関関係がみられ、両立ができていない人ほど『不安派』が多いという特徴がみられる。

中学生以下の子どもがいる人 ( 169 人 ) の子育ての不安についてみると、「かなり不安である」が 10.7%、「どちらかと言えば不安である」が 41.4%と、これらを合わせた『不安派』が過半数を占める。一方、「どちらかと言えば不安はない」( 36.7% )、「全く不安はない」( 10.1% ) を合計した『安心派』も 4 割強みられる。

性別でみると、女性が男性に比べ『不安派』が多く約 6 割を占める。

子育て両立別でみると、両立ができていない人ほど『不安派』が多く 8 割以上を占める。



( 3 ) 子育ての楽しさ ( 問 22 )

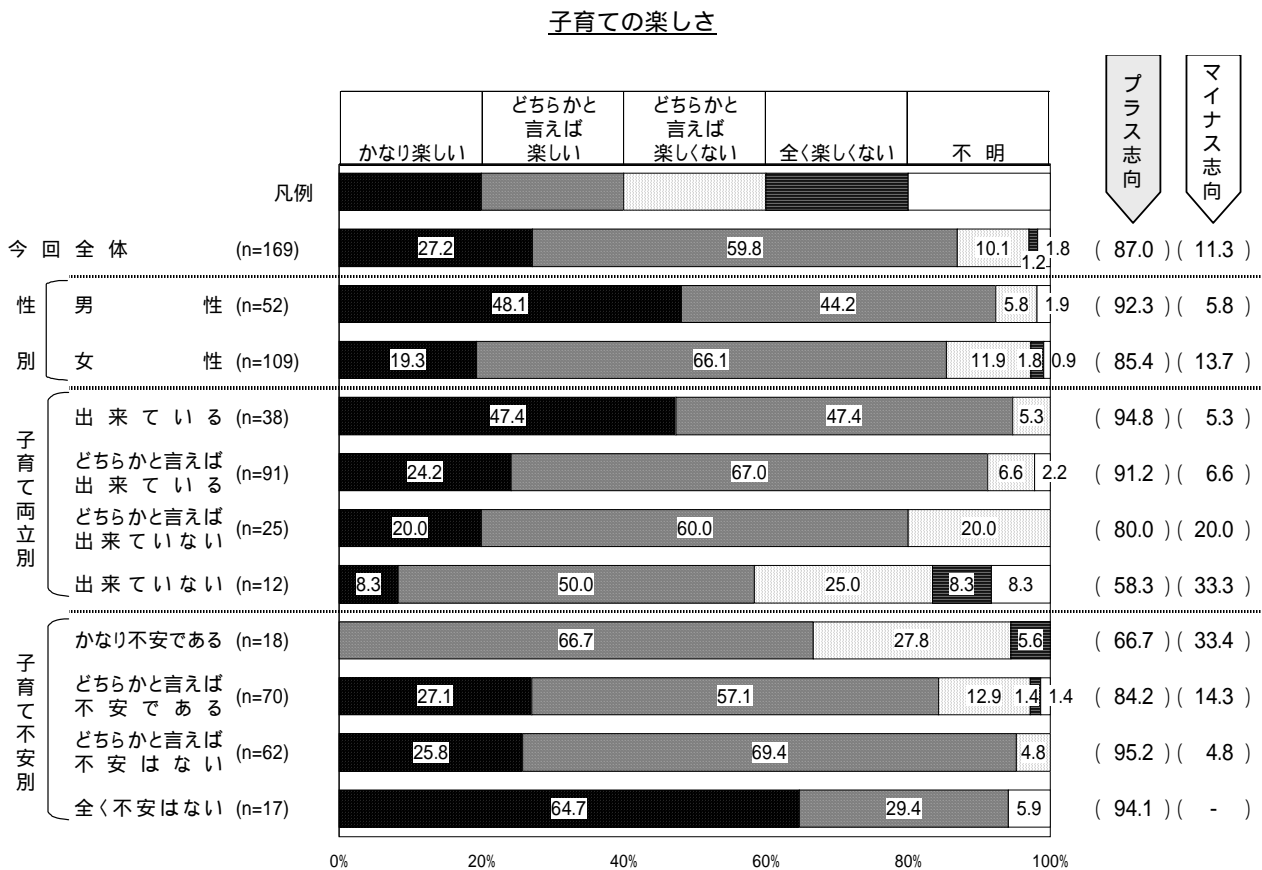
全体では『楽しい』と答える人が大半を占めるが、『楽しくない』と答える人が1割程度みられる。子育てと仕事の両立と子育ての不安別との相関関係は僅かにみられるが、マイナス評価者でも『楽しい』と回答する人は多い。

中学生以下の子どもがいる人( 169 人 )の子育ての楽しさについてみると、「かなり楽しい」が 27.2%、「どちらかと言えば楽しい」が 59.8%と、約 9 割は『楽しい』と回答している。一方、「どちらかと言えば楽しくない」と回答した人は 10.1%、「全く楽しくない」は 1.2%となっている。

性別でみると、男性が女性に比べ『楽しい』と回答する人が多い。

子育て両立別でみると、両立ができていない人ほど子育てが『楽しい』と答える人が多い。

子育て不安別でみると、子育ての不安が高い人ほど『楽しい』と回答する人は少ない。



## 8 . 防犯

### ( 1 ) 防犯面の安心度 ( 問 23 )

全体では、『安心派』と『不安派』が拮抗しているが、太宰府東小学校区で『不安派』が多い。

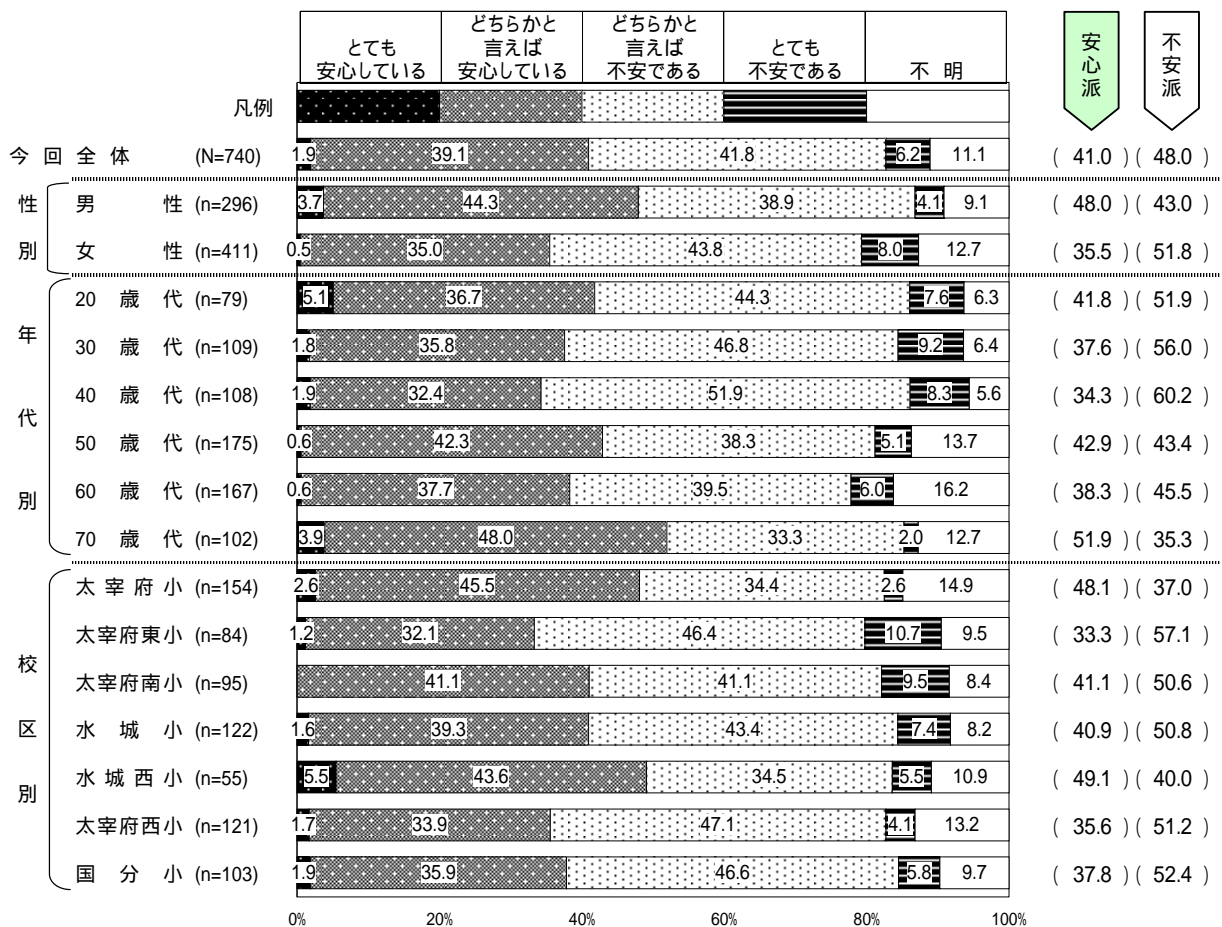
防犯面に関する安心度についてみると、「とても安心している」が 1.9%、「どちらかと言えば安心している」が 39.1%と、これらを合わせた『安心派』が約 4 割を占めるが、「どちらかと言えば不安である」( 41.8% )、「とても不安である」( 6.2% ) を合計した『不安派』も 4 割以上みられる。

性別でみると、女性が男性に比べ『不安派』が多く、5 割以上を占める。

年代別でみると、20 歳代～40 歳代及び 60 歳代は『不安派』が『安心派』を大きく上回っており、特に 40 歳代は『不安派』が 6 割を占める。

校区別でみると、太宰府東小学校区で『不安派』が他地区に比べ多くなっている。

防犯面の安心度



( 2 ) 防犯上危険と思う場所 ( 問 23 付問 )

防犯上危険と思う場所

家の周囲や市内において、防犯上危険と思われるような場所
<b>太宰府小校区</b>
・ あいさつ通りにある川の下に降りる階段の傾斜が急すぎる。
・ 空家がある。
・ 石坂、学園通り。
・ 内山の信号から県道を反れて、コース方面に向かう道。また、コース方向へ上らず、右へ折れて盲人会館方面へ向かう道。
・ 暗がりが多い。夜間照明の整備が必要。
・ 県道の三条～内山全線。
・ 国土館の所。松川バス停から、北谷方面。
・ 五条駅前や学園通り。
・ 五条公民館の前の道路。車に轢かれそうになったことがある。
・ 宰府4丁目から、うぐいす茶屋や東屋さんの方へ行く道(横が竹林)は、街灯がないので危険。
・ 三条台に通じる裏通りは夜間特に身の危険を感じる。
・ 四王寺山入口から太宰府小学校までの通学路で、一カ所だけ死角になる場所がある。
・ 周辺の道路が夜暗い。
・ 太宰府、五条駅周辺。
・ 太宰府東小学校と東中学校の間の道路。
・ 太宰府病院。
・ 天満宮駐車場。
・ 西鉄五条駅。
・ 西鉄太宰府駅から三条方面にかけて。
・ 馬場公民館から県道までの道。(途中にお墓や竹やぶがある所)
・ 人通りの少ない所ほど、街灯が少ない。
・ 不審者が出る場所が多数ある。
・ 近所に防犯灯が少ない。
・ 水城周辺。
・ 盲人会館から三条台への道。
・ ユースホステルの所など、道路が離合できないので警察の人が直ぐ来れないと思う。
・ 裏道は暗く、夏場は草が茂っていて死角になりやすい。
<b>大宰府東小校区</b>
・ 青山公園、太宰府高校から東小学校に上っていく西日本新聞前に車が3台投棄されている。また不審者も出没する。
・ 青山の水のタンク周辺～ゴミ処理場方面～太宰府東中に降りるところに街灯がほしい。杉の木が陰になり暗い。
・ 青山は年に何回か空き巣が入っている。
・ 近所に空家がある。
・ 家の近くにある、川の周辺が暗い。
・ 街灯が暗い。
・ 閑静な住宅街であるがゆえに、空巣等が起きる。
・ 公園。
・ 公園に街灯が少ない。
・ 公園の木が多くて高いので視界が悪い。街灯も暗くて数も少ない。
・ 公園やため池の周辺など。
・ 五条、青山地区の中心道には街灯がよく整備されている方だと思うが、入りこんだ道路についてももっと明るい街灯にしてほしい。
・ 太宰府東小学校付近の山。
・ 太宰府東中へのアプローチ道路。
・ 太宰府病院の横の坂。
・ 地域の街灯がとても暗い。

家の周囲や市内において、防犯上危険と思われるような場所
<b>太宰府小校区（つづき）</b>
・ 東ヶ丘、星ヶ丘地区に交番がないこと。
・ 防犯灯の整備が不十分と思える。
・ 星ヶ丘の交差点から青山に上がる坂道やその付近は、街灯が少なく危険。
・ やたらと訪問販売が多い。
<b>太宰府南小校区</b>
・ 空き巣多発（町全域）。
・ 家の付近に田畑が多く街灯が少ない。
・ 池の周辺。空き地。
・ 植木が大きくなっていて、見通しがきかない所がある。
・ 梅ヶ丘1丁目の池（2つ）の近くは街灯が少ない。
・ 子どもの通学路。梅ヶ丘公園。
・ コンビニ。
・ 住宅地なので夜道が暗い。
・ 小中高が近くにあるのに街灯がとても少ないと思う。
・ セブンイレブン周辺。
・ 第一経済大学付近のトンネルの所。太東小上の貯水タンク付近の坂。
・ 高雄交差点のパチンコ屋の裏通りに街灯が少ない。
・ 太宰府高校から高雄交差点までの道は夕方から道が暗すぎる。全体的に住宅街の街灯も暗い。
・ 太宰府東中の林。
・ 太宰府南小学校までの通学路（変質者の問題）。
・ 団地内の小道。以前娘が不審者に声をかけられた事がある。
・ 調整地区周辺は街灯が少なく暗いと思う。
・ 通学路で見通しが悪かったり人気の少ない所があるので、学童から下校する時間帯、不安を感じる
・ バイパス沿いのカラオケ店の駐車場（若い男性が複数でナンパしている）。
・ よく放置自転車がある。
・ 夜道の明かりが少なく危険。
<b>水城小校区</b>
・ 生長の家の北側、川べり。 高速道路高架下周辺。
・ 自宅の上がグラウンドなので、そこから進入されないか不安。
・ 駅から3号線に抜ける3号線バイパス下の道、暗く車・人通りも少ない。
・ 大楠公園周辺。
・ 通古賀2丁目付近は街灯が少なく、蛍光灯が切れている所がある。
・ 街灯が少ないと思う。
・ 街灯が少なく、道路が暗い。
・ 学校周辺。
・ 近隣の公園。とうれん寺公園。
・ 公園等にホームレスが多いのでは。
・ 国分小学校裏手から、水城へ抜ける山道。
・ 五条駅の周辺は車通りが多い割に歩道が狭い（ない所もある）。歩道を確保してほしい。
・ 坂本地区は道路幅が狭い。
・ 車中を荒らされるのが心配。
・ 住居一階の駐車場。
・ 政庁跡周辺。
・ 政庁路裏。
・ 全体的に夜は暗いので、もっと街灯を増やしてほしい。
・ 筑陽学園高校裏付近。
・ 通古賀6丁目は道幅が狭く街灯も少ない。
・ 通古賀1丁目の3号線沿い。
・ 都府楼跡付近は街灯が暗い。
・ 都府楼前駅周辺の街灯が暗いし、少ないと思う。
・ 西鉄都府楼前駅から大蔵方面へ行く道。
・ 西鉄都府楼前駅周辺。半田公園。
・ 西鉄都府楼前駅前は、夏に暴走族風の人を見かける。
・ 西鉄都府楼前駅前のトンネルは、人通りも少なく危険。
・ ほとんど利用されていない公園がある。
・ 民家ばかりで夜は暗い。
・ 夜の政庁跡付近。

家の周囲や市内において、防犯上危険と思われるような場所

水城西小校区

- ・ 川に沿っている堤防の道は、夕方以降は危険です。
- ・ 高速道路の高架下。昼間でも薄暗く、迷惑駐車も多い。
- ・ 高速道路の下になるトンネルには、いつも落書きがされている。夜間通る事はないが、暴走族等があのような事をしていると思うとゾッとする。
- ・ コンビニ周辺。
- ・ 道路に街灯が少なく、非常に薄暗い。
- ・ 都府楼団地住宅内は静かだが、道は狭いし人も通らない所が多いので、子どもの通学の安全性の目が届きにくいと思う。
- ・ 都府楼では毎日盗難等があり、不審者もよく見かける。
- ・ 都府楼南4丁目、昨年10月の夜に泥棒がガラスを割って侵入し、現金を盗難する事件があった。
- ・ 都府楼南駅周辺。
- ・ 都府楼南駅前の駐輪場の利用の仕方・マナーがとても悪い。高校生の通学用であると思われるので、高校から指導してもらう必要がある。事故や盗難につながる。
- ・ 西鉄都府楼前駅前から南方面に向かう道路が暗い。
- ・ パチンコ店が集中していること。
- ・ 人気のない所が割と多い。通勤通学に使用される歩道が狭い。
- ・ 水城駅前通りの街灯が少ない。
- ・ 吉松から太宰府西小学校までの通学路に不安がある。

太宰府西小校区

- ・ 空巣が多い。
- ・ 空巣被害あり、周囲の住宅も被害がある。
- ・ 空き巣や車上狙いが多い。
- ・ 空家が少し気になる。
- ・ 大佐野ハローデイ裏手。白石工業の土砂置き場付近。
- ・ 街灯が暗すぎる。
- ・ 街灯が少ない。
- ・ 向佐野のJR踏み切り。高速の高架下に浮浪者がいる。
- ・ 自宅付近（空巣が心配）。
- ・ 住宅街なので夜になるととても暗くて危険。
- ・ 住宅街の街灯が少なく、子どもの帰宅時に暗くなるととても危ない。もう少し街灯を増やしてほしい
- ・ 住宅が建ち始めて、交差点の見通しが悪くなってきた場所が増えたと思う。ミラーをつけてほしい。
- ・ 住宅地の裏道。
- ・ 周辺で車上荒しや空巣が非常に多い。
- ・ 団地で人の目が少ない。
- ・ 団地内で時々空巣がある。
- ・ つつじヶ丘公民館の裏で、ひまわり台との境。
- ・ 電灯が少ない。歩行者の通路と車が分けられていないので子どもが飛び出してくる。
- ・ 長浦台大池付近。歴史スポーツ公園。深夜の学校。
- ・ 西小学校下の大池横の歩道。大佐野公民館前の、川の両岸の道路。
- ・ 西小学校そばの公園。
- ・ 盗人が横行している。
- ・ 不良グループが集まっている場所がある。
- ・ 向佐野マルキョウ青果センター裏側のガード下が昼間でも暗く、人通りも少なく、かなり死角になっている。
- ・ 夜間の長浦台公園は暗いので不安になる。
- ・ 吉松から上大利に抜ける道が、暗くて怖い。
- ・ 夜の公園とそこに面する道路。
- ・ 隣接している空家。

国分小校区

- ・ 家の近くには街灯がない。
- ・ 裏山。
- ・ 暗い道路が多く若い人がたむろしている事が多いので、女性は怖いと言っている。国分1丁目の、旧3号線沿いの住宅街。
- ・ 国分1丁目は街灯がとても暗いので危険箇所が多くある。
- ・ 国分4丁目19に住んでいるが、燃えないゴミ捨て場が暗くて怖い。
- ・ 国分小学校から下り坂がとても危険。特に小学生等。
- ・ 国分寺横の原っぱの道路から死角になる場所で、中学生がタバコを吸っている。
- ・ 坂本、国分地区の街灯が少ない。
- ・ 市内全体で、街灯が少ない。あっても暗くて役に立っていない。



家の周囲や市内において、防犯上危険と思われるような場所

国分小校区（つづき）

- ・ 千足公園。
- ・ 道路の整備。ガード下の照明が暗い。
- ・ 昼間は人が少ないところ。
- ・ 水城ヶ丘団地から112号線に入る交差点は信号がなく、ファミリーマートができ駐車場から出る車も多く、事故が起こりやすい。
- ・ 水城ヶ丘に上がってくるメイン道路の、右側の資材置き場の辺り。
- ・ 水城西小学校前の通りが薄暗い雰囲気危険な気がする。
- ・ 水城の3号線下の、ガード付近が暗い。
- ・ 路上駐車（家の前）。近所の自営業者の車らしい。

校区不明

- ・ 天満宮に行く道路。自転車やバイクが通る幅と歩行者の幅がほとんどない。

## 9 . 防災

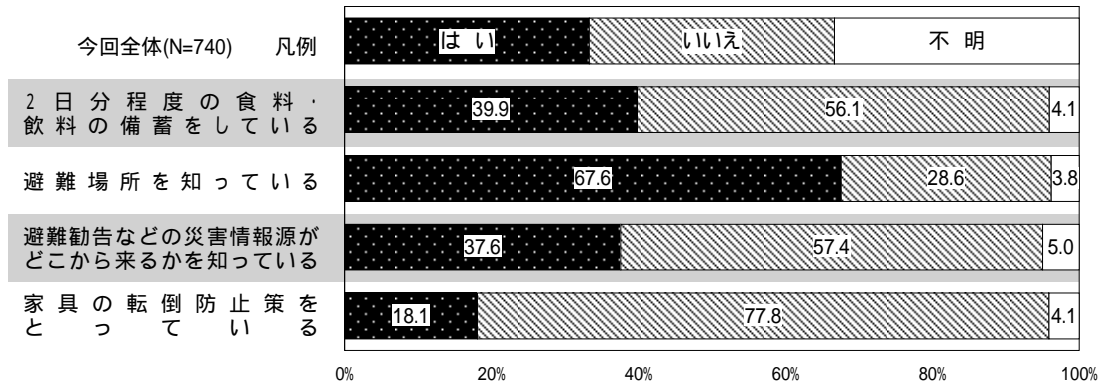
### ( 1 ) 災害に対する取組み状況 ( 問 24 )

全体では、『避難場所の認知』が 67.6%と高く、『食糧の備蓄(2日分程度)』(39.9%)、『災害情報源の認知』(37.6%)、『転倒防止策の備え』(18.1%)は非実施者の方が多い。

日ごろの災害時の対応についてしてみると、『避難場所の認知』は 67.6%、『食糧の備蓄(2日分程度)』は 39.9%、『災害情報源の認知』は 37.6%、『転倒防止策の備え』は 18.1%が実施しており、『避難場所の認知』以外については半数以上が取り組んでいない。

年代別でみると、『避難場所の認知』は年代による差はほとんどないが、『食糧の備蓄(2日分程度)』、『災害情報源の認知』、『転倒防止策の備え』の場合、年代が高いほど実施率が高くなっている。

災害に対する取組み状況



	サンプル数	2日分程度の食料・飲料の備蓄をしている			避難場所を知っている			避難勧告などの災害情報源がどこから来るかを知っている			家具の転倒防止策をとっている			
		はい	いいえ	不明	はい	いいえ	不明	はい	いいえ	不明	はい	いいえ	不明	
全 体	740	39.9	56.1	4.1	67.6	28.6	3.8	37.6	57.4	5.0	18.1	77.8	4.1	
性別	男性	296	38.9	57.8	3.4	65.2	32.1	2.7	42.2	54.7	3.0	19.6	77.4	3.0
	女性	411	40.1	55.0	4.9	69.1	26.0	4.9	34.8	58.4	6.8	16.5	78.3	5.1
年代別	20 歳代	79	24.1	72.2	3.8	50.6	45.6	3.8	15.2	81.0	3.8	8.9	87.3	3.8
	30 歳代	109	30.3	67.9	1.8	65.1	33.0	1.8	22.9	75.2	1.8	15.6	82.6	1.8
	40 歳代	108	37.0	62.0	0.9	75.9	23.1	0.9	31.5	67.6	0.9	14.8	84.3	0.9
	50 歳代	175	37.7	57.7	4.6	67.4	28.0	4.6	37.1	57.1	5.7	15.4	79.4	5.1
	60 歳代	167	49.1	44.9	6.0	69.5	25.1	5.4	48.5	43.1	8.4	24.6	70.1	5.4
	70 歳代	102	53.9	40.2	5.9	71.6	23.5	4.9	59.8	33.3	6.9	25.5	68.6	5.9
校区別	太宰府小	154	40.9	56.5	2.6	66.9	31.8	1.3	42.2	55.2	2.6	16.9	81.2	1.9
	太宰府東小	84	47.6	51.2	1.2	77.4	21.4	1.2	47.6	50.0	2.4	21.4	77.4	1.2
	太宰府南小	95	44.2	52.6	3.2	71.6	25.3	3.2	30.5	65.3	4.2	18.9	78.9	2.1
	水城小	122	41.0	55.7	3.3	64.8	32.0	3.3	37.7	58.2	4.1	20.5	76.2	3.3
	水城西小	55	38.2	54.5	7.3	54.5	40.0	5.5	30.9	63.6	5.5	12.7	81.8	5.5
	太宰府西小	121	35.5	58.7	5.8	71.9	21.5	6.6	30.6	59.5	9.9	22.3	69.4	8.3
国分小	103	33.0	61.2	5.8	64.1	30.1	5.8	42.7	51.5	5.8	12.6	81.6	5.8	

10. 環境保全

(1) 節電などの二酸化炭素排出削減等の取組み状況 (問 25)

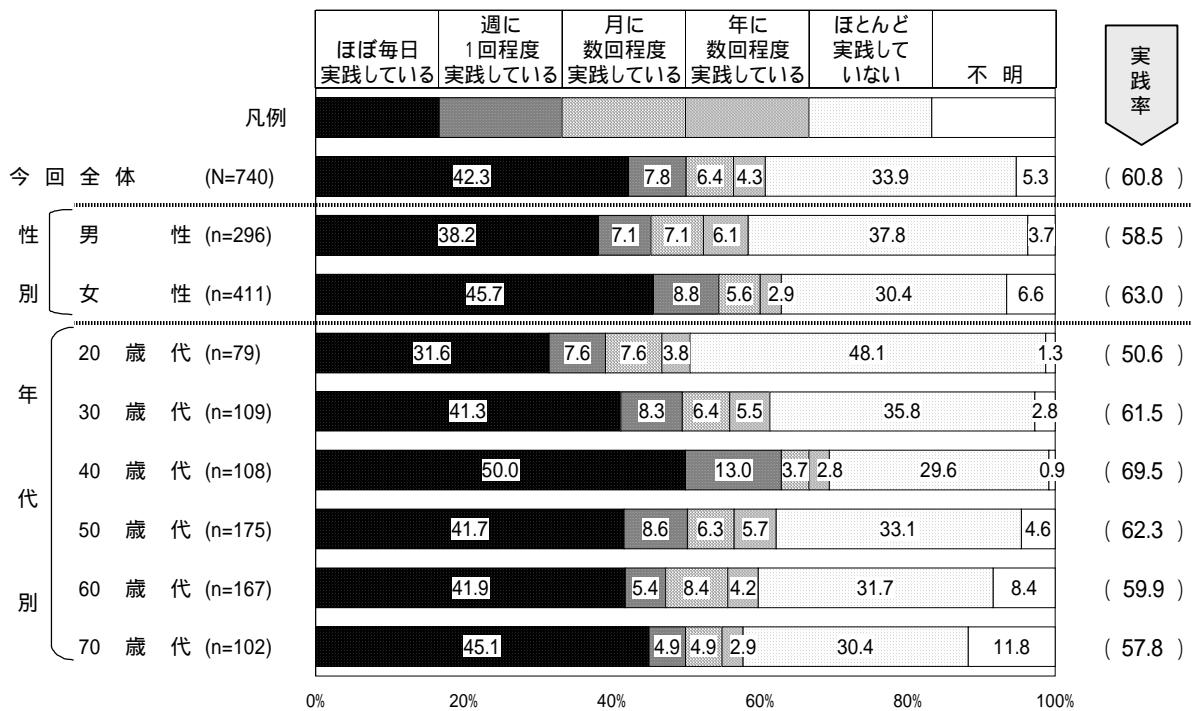
全体では、「ほぼ毎日実践している」は4割程度にとどまっており、「ほとんど実践していない」が33.9%を占める。

アイドリングストップや節電などの二酸化炭素排出削減等の取組み状況についてみると、「ほぼ毎日実践している」が42.3%、「週に1回程度実践している」が7.8%、「月に数回程度取り組んでいる」が6.4%、「年に数回程度取り組んでいる」が4.3%と、これらを合わせた『実施率』は6割となっている。なお、「ほとんど実践していない」は33.9%である。

性別でみると、女性が男性に比べ『実施率』がやや高い。

年代別でみると、40歳代は「ほぼ毎日実践している」が5割を占め、『実施率』も他の年代に比べ高い。

二酸化炭素排出削減等の取組み状況



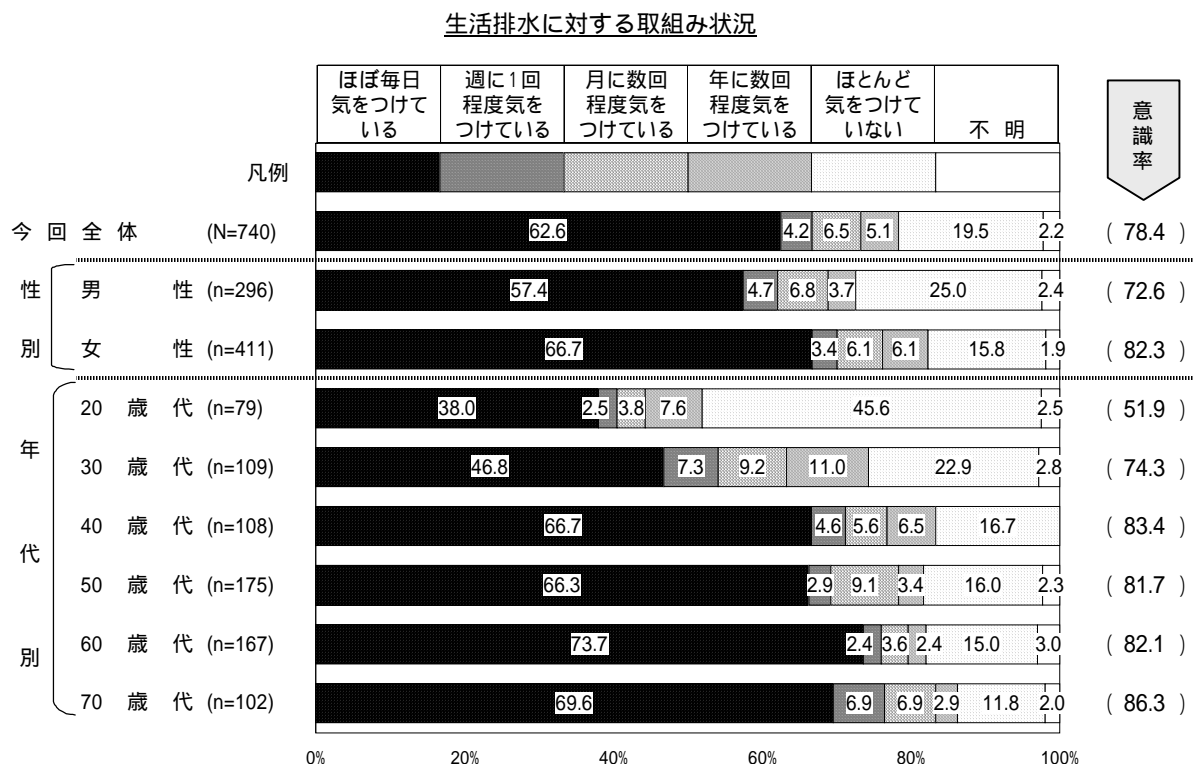
( 2 ) 生活排水に対する取組み状況 ( 問 26 )

全体では、「ほぼ毎日実践している」が6割以上を占めるが、20 歳代の場合「ほとんど実践していない」が 45.6% もみられる。

洗剤や油流しなどの生活排水に対する取組み状況についてみると、「ほぼ毎日実践している」が 62.6%、「週に 1 回程度実践している」が 4.2%、「月に数回程度取り組んでいる」が 6.5%、「年に数回程度取り組んでいる」が 5.1%と、これらを合わせた『実施率』は約 8 割となっている。なお、「ほとんど実践していない」は 19.5%である。

性別でみると、女性が男性に比べ『実施率』が高い。

年代別でみると、年代が高くなるほど『実施率』が高く、70 歳代は『実施率』が 86.3%を占める。逆に、20 歳代は「ほとんど実践していない」が 45.6%を占める。



11. 自然環境

(1) 自然の豊かさに対する意識 (問 27)

全体では『肯定派』が8割を占め、『否定派』(16.8%)を大きく上回っている。

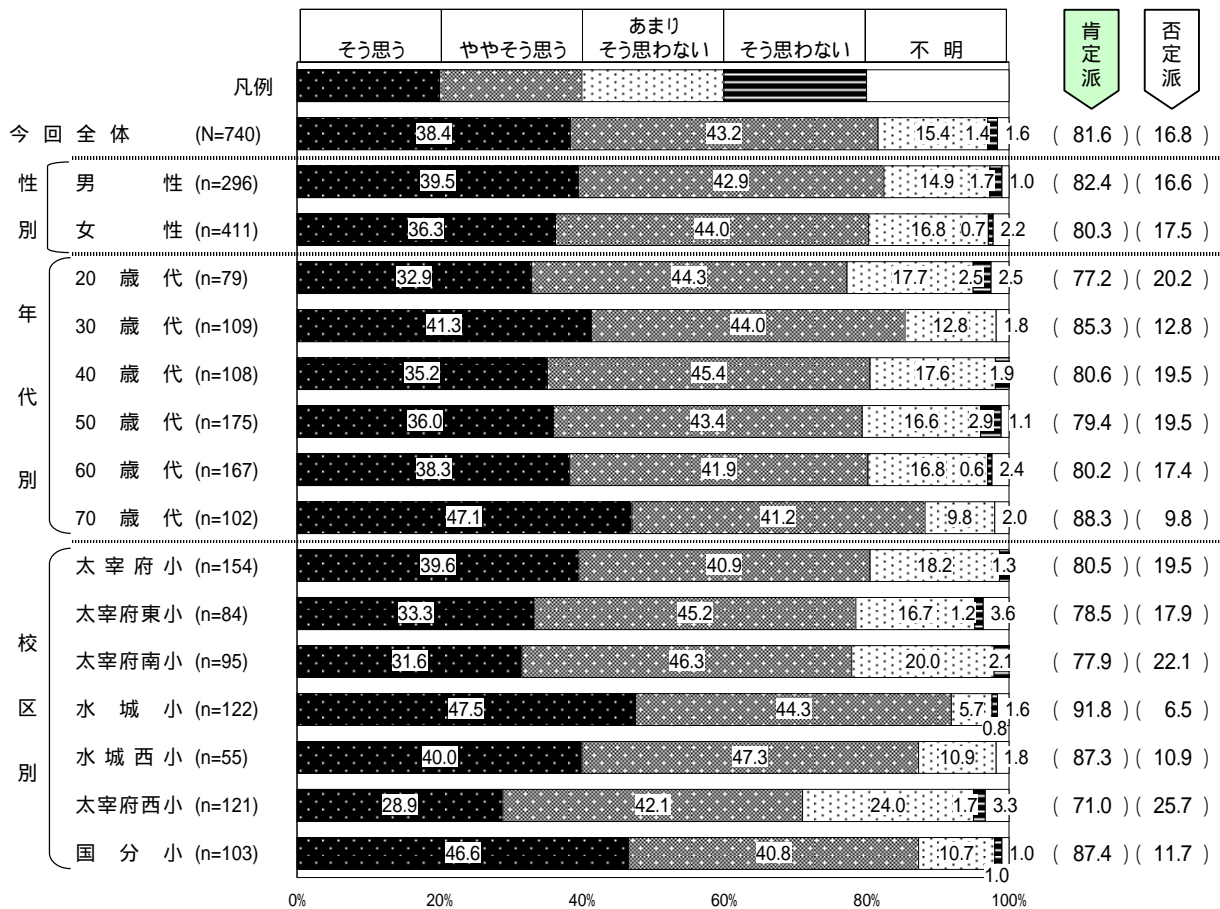
太宰府市の自然が豊かかどうか尋ねたところ、「そう思う」が38.4%、「ややそう思う」が43.2%と、これらを合わせた『肯定派』が8割を占める。一方、「あまりそう思わない」(15.4%)、「そう思わない」(1.4%)を合計した『否定派』は16.8%である。

性別でみると、男女ともほぼ同様の傾向を示しているが、僅かながら男性の『肯定派』が多い。

年代別でみると、年代にかかわらず『肯定派』が『否定派』を大きく上回っており、70歳代では『肯定派』が約9割を占める。

校区別でみると、水城小学校区で『肯定派』が他地区に比べ多くなっている。

自然の豊かさに対する意識



## 12. 市街地整備

### (1) 居住地区の住みやすさに対する満足度(問28)

全体では、『満足派』が7割を占めるが、『不満派』も約3割程度みられる。

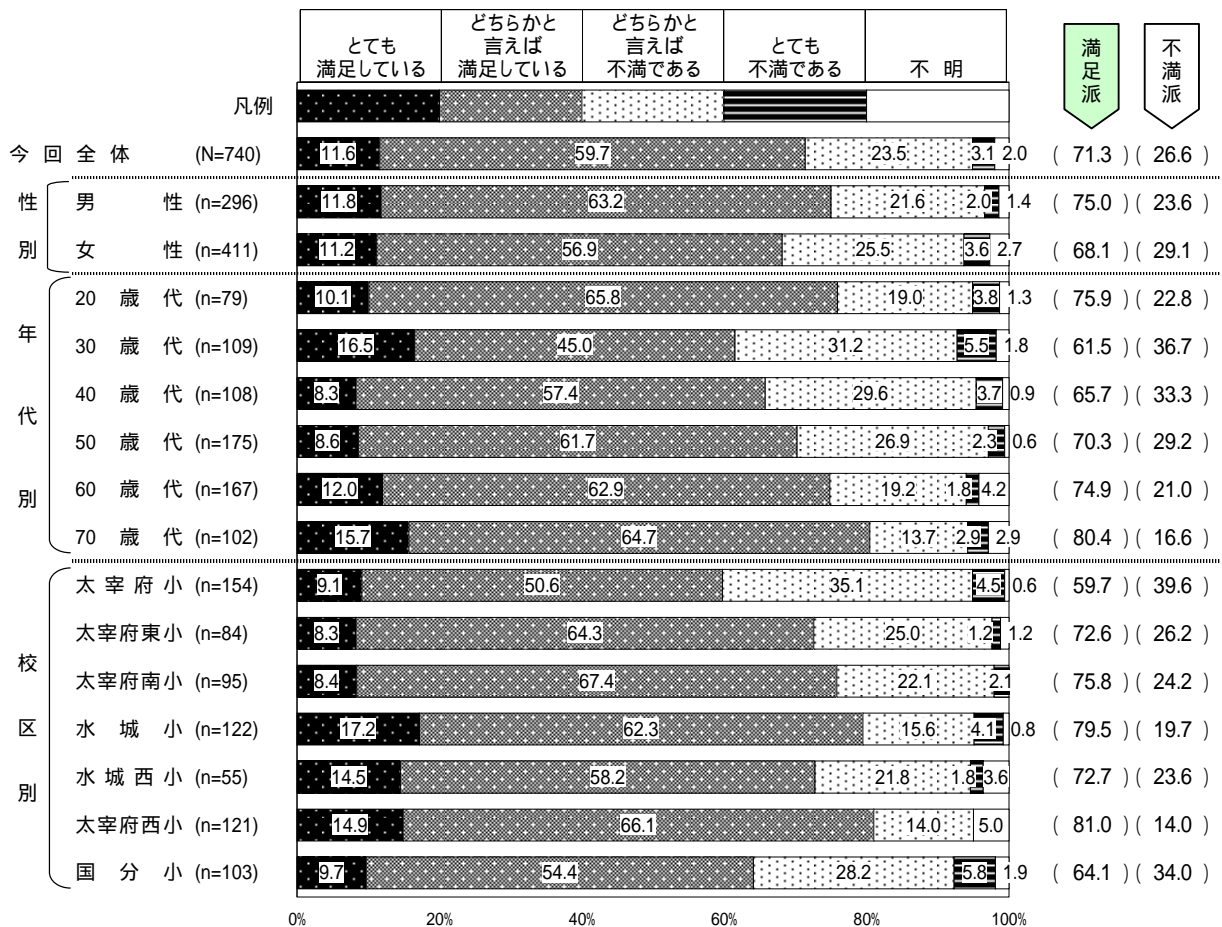
居住地区の住みやすさに対する満足度についてみると、「とても満足している」が11.6%、「どちらかと言えば満足している」が59.7%と、これらを合わせた『満足派』が7割を占める。一方、「どちらかと言えば不満である」(23.5%)、「とても不満である」(3.1%)を合計した『不満派』は26.6%である。

性別でみると、男性が女性に比べ『満足派』が多い。

年代別でみると、年代にかかわらず『満足派』が『不満派』を大きく上回っているが、30歳代の『不満派』が他の年代に比べ相対的に多い。

校区別でみると、校区にかかわらず『満足派』が『不満派』を上回っているが、中でも太宰府西小学校区の『満足派』が最も多くなっている。

居住地区の住みやすさに対する満足度



### 13. 都市拠点整備

#### (1) 駅周辺の利便性に対する意識 (問 29)

全体では、『肯定派』(49.8%)と『否定派』(47.5%)が拮抗している。

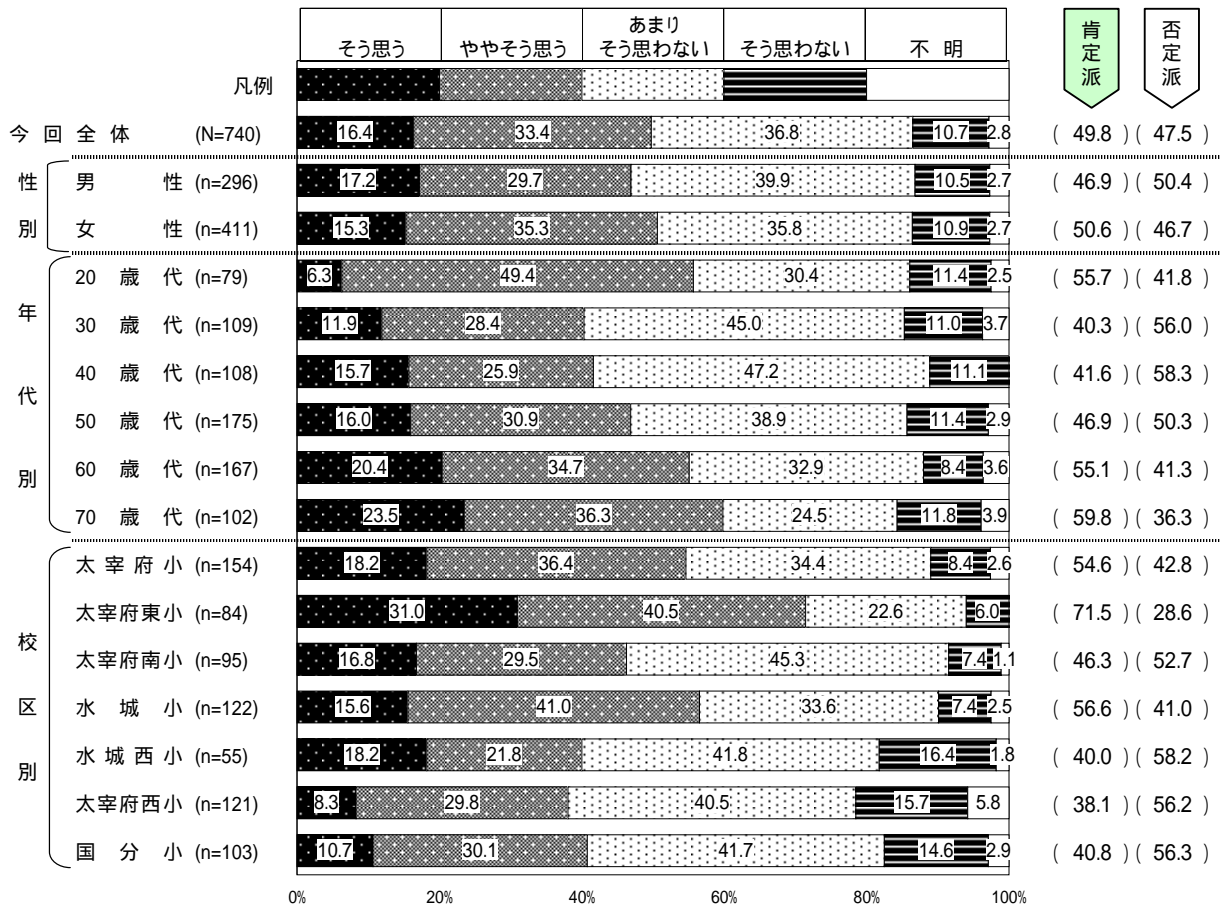
駅周辺は以前より便利になったかどうか尋ねたところ、「そう思う」が16.4%、「ややそう思う」が33.4%と、これらを合わせた『肯定派』が約5割を占めるものの、「あまりそう思わない」(36.8%)、「そう思わない」(10.7%)を合計した『否定派』が47.5%もみられる。

性別でみると、女性が男性に比べ僅かながら『肯定派』が多くみられる。

年代別でみると、年代が高くなるほど「そう思う」と答える人が多くなり、70歳代は「そう思う」(23.5%)、「ややそう思う」(36.3%)を合わせた『肯定派』が約6割を占める。

校区別でみると、太宰府東小学校区は「そう思う」を答える人が31.0%と高く、「ややそう思う」(40.5%)を合わせた『肯定派』が7割を占める。

駅周辺の利便性に対する意識



( 2 ) 駅周辺における拠点場所 ( 問 30 )

全体では、1位:「西鉄五条駅周辺」、2位:「西鉄太宰府駅周辺」、3位:「西鉄都府楼前駅周辺」となっている。

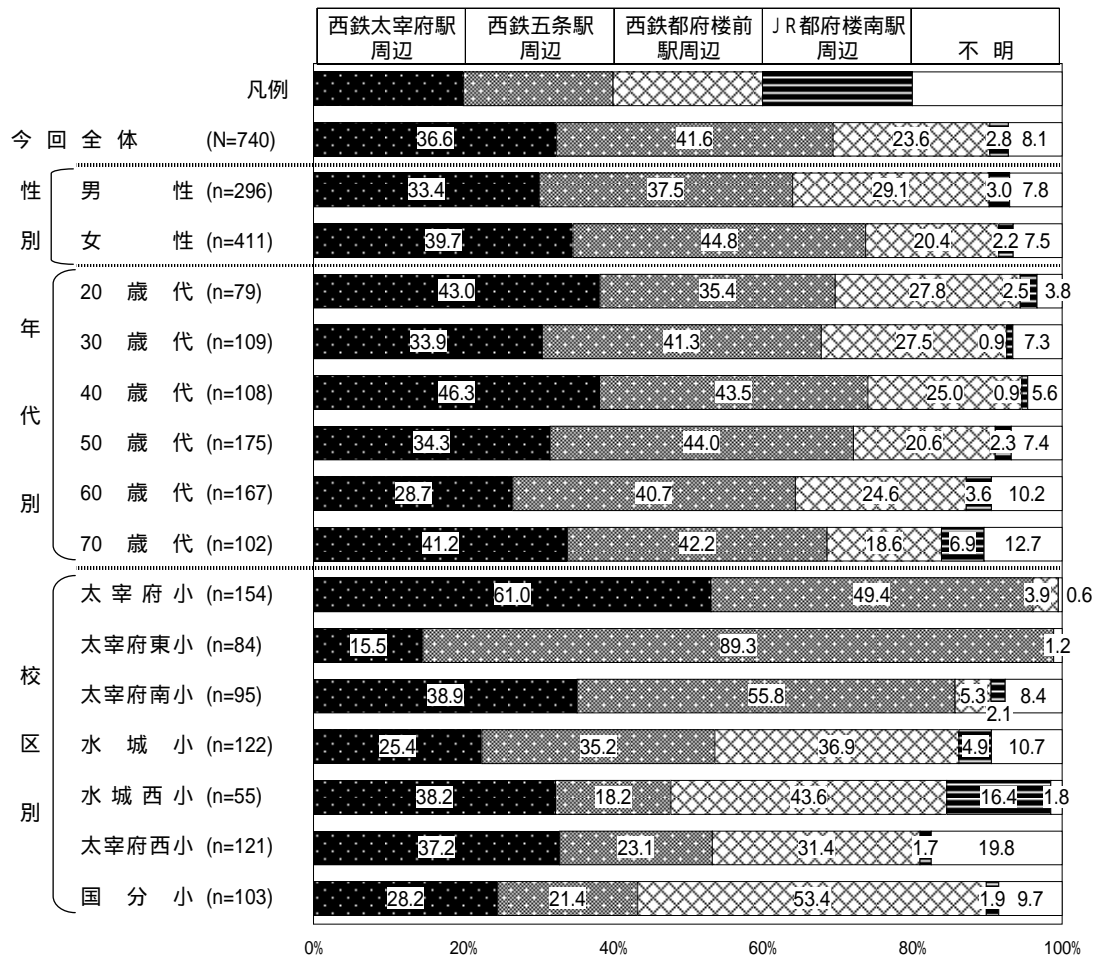
駅周辺における拠点場所についてみると、「西鉄五条駅周辺」が 41.6% で最も高く、次いで「西鉄太宰府駅周辺」( 36.6% )、「西鉄都府楼前駅周辺」( 23.6% ) となり、「JR 都府楼南駅周辺」( 2.8% ) と答える人は 1 割にも満たない。

性別でみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

年代別でみると、年代にかかわらず「西鉄五条駅周辺」が「西鉄太宰府駅周辺」のいずれかを拠点場所だと回答している。

校区別でみると、太宰府東小学校区は「西鉄五条駅周辺」を指示する人が約 9 割であり、国分小学校区は「西鉄都府楼前駅周辺」を第 1 位にあげている。

駅周辺における拠点場所





14. バリアフリー

(1) 公共施設の配慮に対する意識 (問 31)

全体では、『肯定派』(48.9%)と『否定派』(49.1%)が拮抗している。

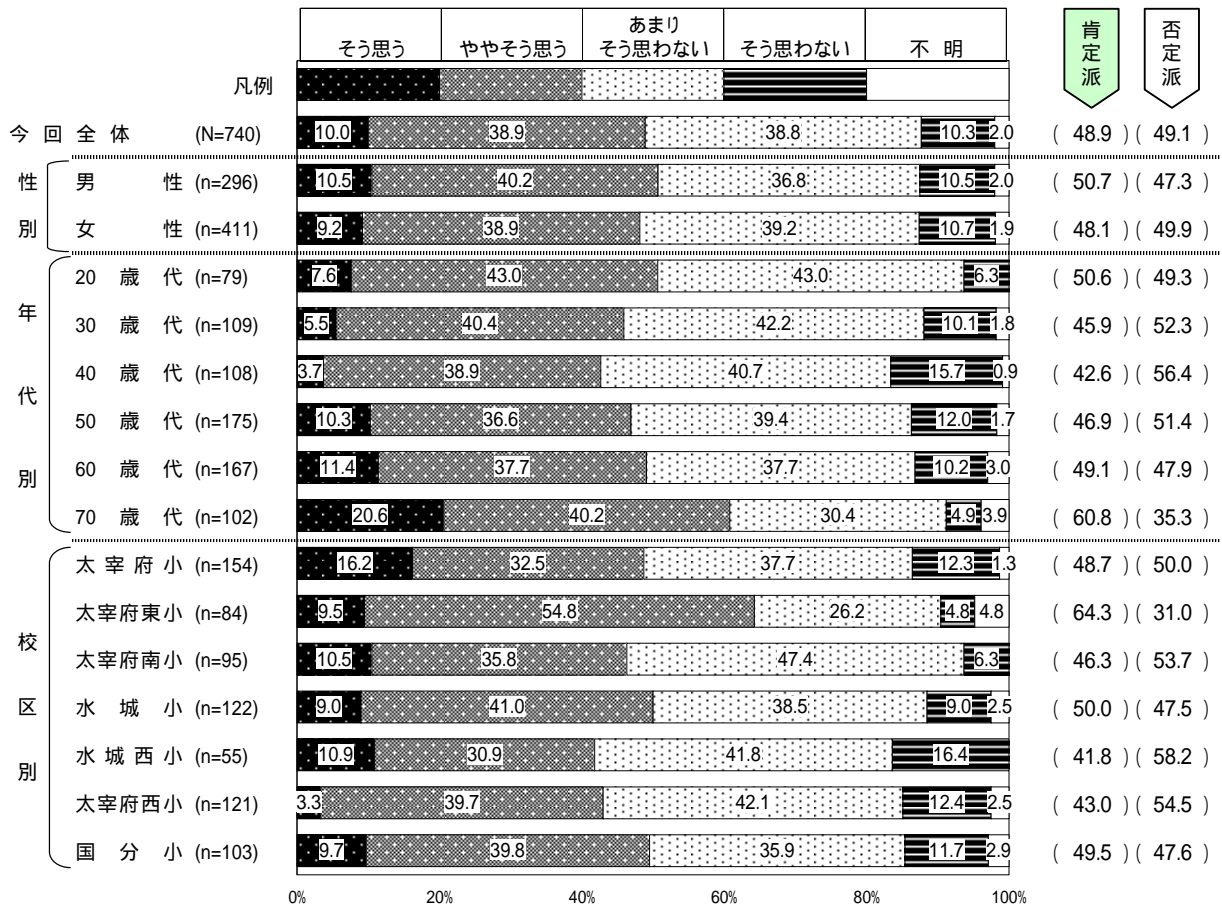
公共施設が高齢者・障害者に配慮されているかどうか尋ねたところ、「そう思う」が10.0%、「ややそう思う」が38.9%と、これらを合わせた『肯定派』が約5割を占めるものの、「あまりそう思わない」(38.8%)、「そう思わない」(10.3%)を合計した『否定派』が49.1%もみられる。

性別でみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

年代別でみると、70歳代は「そう思う」(20.6%)、「ややそう思う」(40.2%)を合わせた『肯定派』が約6割を占める。

校区別でみると、太宰府東小学校区は『肯定派』が64.3%と高いものの、水城西小学校区は『否定派』が約6割を占める。

公共施設の配慮に対する意識



( 2 ) 民間施設の配慮に対する意識 ( 問 32 )

全体では、『否定派』(62.7%)が『肯定派』(34.6%)を大きく上回り、公共施設に比べ『否定派』の割合が高い。

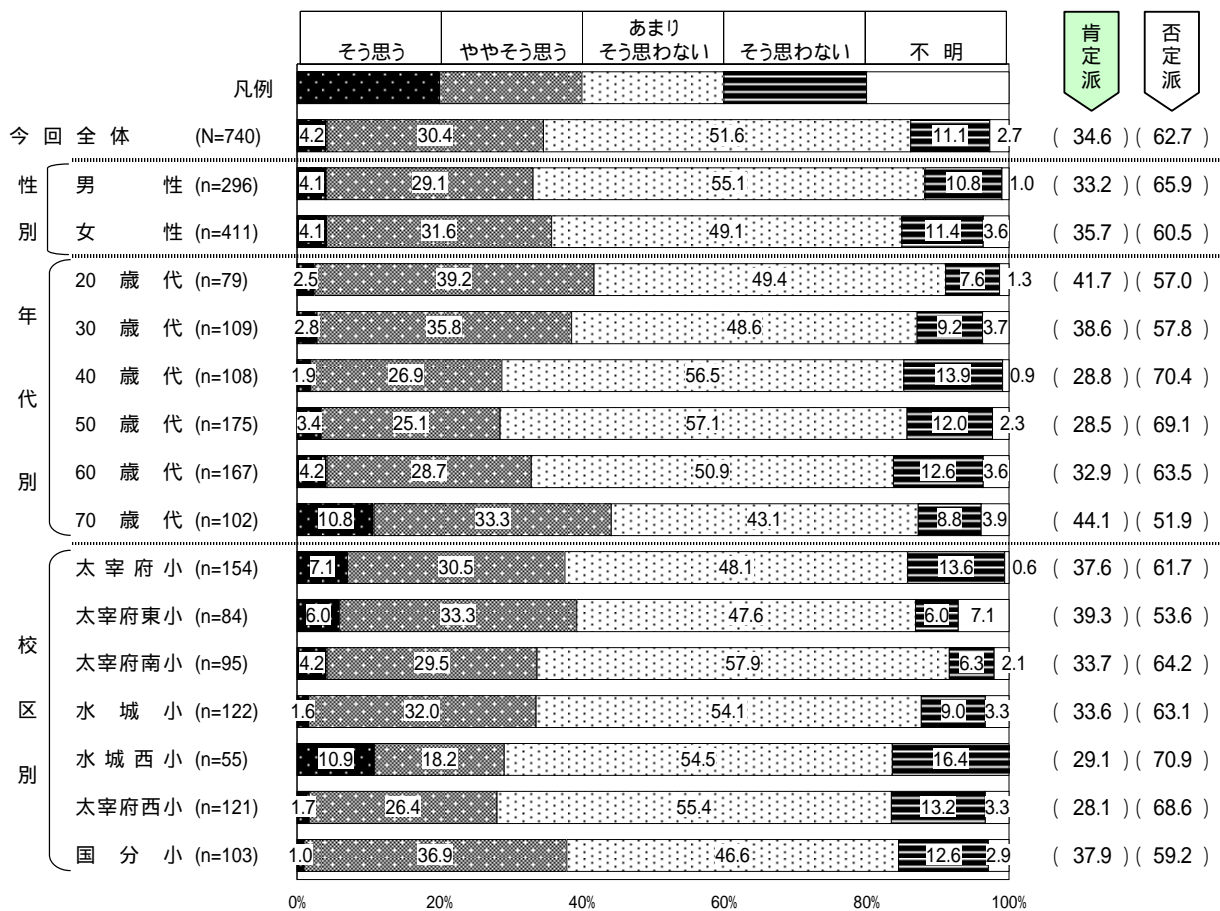
民間施設が高齢者・障害者等に配慮されているかどうか尋ねたところ、「そう思う」が4.2%、「ややそう思う」が30.4%と、これらを合わせた『肯定派』が3割強であり、「あまりそう思わない」(51.6%)、「そう思わない」(11.1%)を合計した『否定派』が6割以上を占める。

性別で見ると、男女ともほぼ同様の傾向を示しているが、僅かながら女性の『肯定派』が多い。

年代別で見ると、年代にかかわらず『否定派』が『肯定派』を上回るものの、70歳代は「そう思う」(10.8%)、「ややそう思う」(33.3%)を合わせた『肯定派』が4割以上を占める。

校区別で見ると、太宰府西小学校区と水城西小学校区において『否定派』が7割程度を占める。

民間施設の配慮に対する意識



15. 道路事情

(1) 道路の円滑性に対する意識 (問 33)

全体では、『肯定派』は2割弱にとどまり、『否定派』が約8割を占める。

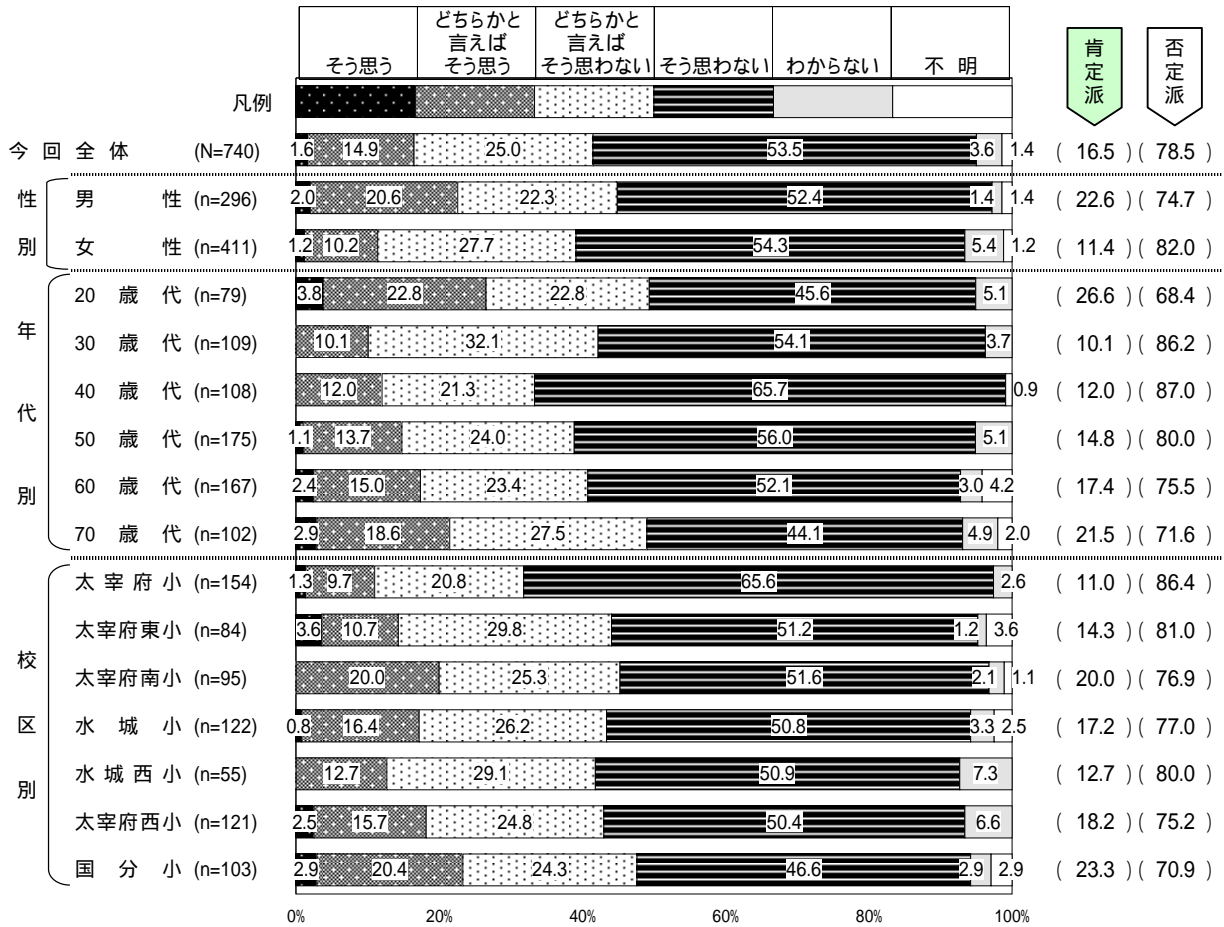
道路は渋滞もなく円滑に移動できるかどうか尋ねたところ、「そう思う」が 1.6%、「どちらかと言えばそう思う」が 14.9%と、これらを合わせた『肯定派』は2割弱にとどまり、「どちらかと言えばそう思わない」(53.5%)、「そう思わない」(3.6%)を合計した『否定派』が約8割を占める。なお、「わからない」は1.4%である。

性別でみると、女性が男性に比べ『否定派』が多くみられる。

年代別でみると、年代にかかわらず『否定派』が『肯定派』を上回り、中でも30～40歳代の『否定派』が約9割を占める。

校区別でみると、『否定派』は太宰府小学校区が他の校区に比べ多い。

道路の円滑性に対する意識



16. 公共交通機関

(1) 鉄道の利便性に対する意識 (問 34)

全体では、『肯定派』(58.8%)が『否定派』(27.8%)を大きく上回っている。

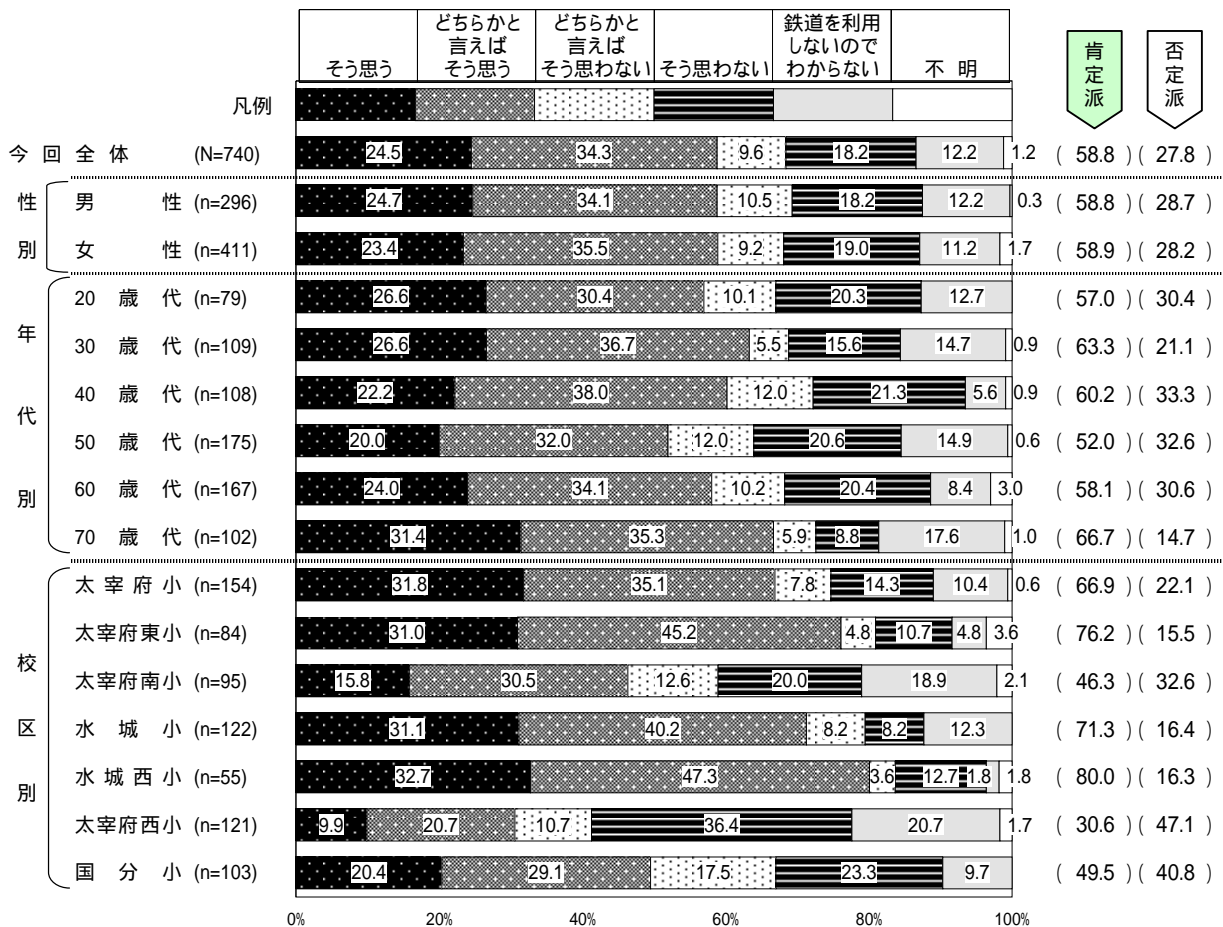
鉄道が便利かどうか尋ねたところ、「そう思う」が24.5%、「どちらかと言えばそう思う」が34.3%と、これらを合わせた『肯定派』が約6割を占め、「どちらかと言えばそう思わない」(9.6%)、「そう思わない」(18.2%)を合計した『否定派』を大きく上回っている。なお、「鉄道を利用しないのでわからない」は12.2%である。

性別でみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

年代別でみると、年代にかかわらず『肯定派』が『否定派』を上回り、中でも70歳代の『肯定派』が他の年代に比べ最も多い。

校区別でみると、水城西小学校区は『肯定派』が8割を占めるものの、大宰府西小学校区は『肯定派』と『否定派』が逆転し、『肯定派』は3割しかみられない。

鉄道の利便性に対する意識



( 2 ) バスの利便性に対する意識 ( 問 35 )

全体では、『肯定派』(45.0%)が『否定派』(28.5%)を上回るが、鉄道の利便性に比べ『肯定派』の割合が低い。

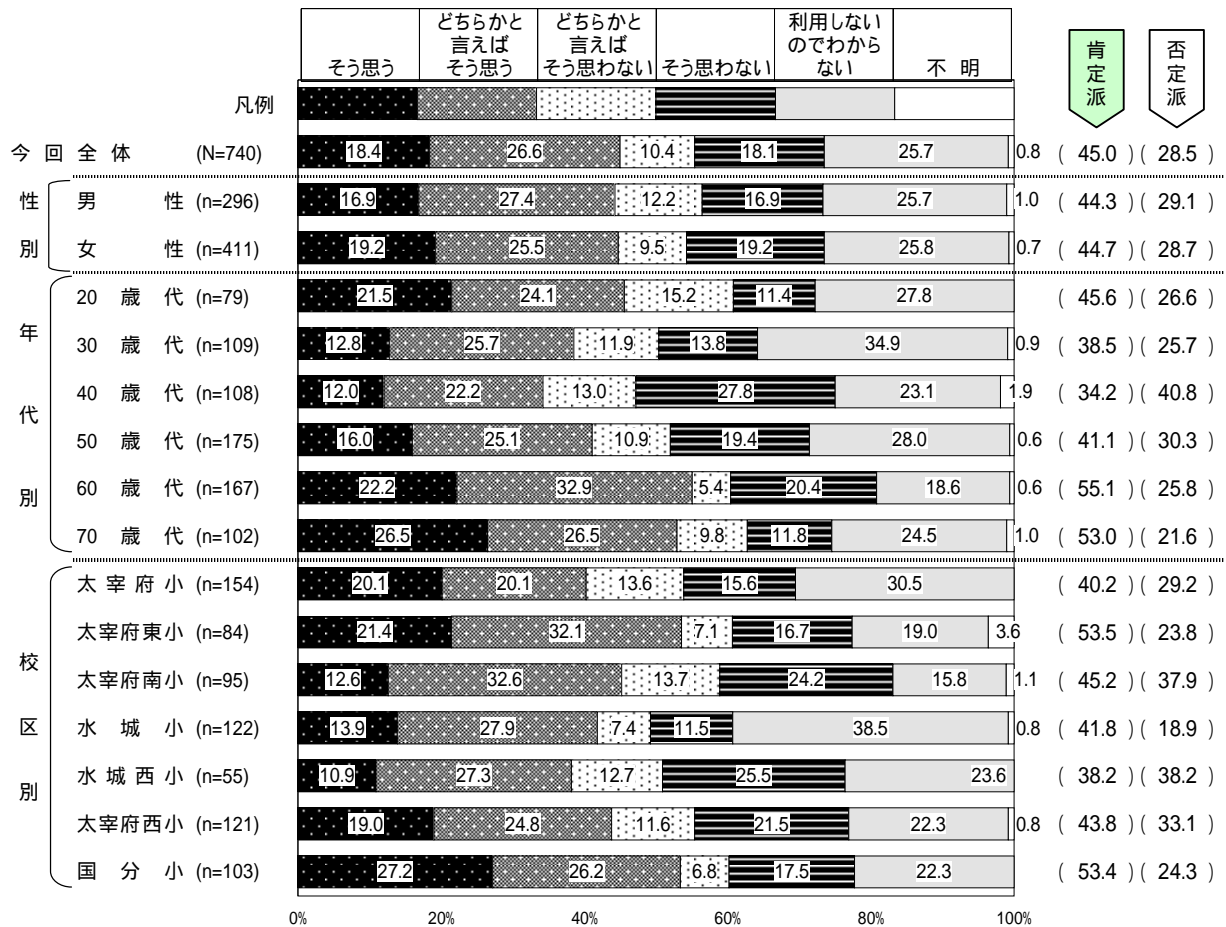
バスが便利かどうか尋ねたところ、「そう思う」が18.4%、「どちらかと言えばそう思う」が26.6%と、これらを合わせた『肯定派』は4割強であり、「どちらかと言えばそう思わない」(10.4%)、「そう思わない」(18.1%)を合計した『否定派』は約3割である。なお、「バスを利用しないのでわからない」は25.7%である。

性別でみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

年代別でみると、60～70歳代は『肯定派』が過半数を占めるが、唯一40歳代は『否定派』が『肯定派』を上回っている。

校区別でみると、太宰府東小学校区と国分小学校区において『肯定派』が過半数を占めている。

バスの利便性に対する意識



17. 景観

(1) 美しい自然に対する意識 (問 36)

全体では『肯定派』が8割強を占め、『否定派』(12.7%)を大きく上回っている。

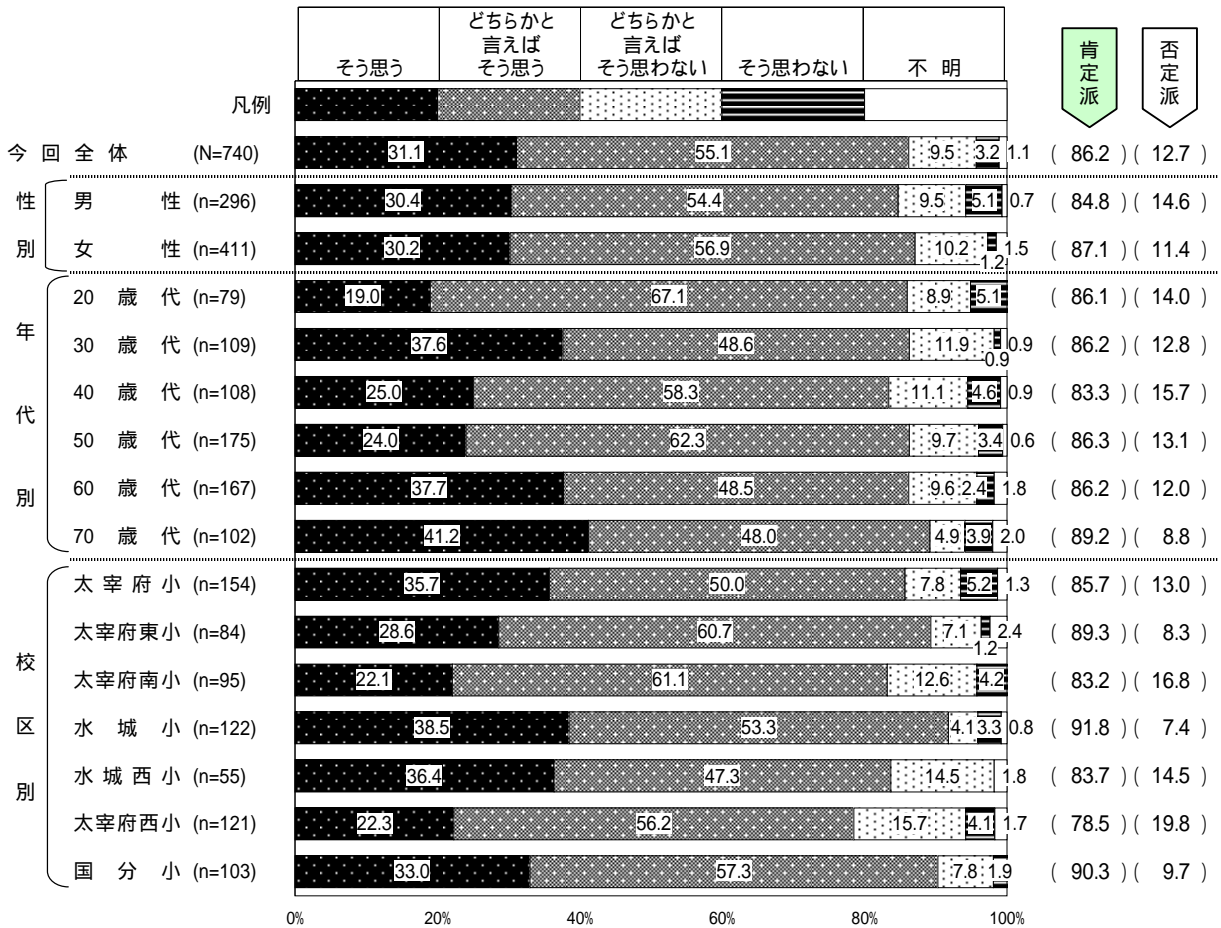
市内の自然は美しいかどうか尋ねたところ、「そう思う」が31.1%、「どちらかと言えばそう思う」が55.1%と、これらを合わせた『肯定派』は8割強を占める。一方、「どちらかと言えばそう思わない」(9.5%)、「そう思わない」(3.2%)を合計した『否定派』は1割と少ない。

性別でみると、男女ともほぼ同様の傾向を示しているが、僅かながら女性の『肯定派』が多い。

年代別でみると、年代にかかわらず『肯定派』が『否定派』を大きく上回り、中でも70歳代は「そう思う」と答える人が41.2%と多く、「どちらかと言えばそう思う」(48.0%)を合わせた『肯定派』が約9割を占める。

校区別でみると、校区にかかわらず『肯定派』が『否定派』を大きく上回り、中でも水城小学校区・国分小学校区は『肯定派』が9割以上を占めている。

美しい自然に対する意識



( 2 ) 美しい歴史的景観に対する意識 ( 問 37 )

全体では『肯定派』が9割以上を占め、『否定派』は1割にも満たない。

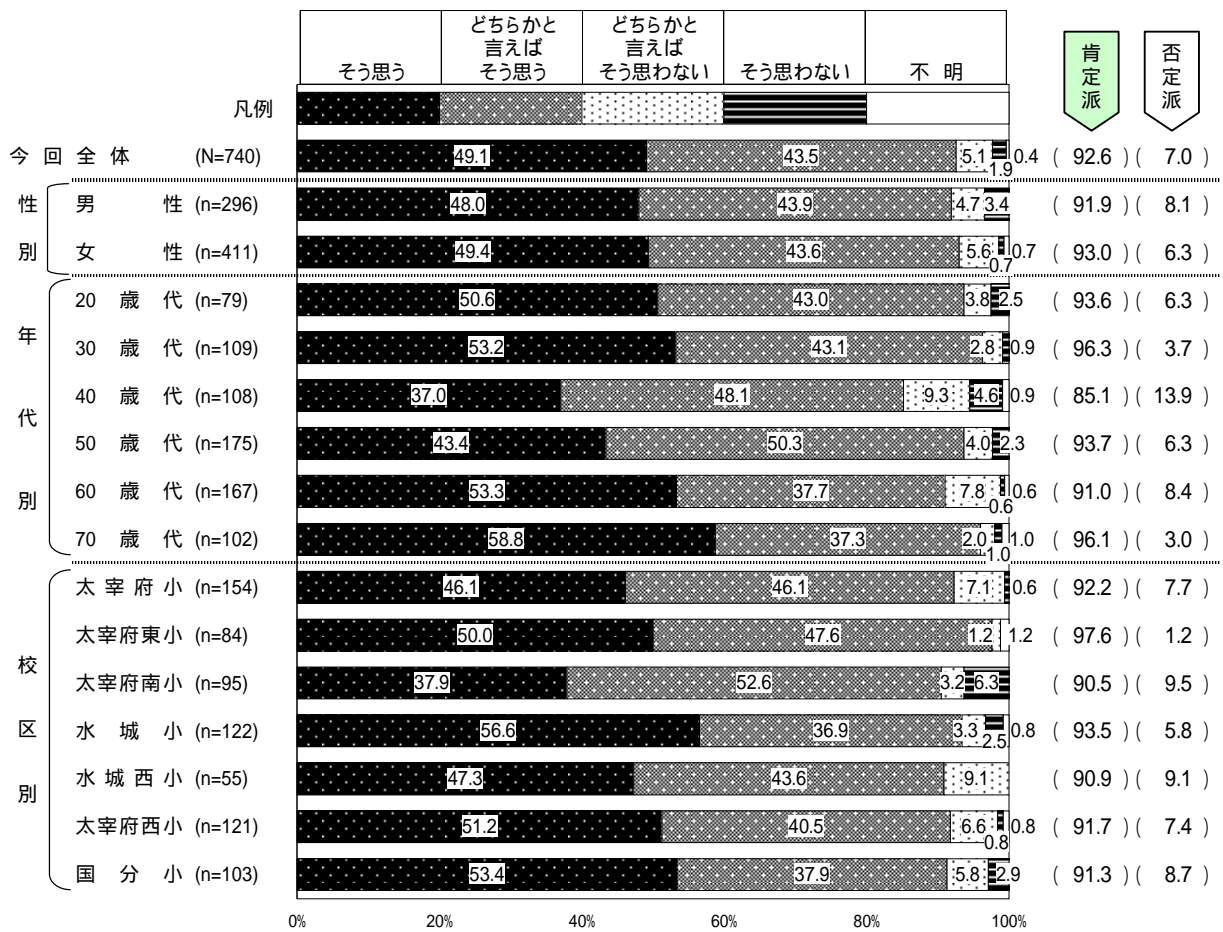
市内の歴史的な景観が美しいかどうか尋ねたところ、「そう思う」が49.1%、「どちらかと言えばそう思う」が43.5%と、これらを合わせた『肯定派』は9割以上を占め、「どちらかと言えばそう思わない」(5.1%)、「そう思わない」(1.9%)を合計した『否定派』は1割にも満たない。

性別でみると、男女ともほぼ同様の傾向を示しているが、僅かながら女性の『肯定派』が多い。

年代別でみると、年代にかかわらず『肯定派』が大半を占めるが、40歳代において『否定派』が他の年代に比べやや多い。

校区別でみると、校区にかかわらず『肯定派』が9割以上を占めている。

美しい歴史的景観に対する意識



( 3 ) 良好な町並みに対する意識 ( 問 38 )

全体では『肯定派』が約7割を占め、『否定派』(30.9%)を大きく上回っている。

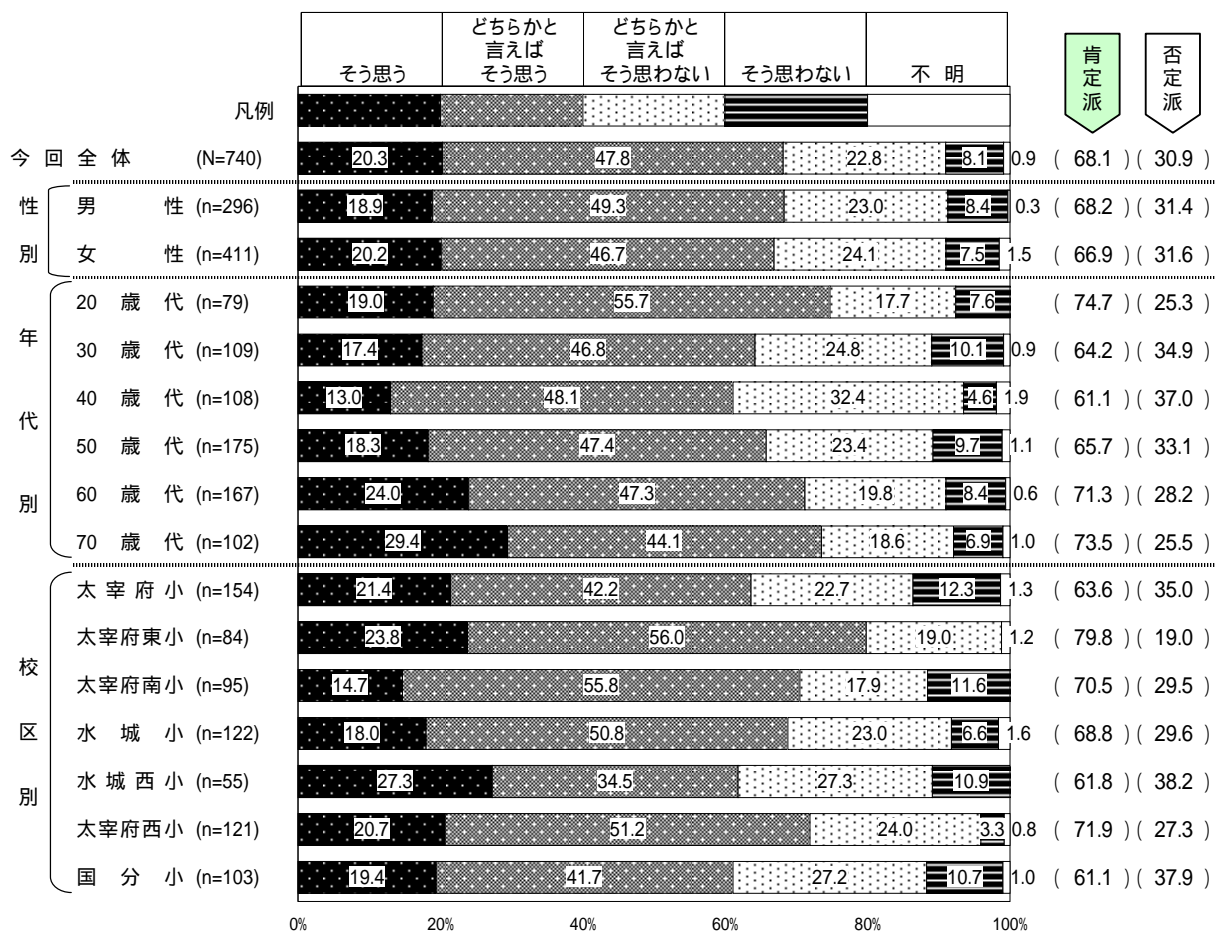
お住まいの地区が良好な町並みかどうか尋ねたところ、「そう思う」が20.3%、「どちらかと言えばそう思う」が47.8%と、これらを合わせた『肯定派』は約7割を占め、「どちらかと言えばそう思わない」(22.8%)、「そう思わない」(8.1%)を合計した『否定派』を大きく上回っている。

性別でみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

年代別でみると、年代にかかわらず『肯定派』が大半を占めるが、中でも20歳代の『肯定派』が他の年代に比べ多い。

校区别でみると、校区にかかわらず『肯定派』が『否定派』を上回っているが、大宰府東小学校区の『肯定派』が最も多い。

良好な町並みに対する意識





18. 情報化

(1) 世帯におけるパソコンによるインターネットの接続の有無 (問 39)

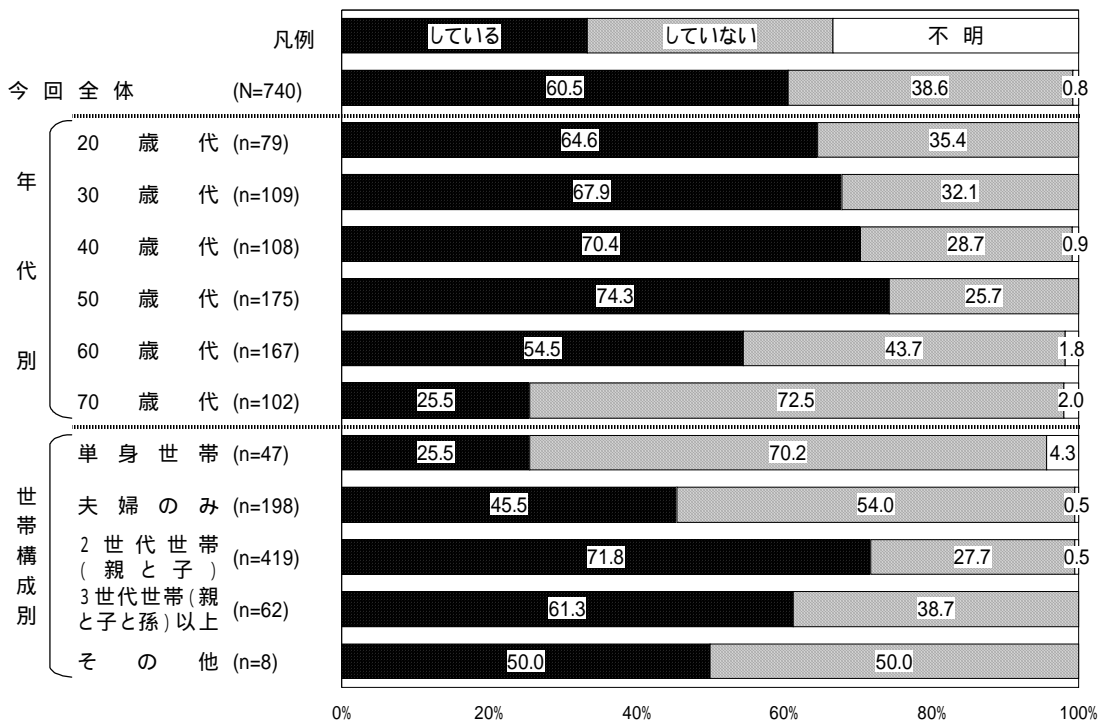
全体では、接続率が 60.5%となっている。

世帯におけるパソコンによるインターネットの接続の有無についてみると、「はい(している)」が 60.5%を占める。なお、「いいえ(していない)」は 38.6%、「不明」が 0.8%である。

年代別でみると、50 歳代の接続率が 74.3%で最も高く、逆に 70 歳代の接続率は 25.5%にとどまっている。

世帯構成別でみると、2 世代世帯の接続率が 71.8%で最も高く、逆に単身世帯の接続率は 25.5%にとどまっている。

世帯におけるパソコンによるインターネットの接続の有無



( 2 ) インターネットの利用状況 ( 問 40 )

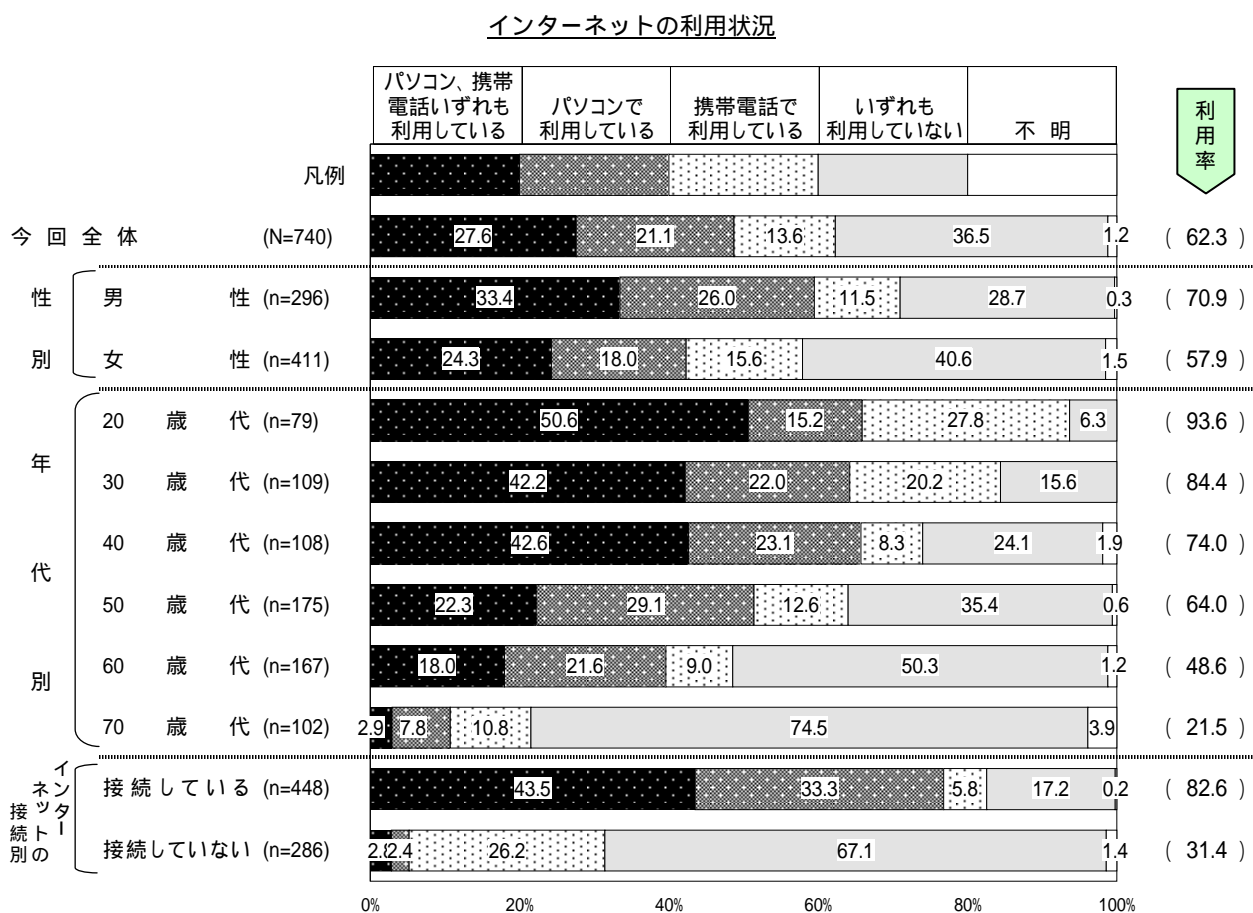
全体では利用率が 62.3%であり、中でも 20 歳代の場合 9 割以上が利用している。  
 ちなみに、70 歳代の利用率は 21.5%である。

インターネットの利用状況についてみると、「パソコン、携帯電話いずれも利用している」が 27.6%、「パソコンで利用している」が 21.1%、「携帯電話で利用している」が 13.6%となり、『利用率』は 6 割をこえる。なお、「いずれも利用していない」は 36.5%である。

性別でみると、男性が女性に比べ『利用率』が高い。

年代別でみると、年代が低いほど『利用率』は高く、20 歳代の利用率が 93.6%を占める。

インターネットの接続別でみると、インターネット接続者の利用率は 8 割以上を占める。



19. 文化財

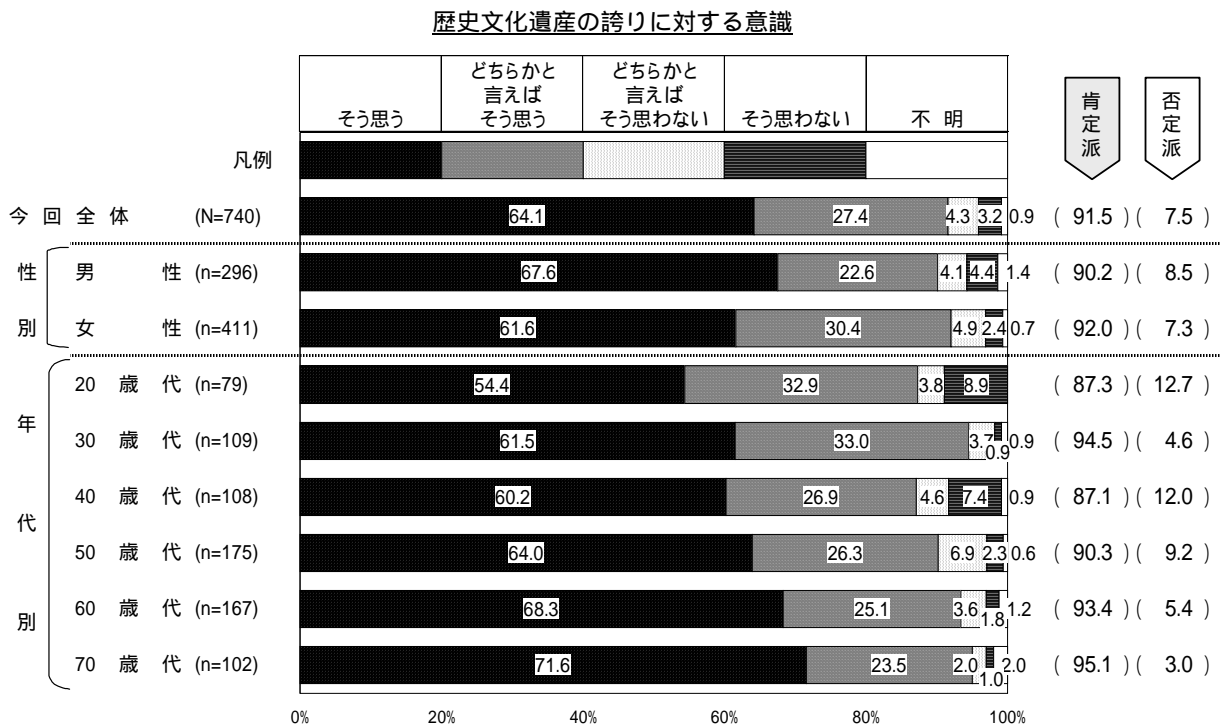
(1) 歴史文化遺産の誇りに対する意識 (問 41)

全体では『肯定派』が9割以上を占め、『否定派』は1割にも満たない。

市内の歴史文化遺産を誇りに思うかどうか尋ねたところ、「そう思う」が64.1%、「どちらかと言えばそう思う」が27.4%と、これらを合わせた『肯定派』は9割以上を占め、「どちらかと言えばそう思わない」(4.3%)、「そう思わない」(3.2%)を合計した『否定派』は1割にも満たない。

性別で見ると、男女ともほぼ同様の傾向を示しているが、僅かながら女性の『肯定派』が多い。

年代別で見ると、年代にかかわらず『肯定派』が大半を占めるが、中でも70歳代の『肯定派』が他の年代に比べ多い。



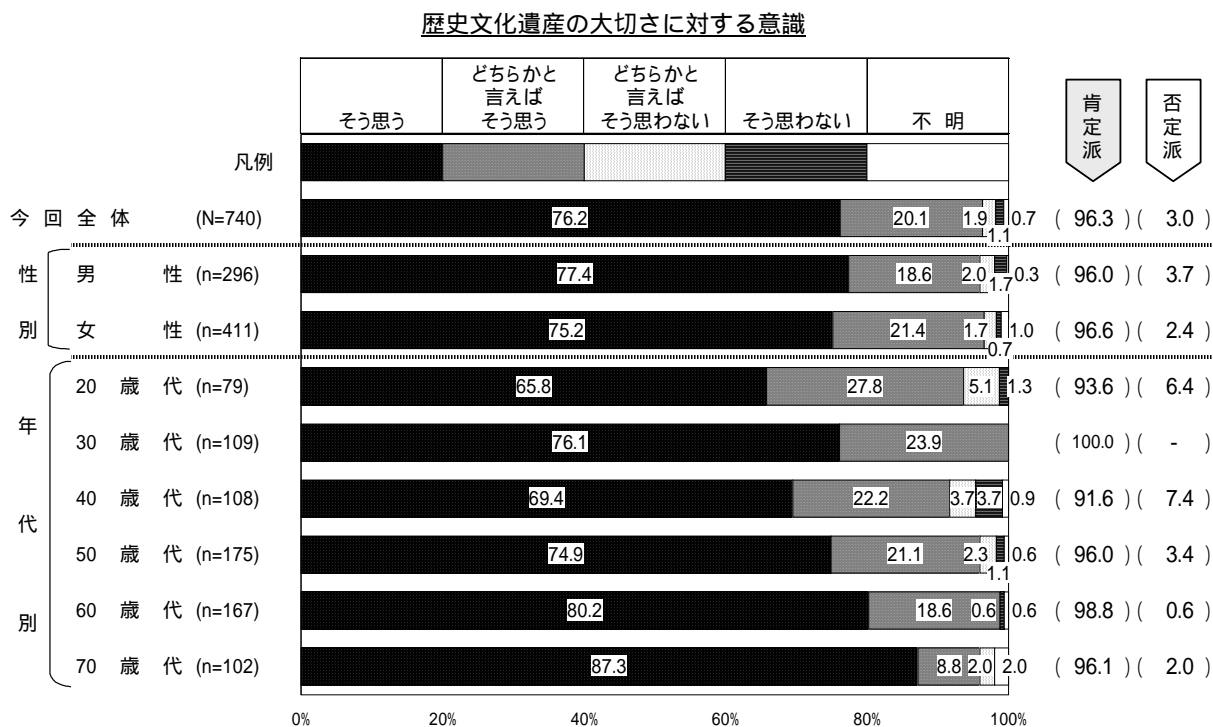
( 2 ) 歴史文化遺産の大切さに対する意識 ( 問 42 )

全体では、ほとんどが『肯定派』(96.3%)であり、『否定派』(3.0%)は極めて少ない。

歴史文化遺産を大切にしたいかどうか尋ねたところ、「そう思う」が76.2%、「どちらかと言えばそう思う」が20.1%と、これらを合わせた『肯定派』は96.3%を占め、「どちらかと言えばそう思わない」(1.9%)、「そう思わない」(1.1%)を合計した『否定派』は3.0%と極めて少ない。

性別でみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

年代別でみると、年代にかかわらずほぼ同様の傾向を示している。



20. 文化活動

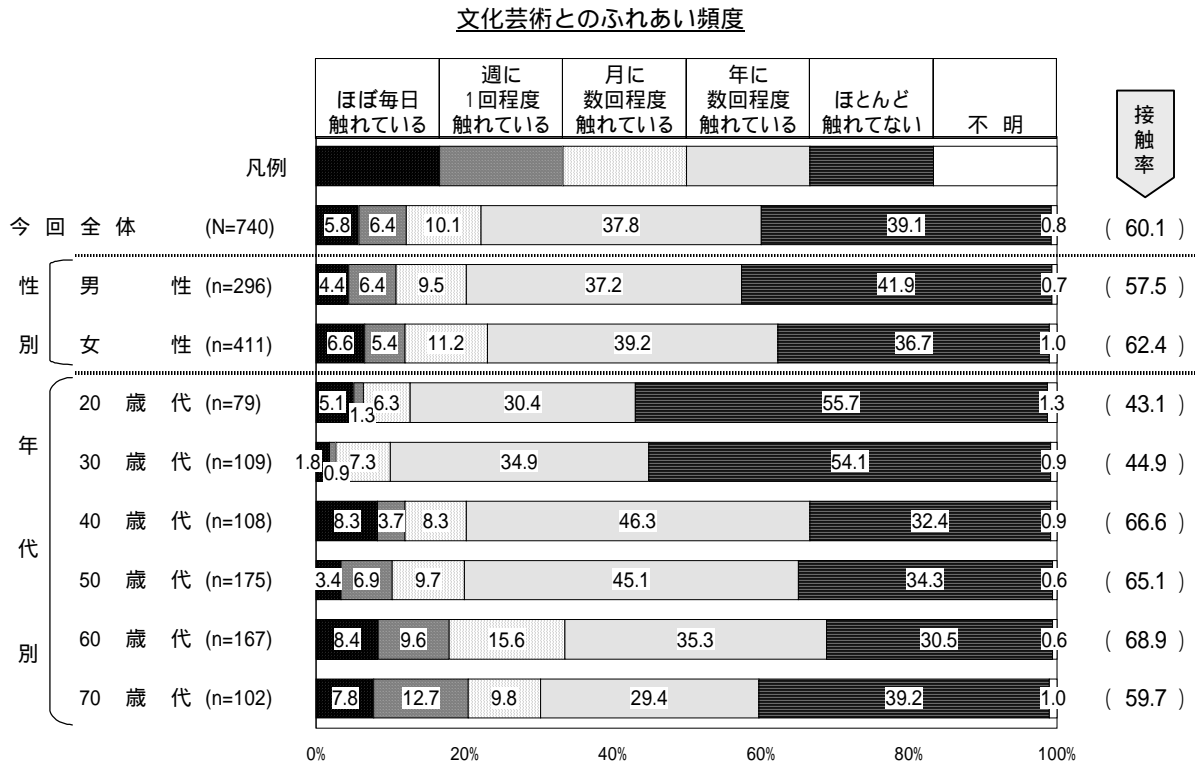
(1) 文化芸術とのふれあい頻度 (問 43)

全体では『接触率』が6割を占めるが、その大半は「年に数回程度触れている」に特化している。

文化芸術とのふれあい頻度についてみると、「ほぼ毎日触れている」が 5.8%、「週に1回程度触れている」が 6.4%、「月に数回程度触れている」が 10.1%、「年に数回程度触れている」が 37.8%と、これらを合わせた『接触率』は6割となっている。なお、「ほとんど触れていない」は 39.1%である。

性別でみると、女性が男性に比べ『接触率』がやや高い。

年代別でみると、60歳代の『接触率』が他の年代に比べ高く、逆に20～30歳代の『接触率』は4割台と低い。



## 21. 伝統文化

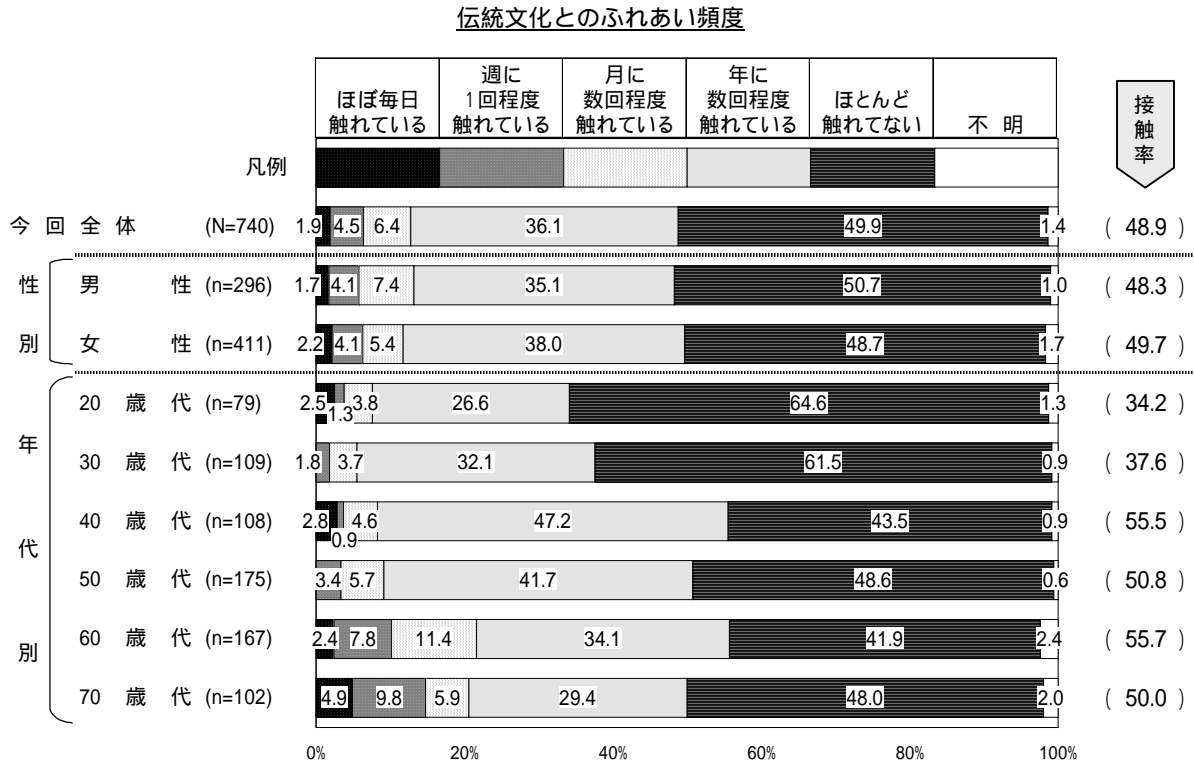
### (1) 伝統文化とのふれあい頻度 (問 44)

全体では『接触率』が約5割を占めるが、その大半は「年に数回程度触れている」に特化している。

伝統文化とのふれあい頻度についてみると、「ほぼ毎日触れている」が1.9%、「週に1回程度触れている」が4.5%、「月に数回程度触れている」が6.4%、「年に数回程度触れている」が36.1%と、これらを合わせた『接触率』は約5割となっている。なお、「ほとんど触れていない」は49.9%である。

性別でみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

年代別でみると、年代が高くなるほど『接触率』は高くなる傾向がみられるが、20～30歳代の場合『接触率』は3割台と低い。



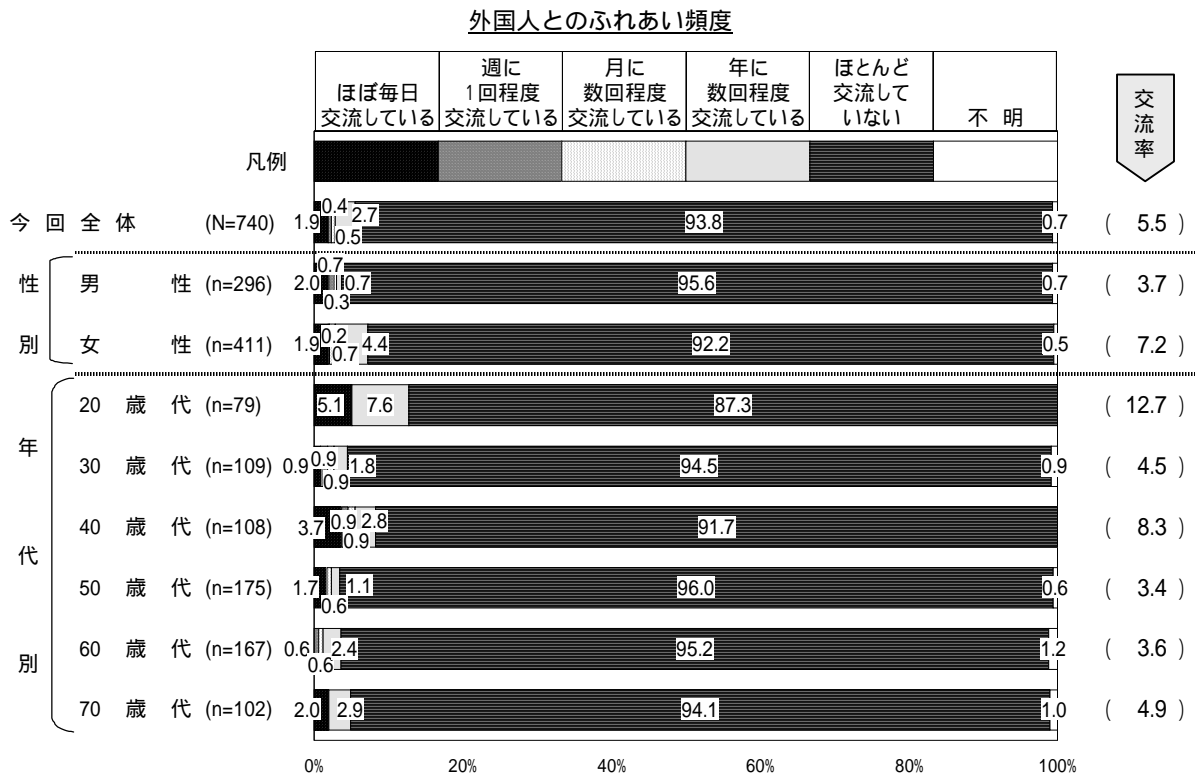
22 . 国際交流・地域間交流

( 1 ) 外国人との交流頻度 ( 問 45 )

全体では『交流率』が 5.5%と極めて低く、ほとんどは外国人との交流がない。

外国人との交流頻度についてみると、「ほぼ毎日交流している」が 1.9%、「週に 1 回程度交流している」が 0.4%、「月に数回程度交流している」が 0.5%、「年に数回程度交流している」が 2.7%と、これらを合わせた『交流率』は 1 割にも満たない。

性別でみると、女性が男性に比べ『交流率』がやや高いが、いずれも 1 割にも満たない。年代別でみると、20 歳代の『交流率』( 12.7% ) が最も高く、1 割をこえている。



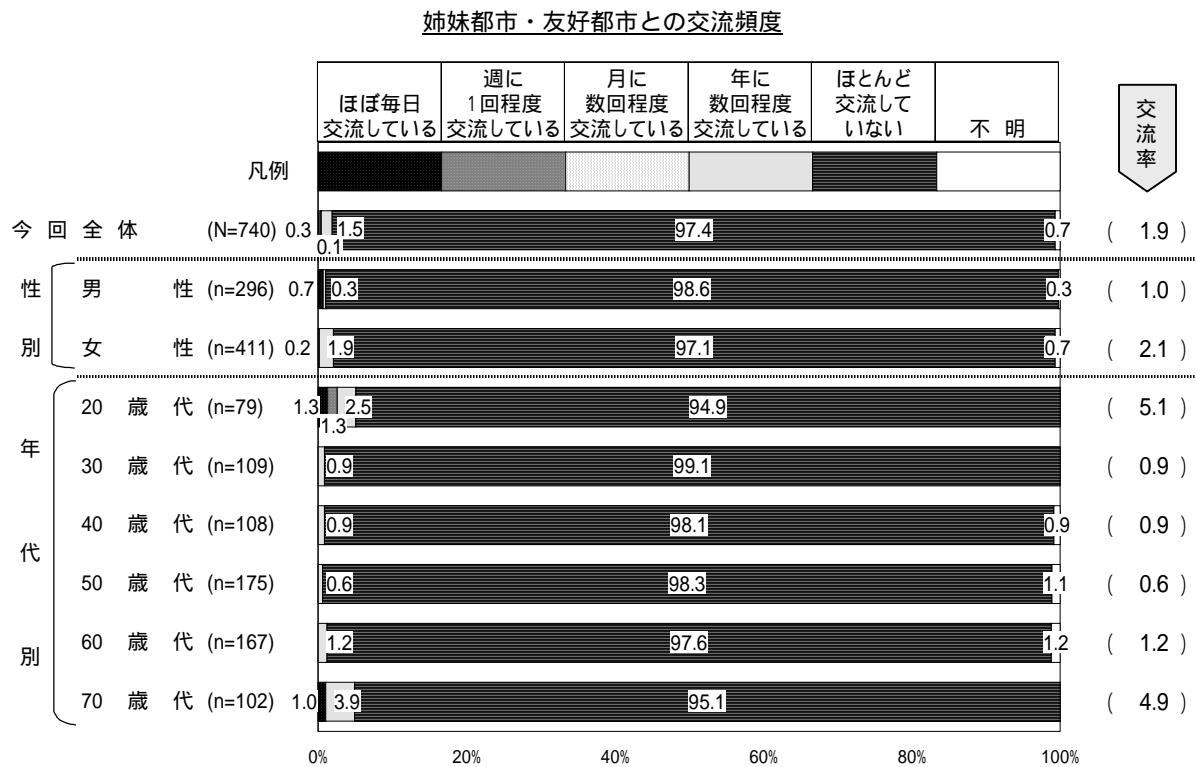
( 2 ) 姉妹都市・友好都市との交流頻度 ( 問 46 )

全体では『交流率』が 1.9%と極めて低く、ほとんどは姉妹都市との交流がない。

姉妹都市・友好都市との交流頻度についてみると、「ほぼ毎日交流している」が 0.3%、「週に 1 回程度交流している」が 0.1%、「年に数回程度触れている」が 1.5%と、これらを合わせた『交流率』は 1.9%と極めて低い。

性別でみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

年代別でみると、20 歳代の『交流率』( 5.1% ) が最も高い。





23. 情報公開

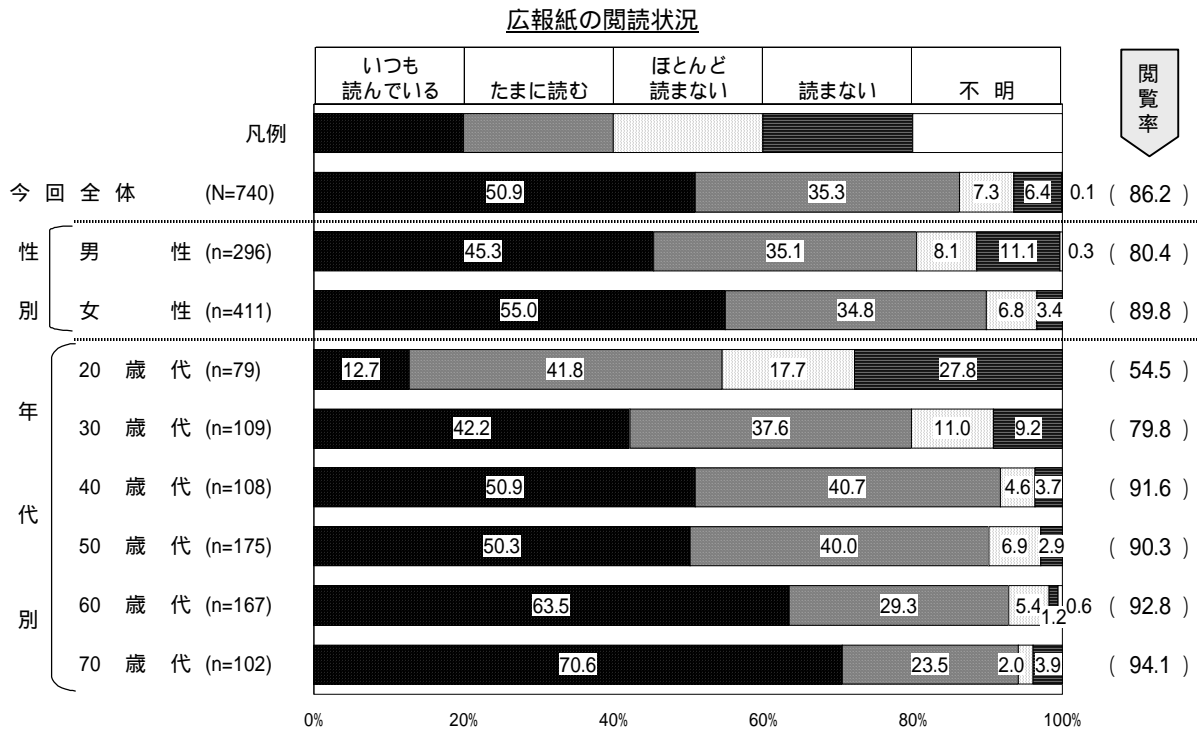
(1) 広報紙の閲読状況(問47)

全体では、「いつも読んでいる」が50.9%、「たまに読む」が35.3%で『閲読率』は9割弱を占める。  
逆に、20歳代の場合、「いつも読んでいる」が12.7%と低く、『閲読率』でも5割台にとどまっている。

「広報だざいふ」等の広報紙の閲読状況についてみると、「いつも読んでいる」が50.9%、「たまに読む」が35.3%と、これらを合わせた『閲読率』は9割弱を占め、「ほとんど読まない」(7.3%)、「読まない」(6.4%)を合計した『非閲読率』は1割程度である。

性別でみると、女性が男性に比べ『閲読率』がやや高く、女性の場合「いつも読んでいる」が55.0%を占める。

年代別でみると、年代が高くなるほど『閲読率』が高くなり、70歳代の場合「いつも読んでいる」が70.6%を占める。



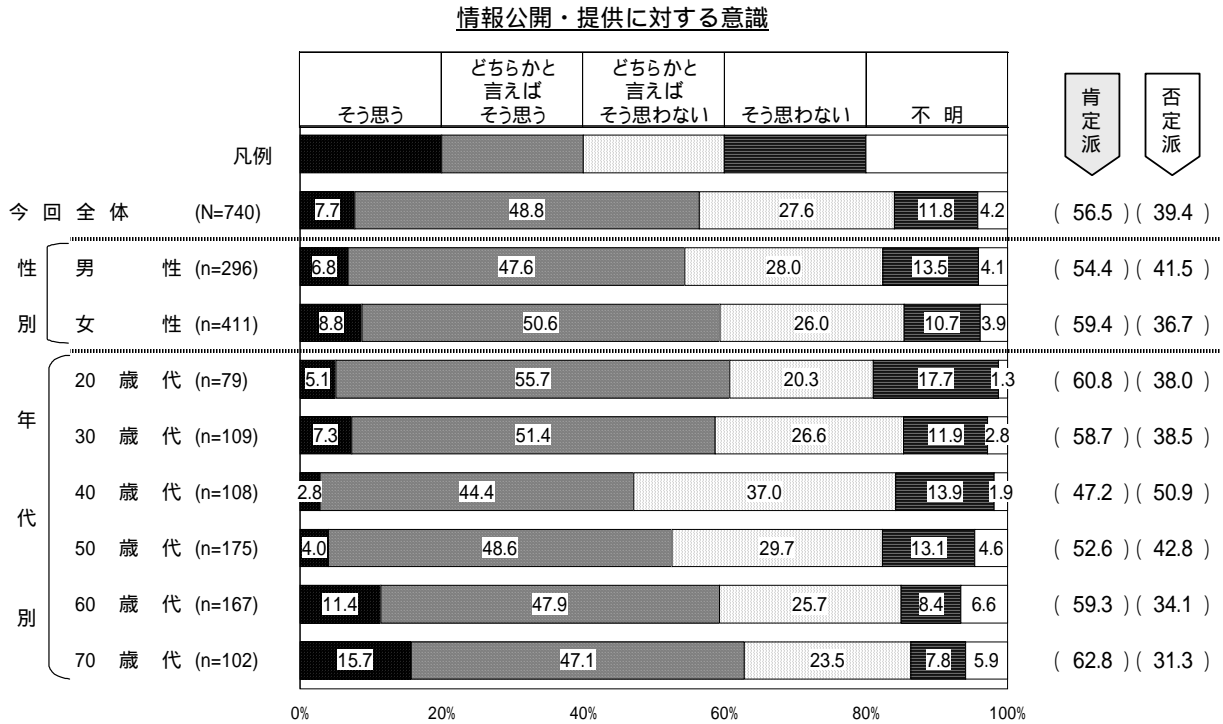
( 2 ) 情報公開・提供に対する意識 ( 問 48 )

全体では、『肯定派』が過半数と占めるが、『否定派』も約4割みられる。

市が積極的に情報公開・提供をしているかどうか尋ねたところ、「そう思う」が7.7%、「どちらかと言えばそう思う」が48.8%と、これらを合わせた『肯定派』は56.5%、「どちらかと言えばそう思わない」(27.6%)、「そう思わない」(11.8%)を合計した『否定派』は39.4%となっている。

性別でみると、女性が男性に比べ『肯定派』がやや多い。

年代別でみると、40歳代の場合『否定派』が『肯定派』が上回り、「そう思う」と答える人は2.8%と極めて低い。



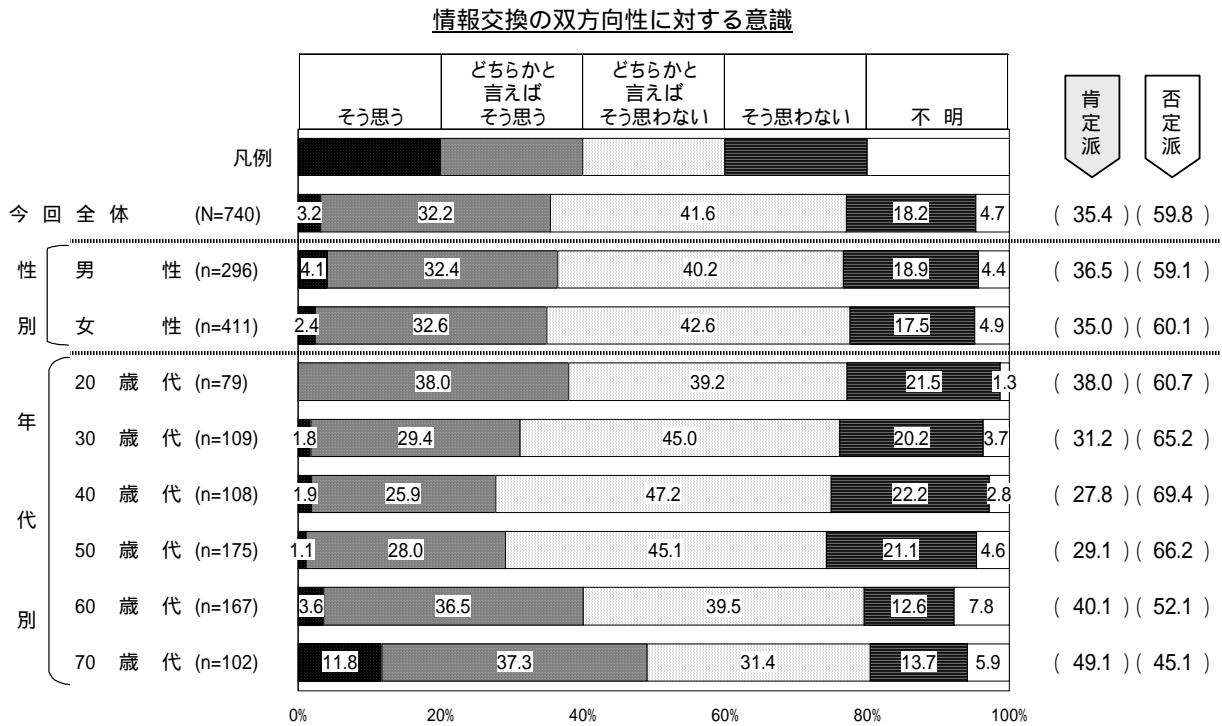
( 3 ) 情報交換の双方向性に対する意識 ( 問 49 )

全体では、『否定派』が約6割を占め『肯定派』を上回っている。

市民と行政の情報交換が双方向性になっているかどうか尋ねたところ、「そう思う」が3.2%、「どちらかと言えばそう思う」が32.2%と、これらを合わせた『肯定派』は35.4%であり、「どちらかと言えばそう思わない」(41.6%)、「そう思わない」(18.2%)を合計した『否定派』が約6割を占める。

性別でみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

年代別でみると、40歳代の『否定派』が他の年代に比べ最も多い。なお、70歳代だけは『肯定派』が『否定派』を上回っている。

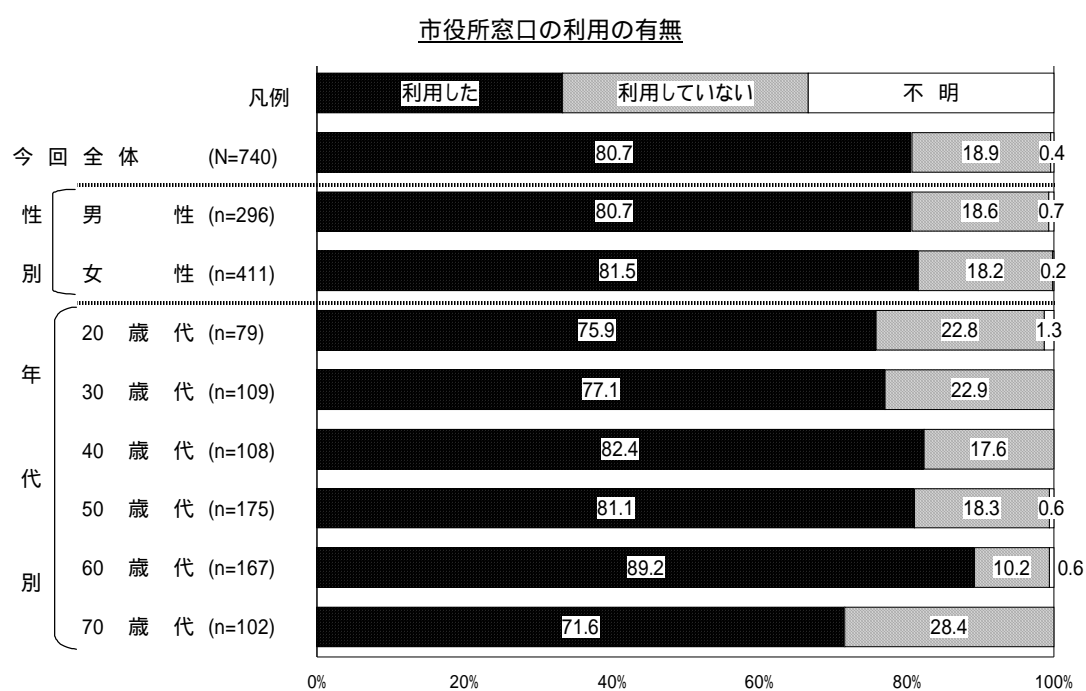


## 24. 行政サービス

### (1) 市役所窓口の利用の有無(問50)

全体では、利用率が8割を占める。

過去1年間における市役所窓口の利用の有無についてみると、「はい(利用した)」が80.7%を占める。なお、「いいえ(利用していない)」は18.9%、「わからない」は0.4%である。性別でみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。年代別でみると、60歳代の利用率が89.2%で最も高い。



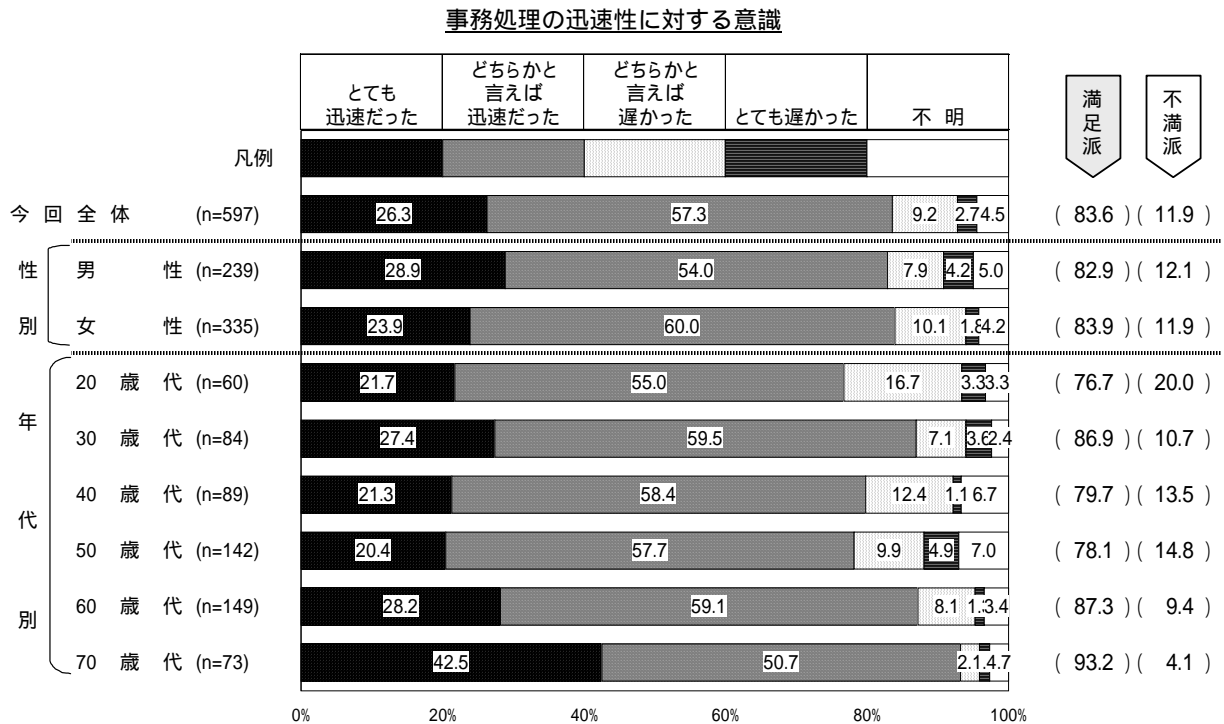
( 2 ) 事務処理の迅速性に対する意識 ( 問 50 付問 1 )

全体では、『満足派』が8割以上を占めるが、『不満派』も1割程度みられる。

市役所を利用した人 ( 597 人 ) に事務処理は迅速だったかどうか尋ねたところ、「とても迅速だった」が 26.3%、「どちらかと言えば迅速だった」が 57.3%と、これらを合わせた『満足派』は 8 割以上を占めるが、「どちらかと言えばそう思わない」( 9.2% )、「そう思わない」( 2.7% ) を合計した『不満派』が 1 割程度みられる。

性別でみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

年代別でみると、年代にかかわらず『満足派』が『不満派』を上回っており、中でも 70 歳代は『満足派』が 9 割以上を占める。逆に、20 歳代は『不満派』が 2 割ほどみられる。



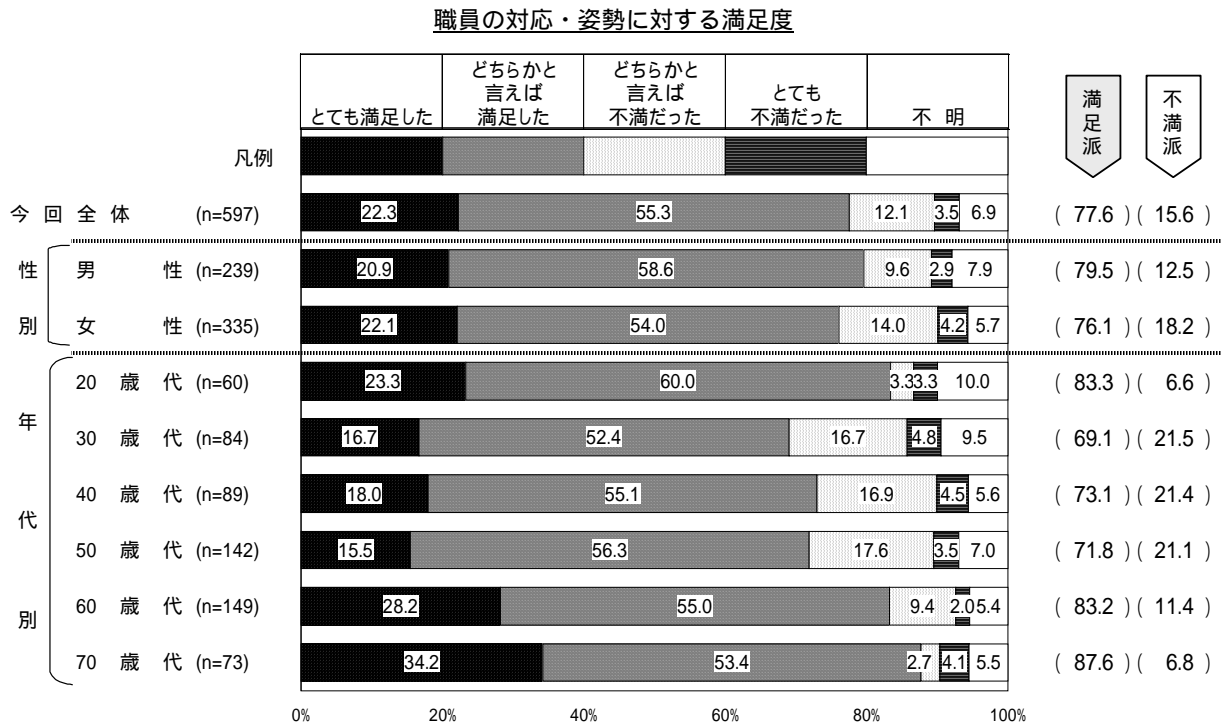
( 3 ) 職員の対応・姿勢に対する満足度 ( 問 50 付問 2 )

全体では、『満足派』が8割弱を占めるが、『不満派』も1割程度みられる。

市役所を利用した人 ( 597 人 ) に職員の対応・姿勢を尋ねたところ、「とても満足した」が 22.3%、「どちらかと言えば満足した」が 55.3%と、これらを合わせた『満足派』は 8 割弱を占めるが、「どちらかと言えば不満だった」( 12.1% )、「とても不満だった」( 3.5% ) を合計した『不満派』が 1 割以上みられる。

性別でみると、女性が男性に比べ『不満派』がやや多くみられる。

年代別でみると、年代にかかわらず『満足派』が『不満派』を上回っているが、30～50 歳代は『不満派』が 2 割以上もみられる。



25. 広域行政

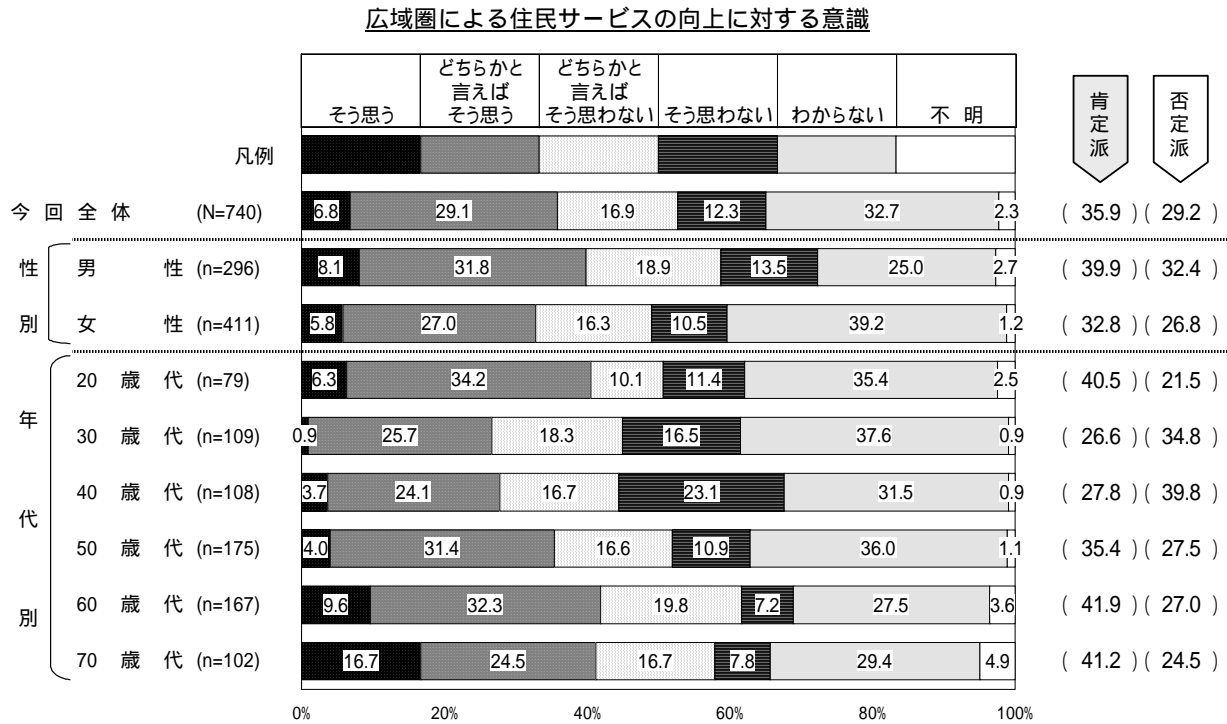
(1) 広域圏による住民サービスの向上に対する意識 (問 51)

全体では、『肯定派』が『否定派』を上回っているが、大きな差はみられない。

広域的な取組みが住民のサービス向上になったかどうか尋ねたところ、「そう思う」が6.8%、「どちらかと言えばそう思う」が29.1%と、これらを合わせた『肯定派』は35.9%にとどまり、「どちらかと言えばそう思わない」(16.9%)、「そう思わない」(12.3%)を合計した『否定派』も約3割みられる。なお、「わからない」は32.7%である。

性別で見ると、男性が女性に比べ『肯定派』が多くみられるが、男女とも『肯定派』と『否定派』が拮抗している。

年代別で見ると、30～40歳代の場合『否定派』が『肯定派』を上回り、『肯定派』は2割台にとどまっている。



#### 第4節 「歴史と文化の環境税」について

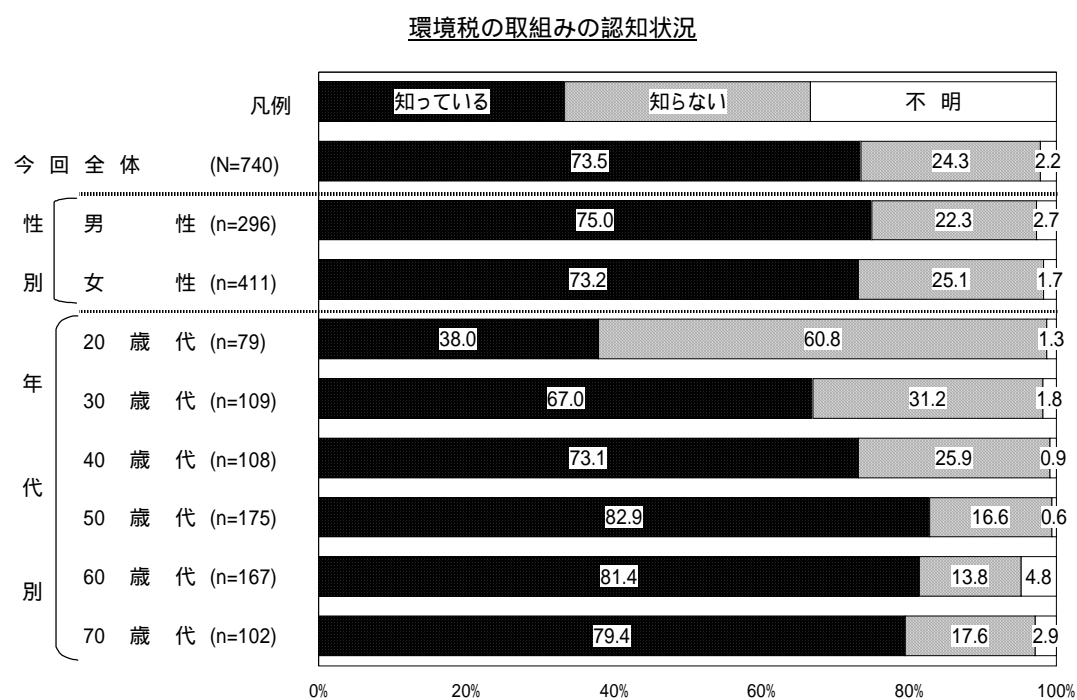
##### 1. 歴史と文化の環境税の認知状況（問52）

全体では7割以上が認知しているものの、4人中1人は「知らない」と回答している。  
特に、20歳代において非認知者が多い。

歴史と文化の環境税の認知状況をみると、「知っている」が73.5%を占めるものの、「知らない」(24.3%)と答える人が4人中1人もみられる。

性別でみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。

年代別でみると、20歳代の認知率が38.0%と極めて低い。





## 2. 歴史と文化の環境税の取組みに対する評価（問 53）

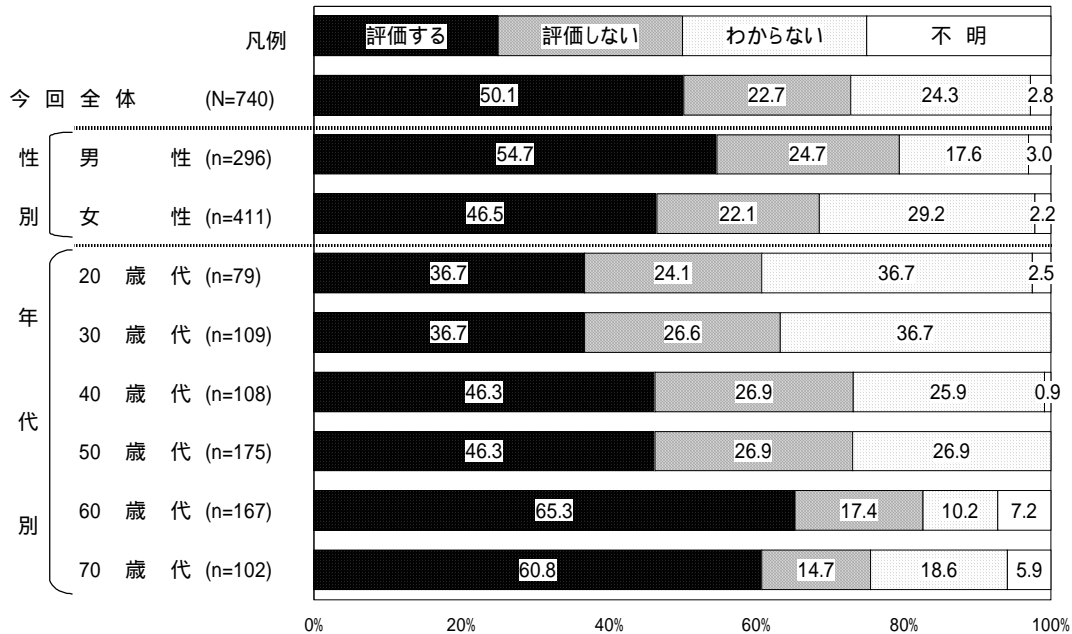
全体では、「評価する」が過半数を占めるが、「評価しない」と答える人が2割以上もみられる。

歴史と文化の環境税の取組みに対する評価をみると、「評価する」が 50.1%と過半数を占めるが、「評価しない」(22.7%)と答える人が2割以上もみられる。なお、「わからない」は 24.3%である。

性別でみると、男性が女性に比べ「評価する」と答える人が多い。

年代別でみると、年代にかかわらず「評価する」が「評価しない」を上回っているが、20～30歳代は「評価する」と答える人が少ない。

環境税の取組みに対する評価



### 3. 評価する理由（問 53 付問 1）

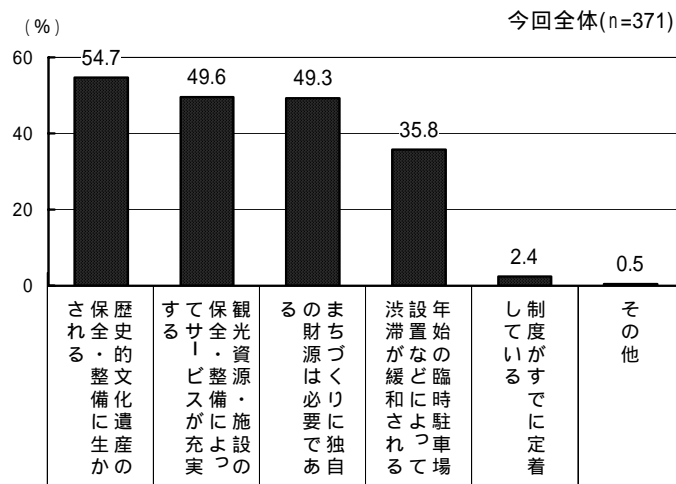
全体では、1位：「歴史的文化遺産の保全・整備に生かされる」(54.7%)、2位：「観光資源・施設の保全・整備によってサービスが充実する」(49.6%)、3位：「まちづくりに独自の財源は必要である」(49.3%)

歴史と文化の環境税の取組みを評価すると回答した人（371人）の理由をみると、「歴史的文化遺産の保全・整備に生かされる」が54.7%で最も高く、以下「観光資源・施設の保全・整備によってサービスが充実する」(49.6%)、「まちづくりに独自の財源は必要である」(49.3%)、「年始の臨時駐車場設置などによって渋滞が緩和される」(35.8%)と続き、「制度がすでに定着している」(2.4%)と回答する人は極めて少ない。

性別でみると、男女とも「歴史的文化遺産の保全・整備に生かされる」という理由が最も多いが、男性は「観光資源・施設の保全・整備によってサービスが充実する」、女性は「年始の臨時駐車場設置などによって渋滞が緩和される」という理由をあげる人が多い。

年代別では、サンプル数が少ないため分析は省略する。

評価する理由



数値：%

	サンプル数	評価する理由							不明
		歴史的・文化的遺産の保全・整備に生かされる	観光資源・施設の保全・整備によってサービスが充実する	まちづくりに独自の財源が必要である	年始の臨時駐車場設置などによって渋滞が緩和される	制度がすでに定着している	その他		
全体	371	54.7	49.6	49.3	35.8	2.4	0.5	1.1	
性別	男性	162	56.2	54.9	49.4	32.1	3.1	0.6	1.2
	女性	191	51.8	45.5	48.7	40.8	2.1	0.5	1.0
年代別	20歳代	29	37.9	48.3	34.5	20.7	6.9	-	-
	30歳代	40	47.5	50.0	35.0	27.5	2.5	5.0	2.5
	40歳代	50	50.0	46.0	54.0	46.0	2.0	-	4.0
	50歳代	81	69.1	54.3	43.2	38.3	1.2	-	-
	60歳代	109	50.5	45.9	53.2	34.9	0.9	-	0.9
	70歳代	62	59.7	53.2	62.9	38.7	4.8	-	-

#### 4. 評価しない理由（問 53 付問 2）

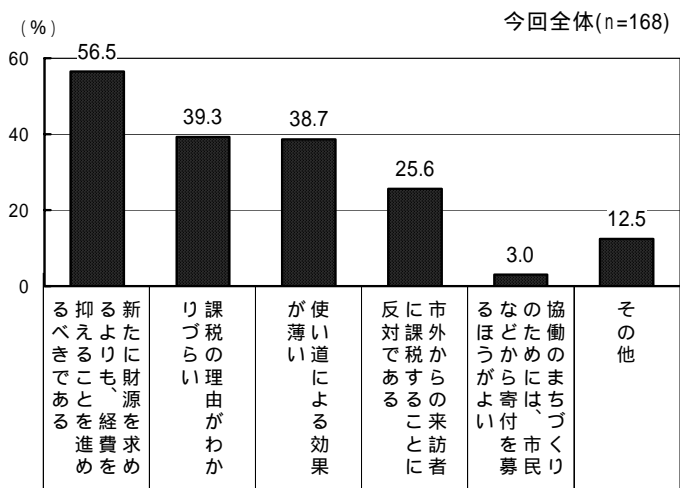
全体では、1位：「新たに財源を求めるよりも、経費を抑えることを進めるべきである」（56.5%）、  
2位：「課税の理由がわかりづらい」（39.3%）、3位：「使い道による効果が薄い」（38.7%）

逆に、取組みを評価しないと回答した人（168人）の理由をみると、「新たに財源を求めるよりも、経費を抑えることを進めるべきである」が56.5%で最も高く、以下「課税の理由がわかりづらい」（39.3%）、「使い道による効果が薄い」（38.7%）、「市外からの来訪者に課税することに反対」（25.6%）と続き、「協働のまちづくりのためには、市民などから寄付を募るほうがよい」（3.0%）と回答する人は極めて少ない。

性別でみると、男女とも「新たに財源を求めるよりも、経費を抑えることを進めるべきである」という理由が最も多いが、男性は「使い道による効果が薄い」、女性は「課税の理由がわかりづらい」という理由をあげる人が多い。

年代別では、サンプル数が少ないため分析は省略する。

評価しない理由



		サンプル数	抑えるよりも新たに財源を求めるべきである	課税の理由がわかりづらい	使い道による効果が薄い	市外からの来訪者に課税することに反対	協働のまちづくりのためには、市民などから寄付を募るほうがよい	その他	不明
全 体		168	56.5	39.3	38.7	25.6	3.0	12.5	1.2
性別	男 性	73	56.2	35.6	41.1	27.4	2.7	9.6	-
	女 性	91	57.1	42.9	36.3	25.3	3.3	15.4	2.2
年 代 別	20 歳 代	19	68.4	26.3	47.4	15.8	5.3	10.5	-
	30 歳 代	29	44.8	44.8	55.2	20.7	-	17.2	3.4
	40 歳 代	29	48.3	41.4	51.7	20.7	-	13.8	-
	50 歳 代	47	68.1	46.8	23.4	29.8	4.3	10.6	-
	60 歳 代	29	55.2	27.6	17.2	44.8	3.4	17.2	3.4
	70 歳 代	15	46.7	40.0	60.0	6.7	6.7	-	-

## 第5節 「これからのまちづくり」について

### 1. 九州国立博物館を生かしたまちづくりに対する意識（問54）

全体では、各施策に係らず必要度は高く、特に『2. 自然・歴史的景観や街並みを守り、太宰府らしい景観づくりを進める』ことへの必要派が最も多い。

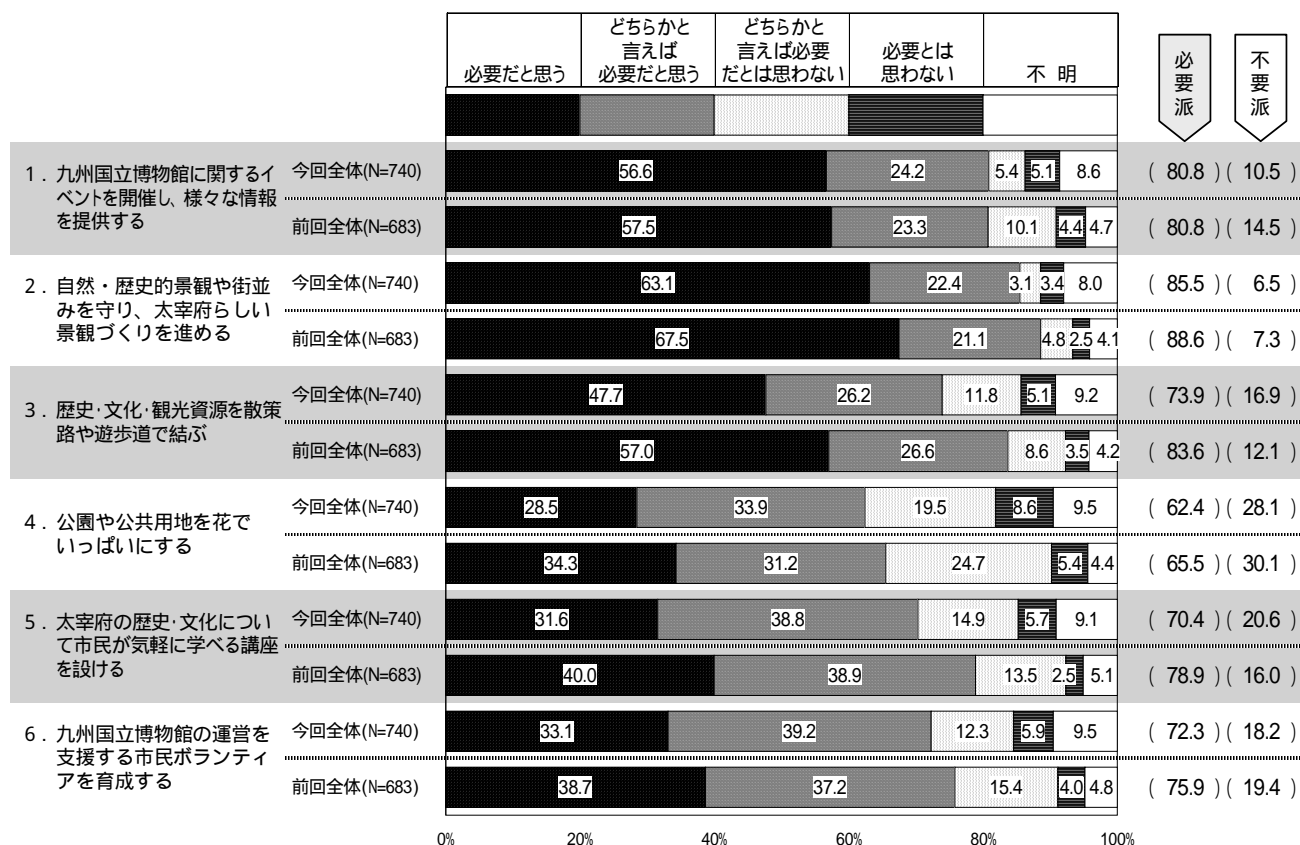
『九州国立博物館』を生かしたまちづくりのための必要度を施策ごとにみると、『2. 自然・歴史的景観や街並みを守り、太宰府らしい景観づくりを進める』は必要派（「必要だと思う」「どちらかと言えば必要だと思う」の合計）が85.5%を占めており、最も必要性が高くなっている。次いで『1. 九州国立博物館に関するイベント開催、様々な情報提供』（80.8%）、『3. 歴史・文化・観光資源を散策路や遊歩道などで結ぶ』（73.9%）となっている。一方、『4. 公園や公共用地を花でいっぱいにする』は最も必要性が低いものの、必要派は6割を超えている。

前回と比べると、ほぼ同様の傾向を示している。

性別でみると、男女とも『2. 自然・歴史的景観や街並みを守り、太宰府らしい景観づくりを進める』ことへの必要派が最も多い。

年代別にみると、年代に係らず『2. 自然・歴史的景観や街並みを守り、太宰府らしい景観づくりを進める』ことへの必要派が最も多い。

九州国立博物館を生かしたまちづくりに対する意識



## 九州国立博物館を生かしたまちづくりに対する意識

数値: %

	サンプル数	1.九州国立博物館に関するイベントを開催し、様々な情報を提供する					2.自然・歴史的景観や街並みを守り、太宰府らしい景観づくりを進める					3.歴史・文化・観光資源を散策路や遊歩道で結ぶ					
		必要だと思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	必要とは思わない	不明	必要だと思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	必要とは思わない	不明	必要だと思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	必要とは思わない	不明	
全 体	740	56.6	24.2	5.4	5.1	8.6	63.1	22.4	3.1	3.4	8.0	47.7	26.2	11.8	5.1	9.2	
性別	男性	296	57.4	20.3	5.7	5.7	10.8	68.9	18.2	2.0	2.4	8.4	51.7	25.3	7.4	5.1	10.5
	女性	411	56.4	28.0	5.1	4.4	6.1	58.6	26.8	3.9	3.9	6.8	44.8	28.5	14.6	4.9	7.3
年代別	20歳代	79	54.4	29.1	3.8	6.3	6.3	65.8	20.3	3.8	5.1	5.1	40.5	30.4	15.2	7.6	6.3
	30歳代	109	59.6	26.6	7.3	2.8	3.7	55.0	33.0	2.8	4.6	4.6	45.0	31.2	14.7	4.6	4.6
	40歳代	108	63.9	24.1	4.6	6.5	0.9	69.4	20.4	3.7	4.6	1.9	50.9	23.1	18.5	7.4	-
	50歳代	175	60.0	24.0	6.9	6.3	2.9	65.7	22.3	4.6	4.0	3.4	48.6	30.9	9.7	7.4	3.4
	60歳代	167	53.3	24.0	5.4	5.4	12.0	64.1	21.0	1.8	1.2	12.0	51.5	23.4	9.6	1.8	13.8
	70歳代	102	47.1	18.6	2.9	2.9	28.4	56.9	17.6	2.0	2.0	21.6	45.1	17.6	5.9	2.9	28.4

	サンプル数	4.公園や公共用地を花でいっぱいにする					5.太宰府の歴史・文化について市民が気軽に学べる講座を設ける					6.九州国立博物館の運営を支援する市民ボランティアを育成する					
		必要だと思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	必要とは思わない	不明	必要だと思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	必要とは思わない	不明	必要だと思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	必要とは思わない	不明	
全 体	740	28.5	33.9	19.5	8.6	9.5	31.6	38.8	14.9	5.7	9.1	33.1	39.2	12.3	5.9	9.5	
性別	男性	296	29.4	32.4	18.2	9.5	10.5	32.8	37.2	13.2	6.4	10.5	34.8	37.2	10.8	6.8	10.5
	女性	411	27.5	36.3	20.7	7.5	8.0	30.4	40.9	16.5	4.9	7.3	32.6	40.4	14.1	4.9	8.0
年代別	20歳代	79	31.6	35.4	16.5	11.4	5.1	22.8	41.8	20.3	10.1	5.1	32.9	39.2	15.2	7.6	5.1
	30歳代	109	24.8	35.8	24.8	10.1	4.6	22.9	45.9	21.1	6.4	3.7	27.5	42.2	20.2	5.5	4.6
	40歳代	108	25.0	40.7	25.0	8.3	0.9	32.4	42.6	20.4	3.7	0.9	33.3	42.6	16.7	5.6	1.9
	50歳代	175	28.6	32.0	24.0	12.0	3.4	37.1	38.3	16.6	4.0	4.0	40.0	39.4	8.6	8.0	4.0
	60歳代	167	33.5	35.9	12.6	5.4	12.6	37.7	37.1	7.8	5.4	12.0	32.9	40.1	10.2	3.6	13.2
	70歳代	102	25.5	23.5	13.7	4.9	32.4	27.5	28.4	6.9	6.9	30.4	27.5	30.4	6.9	5.9	29.4

## 2. 各種施策に対する考え方（問55）

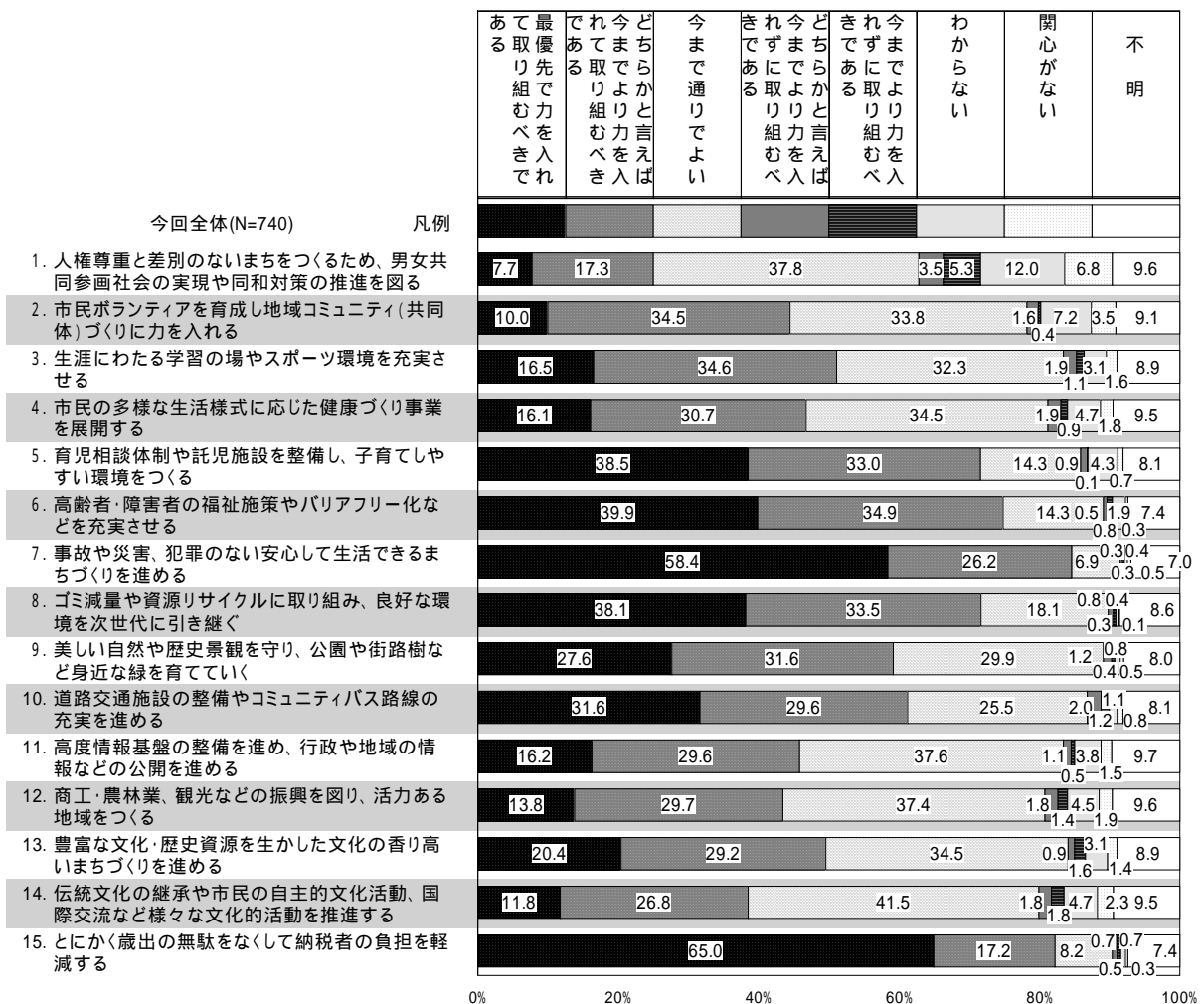
全体では、『15. とにかく歳出の無駄をなくして納税者の負担を軽減する』、『7. 事故や災害、犯罪のない安心して生活できるまちづくりを進める』という施策に対する優先度が高い。

すみよいまちになるための必要度を施策ごとにみると、「最優先で取り組むべき」は『15. とにかく歳出の無駄をなくして納税者の負担を軽減する』(65.0%)が最も多く、次いで『7. 事故や災害、犯罪のない安心して生活できるまちづくりを進める』(58.4%)となり、この2者は「今までより力を入れて取り組む」という割合を合わせた優先度が8割以上を占める。

以下、優先度(=「最優先で取り組むべき」+「今までより力を入れて取り組む」)の合計の高い施策をみると、『6. 高齢者・障害者の福祉施策やバリアフリー化などを充実させる』(74.8%)、『5. 育児相談体制や託児施設を整備し、子育てしやすい環境をつくる』(71.5%)が7割以上を占める。

逆に、どの施策をみても「どちらかと言えば今までより力を入れずに取り組む」、「今までより力を入れずに取り組む」と答える人は1割にも満たない。

各種施策に対する考え方



各種施策に対する考え方

数値: %

	サンプル数	1. 人権尊重と差別のないまちをつくるため、男女共同参画社会の実現や同和対策の推進を図る									2. 市民ボランティアを育成し地域コミュニティ(共同体)づくりに力を入れる								
		り最組む優先すべきである	組むべきである	どちらかといえれば取りま	今まで通りでよい	り最組む優先すべきである	組むべきである	どちらかといえれば取りま	今まで通りでよい	わ	関心がない	不明	り最組む優先すべきである	組むべきである	どちらかといえれば取りま	今まで通りでよい	わ	関心がない	不明
全体	740	7.7	17.3	37.8	3.5	5.3	12.0	6.8	9.6	10.0	34.5	33.8	1.6	0.4	7.2	3.5	9.1		
性別	男性	296	11.1	16.9	38.2	2.7	6.1	7.8	8.1	9.1	12.5	36.5	30.7	1.7	0.3	5.1	4.4	8.8	
	女性	411	5.4	17.5	37.7	4.1	5.1	15.3	5.6	9.2	8.5	33.1	36.3	1.7	0.5	8.5	2.7	8.8	
年代別	20歳代	79	10.1	22.8	39.2	-	3.8	12.7	6.3	5.1	7.6	27.8	44.3	-	-	8.9	6.3	5.1	
	30歳代	109	6.4	29.4	41.3	0.9	2.8	9.2	6.4	3.7	8.3	37.6	35.8	1.8	0.9	8.3	3.7	3.7	
	40歳代	108	12.0	25.0	35.2	3.7	5.6	10.2	7.4	0.9	9.3	37.0	40.7	1.9	-	3.7	7.4	-	
	50歳代	175	8.6	13.7	39.4	5.7	6.3	12.6	6.3	7.4	12.0	37.7	29.7	2.3	0.6	9.1	2.3	6.3	
	60歳代	167	5.4	10.2	37.7	3.6	6.0	16.8	8.4	12.0	10.8	35.3	31.1	1.8	0.6	7.2	1.8	11.4	
	70歳代	102	4.9	9.8	33.3	4.9	5.9	7.8	4.9	28.4	9.8	26.5	27.5	1.0	-	4.9	2.0	28.4	

	サンプル数	3. 生涯にわたる学習の場やスポーツ環境を充実させる									4. 市民の多様な生活様式に応じた健康づくり事業を展開する								
		り最組む優先すべきである	組むべきである	どちらかといえれば取りま	今まで通りでよい	り最組む優先すべきである	組むべきである	どちらかといえれば取りま	今まで通りでよい	わ	関心がない	不明	り最組む優先すべきである	組むべきである	どちらかといえれば取りま	今まで通りでよい	わ	関心がない	不明
全体	740	16.5	34.6	32.3	1.9	1.1	3.1	1.6	8.9	16.1	30.7	34.5	1.9	0.9	4.7	1.8	9.5		
性別	男性	296	19.9	36.8	26.0	2.7	1.0	2.0	2.7	8.8	15.9	34.8	29.7	2.7	1.4	3.4	2.7	9.5	
	女性	411	14.1	33.8	37.0	1.5	0.7	3.6	0.7	8.5	16.8	27.7	38.4	1.5	0.5	5.4	1.0	8.8	
年代別	20歳代	79	19.0	36.7	31.6	-	-	2.5	5.1	5.1	16.5	24.1	43.0	-	1.3	5.1	3.8	6.3	
	30歳代	109	13.8	41.3	34.9	0.9	-	3.7	1.8	3.7	15.6	29.4	44.0	0.9	1.8	2.8	1.8	3.7	
	40歳代	108	14.8	46.3	30.6	0.9	2.8	3.7	-	0.9	13.0	38.0	36.1	3.7	1.9	4.6	1.9	0.9	
	50歳代	175	18.3	36.6	32.0	3.4	-	3.4	1.1	5.1	14.3	36.6	34.3	0.6	0.6	6.9	1.7	5.1	
	60歳代	167	18.6	31.1	32.3	1.8	0.6	2.4	0.6	12.6	19.8	31.1	29.3	3.6	-	2.4	1.2	12.6	
	70歳代	102	12.7	15.7	32.4	2.9	3.9	2.9	2.9	26.5	16.7	18.6	24.5	2.0	1.0	6.9	1.0	29.4	

	サンプル数	5. 育児相談体制や託児施設を整備し、子育てしやすい環境をつくる									6. 高齢者・障害者の福祉施策やバリアフリー化などを充実させる								
		り最組む優先すべきである	組むべきである	どちらかといえれば取りま	今まで通りでよい	り最組む優先すべきである	組むべきである	どちらかといえれば取りま	今まで通りでよい	わ	関心がない	不明	り最組む優先すべきである	組むべきである	どちらかといえれば取りま	今まで通りでよい	わ	関心がない	不明
全体	740	38.5	33.0	14.3	0.9	0.1	4.3	0.7	8.1	39.9	34.9	14.3	0.5	0.8	1.9	0.3	7.4		
性別	男性	296	34.5	34.8	16.2	1.0	0.3	3.7	1.0	8.4	39.2	34.1	15.9	0.3	1.7	1.0	0.7	7.1	
	女性	411	41.1	32.8	12.9	1.0	-	4.6	0.2	7.3	40.6	35.8	13.6	0.7	0.2	1.9	-	7.1	
年代別	20歳代	79	46.8	34.2	10.1	-	1.3	1.3	1.3	5.1	48.1	35.4	8.9	-	1.3	-	1.3	5.1	
	30歳代	109	58.7	29.4	7.3	0.9	-	-	-	3.7	39.4	39.4	16.5	-	-	0.9	-	3.7	
	40歳代	108	40.7	38.0	17.6	0.9	-	1.9	-	0.9	50.0	32.4	14.8	-	-	0.9	-	1.9	
	50歳代	175	32.0	37.1	16.6	1.1	-	6.9	1.7	4.6	33.7	41.7	13.7	1.7	2.3	2.9	-	4.0	
	60歳代	167	31.7	32.9	18.6	-	-	6.6	-	10.2	38.3	32.3	18.0	-	-	1.8	0.6	9.0	
	70歳代	102	30.4	23.5	10.8	2.9	-	5.9	1.0	25.5	36.3	24.5	10.8	1.0	1.0	3.9	-	22.5	





	サンプル数	13. 豊富な文化・歴史資源を生かした文化の香り高いまちづくりを進める									14. 伝統文化の継承や市民の自主的文化活動、国際交流など様々な文化的活動を推進する											
		最も優先すべきである	組むべきである	どちらかといえれば取りま	今まで通りでよい	り組むべきである	どちらかといえれば今取	に取組むべきである	今までより力を入れない	わからない	関心がない	不明	り組むべきである	最も優先すべきである	組むべきである	どちらかといえれば取りま	今まで通りでよい	り組むべきである	どちらかといえれば今取	に取組むべきである	今までより力を入れない	わからない
全 体	740	20.4	29.2	34.5	0.9	1.6	3.1	1.4	8.9	11.8	26.8	41.5	1.8	1.8	4.7	2.3	9.5					
性別	男 性	296	25.3	31.1	28.7	0.7	1.4	1.7	1.7	9.5	14.5	30.7	37.2	2.0	2.0	1.4	2.7	9.5				
	女 性	411	16.5	28.2	39.7	1.2	1.7	4.1	0.7	7.8	10.2	23.6	45.7	1.7	1.5	6.8	1.7	8.8				
年 代 別	20 歳代	79	16.5	26.6	41.8	2.5	-	5.1	2.5	5.1	19.0	13.9	53.2	-	2.5	3.8	2.5	5.1				
	30 歳代	109	12.8	31.2	41.3	-	3.7	5.5	1.8	3.7	9.2	24.8	45.9	3.7	1.8	6.4	3.7	4.6				
	40 歳代	108	20.4	30.6	39.8	0.9	2.8	1.9	2.8	0.9	12.0	27.8	48.1	1.9	1.9	3.7	3.7	0.9				
	50 歳代	175	18.9	31.4	36.6	1.1	1.7	2.3	1.7	6.3	10.9	28.6	41.7	1.7	1.7	4.0	3.4	8.0				
	60 歳代	167	28.7	26.3	31.1	1.2	-	1.8	-	10.8	12.6	34.1	36.5	1.8	1.2	3.6	-	10.2				
	70 歳代	102	20.6	28.4	17.6	-	2.0	3.9	-	27.5	8.8	22.5	28.4	1.0	2.0	7.8	1.0	28.4				

	サンプル数	15. とにかく歳出の無駄をなくして納税者の負担を軽減する								
		最も優先すべきである	組むべきである	どちらかといえれば取りま	今まで通りでよい	り組むべきである	どちらかといえれば今取	に取組むべきである	今までより力を入れない	わからない
全 体	740	65.0	17.2	8.2	0.7	0.5	0.7	0.3	7.4	
性別	男 性	296	64.5	14.9	11.5	0.3	1.4	-	-	7.4
	女 性	411	66.7	18.7	5.8	0.7	-	1.2	0.2	6.6
年 代 別	20 歳代	79	65.8	17.7	6.3	-	3.8	1.3	-	5.1
	30 歳代	109	67.0	19.3	9.2	-	-	1.8	-	2.8
	40 歳代	108	71.3	16.7	9.3	-	-	0.9	0.9	0.9
	50 歳代	175	62.9	18.9	10.3	1.1	0.6	-	-	6.3
	60 歳代	167	67.1	17.4	6.6	1.2	-	-	-	7.8
	70 歳代	102	55.9	11.8	6.9	1.0	-	1.0	1.0	22.5

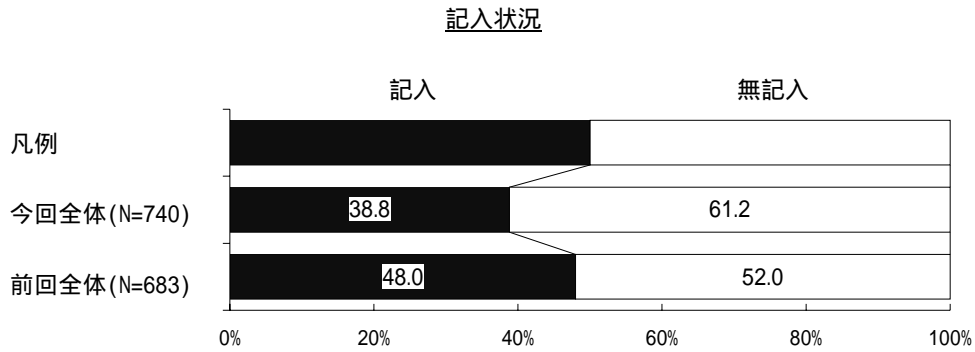
## 第6節 まちづくりに対する自由意見

### 1. 記入状況

自由意見の記入状況をみると、全体の38.8%が記入しており、前回は大きく下回っている。

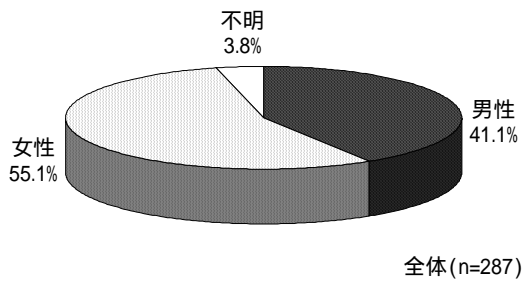
記入者の内訳は、女性が男性に比べ多く、50歳代・60歳代の記入が各2割以上であった。

また、太宰府小学校区の記入が2割以上を占めている。

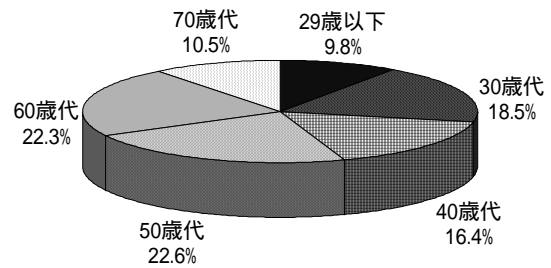


### 記入者の内訳

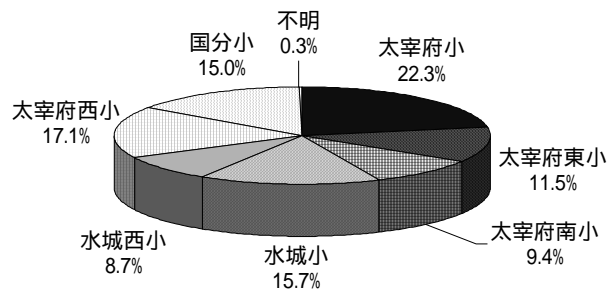
#### <性別>



#### <年代>

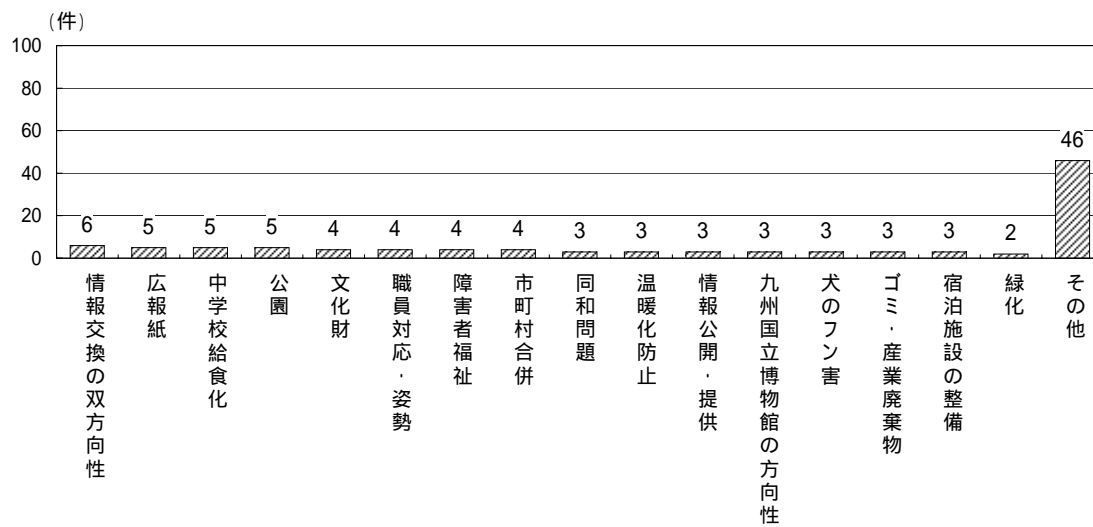
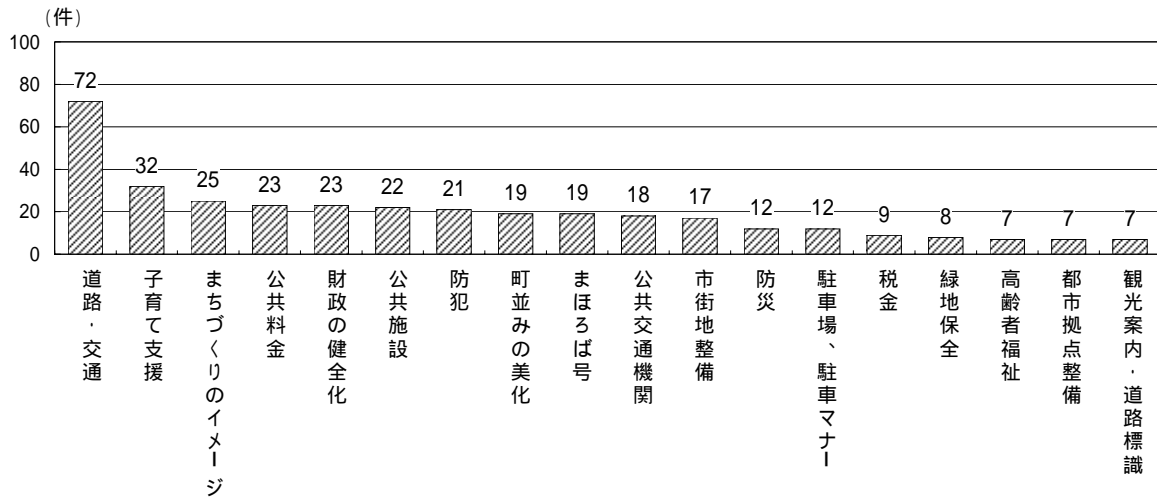


#### <校区>



## 2. 自由意見の分類

アンケート自由意見の分類



參考資料 < 調查票 >

---

# 住みよか太宰府まちづくり市民意識調査

## アンケートご協力をお願い

太宰府市では、市民の皆様にとってより暮らしやすいまちづくりに向けて、皆様の生活の実態や問題意識を把握し、さらに市の取り組みについての考えをお聞きして、それを今後に反映させていきたいと考えています。

そこでお忙しい中恐縮ですが、調査票の質問に 印で回答をご記入いただき、3月3日（金）までに同封の返信用封筒によりポストに投函してください。（切手は不要です）

設問数が多くお手数をおかけしますが、これからのまちづくりにとって非常に重要なものですので、ぜひご協力をお願いいたします。

このアンケートは、太宰府市にお住まいの20歳以上の方1,000人を無作為に抽出し、お願いしています。

アンケート結果は数字で統計処理いたしますので、回答結果をそのまま公表することはありませんので、個人情報の観点でご迷惑をおかけすることはありません。

平成18年2月

太宰府市長 佐藤 善郎

### ご記入にあたって

あて名のご本人がお答えください。

ご本人が回答できない場合は、ご家族の方がお答えいただいても結構です。

お答えは、あてはまる回答の番号に 印をつけてください。

たとえば、「1つ選んで」や「3つまで」と回答の数が指定されている質問がありますので、それぞれ指定の数を選んでください。

ご記入は鉛筆またはボールペンでお願いします。

この調査に関してのお問い合わせは、次のところをお願いします。

太宰府市総務部秘書広報課 広聴広報係

電話 921-2121 内線513



問6．あなたは太宰府市に住んで何年になりますか。(平成18年1月末時点で)  
次の中からお選びください。

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1．3年未満        | 5．15年以上～20年未満 |
| 2．3年以上～5年未満   | 6．20年以上～25年未満 |
| 3．5年以上～10年未満  | 7．25年以上       |
| 4．10年以上～15年未満 |               |

問7．あなたのお住まいを次の中からお選びください。

- |               |          |
|---------------|----------|
| 1．持ち家・分譲マンション | 4．間借り・下宿 |
| 2．賃貸住宅・アパート   | 5．その他( ) |
| 3．社宅・寮        |          |

(まちの住みやすさについておたずねします)

問8．太宰府市は住みやすいまちだと思いますか。( は1つ)

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1．住みやすい         | 4．どちらかと言えば住みにくい |
| 2．どちらかと言えば住みやすい | 5．住みにくい         |
| 3．どちらともいえない     |                 |

問9．あなたはこれからも太宰府市に住み続けたいと思いますか。( は1つ)

- |          |            |         |
|----------|------------|---------|
| 1．住み続けたい | 2．住み続けたくない | 3．わからない |
|----------|------------|---------|
- ↓  
→ 付問2へ

付問1．問9で「1」と答えた方におたずねします。「住み続けたい」と思う主な理由は何ですか。3つまで選んで 印をつけてください。

- |                |                       |
|----------------|-----------------------|
| 1．友人・知人が多い     | 10．生涯学習・スポーツの事業がさかん   |
| 2．自宅周辺の環境がよい   | 11．高齢者施設が充実している       |
| 3．サークル活動が盛ん    | 12．子育てしやすい制度や環境が整っている |
| 4．まちづくりに参加しやすい | 13．医療機関が多い            |
| 5．史跡や文化財が身近にある | 14．教育・文化施設の整備が進んでいる   |
| 6．まちの知名度が高い    | 15．健康づくりのための事業が充実している |
| 7．大学・短大が多い     | 16．道路や上下水道の整備が進んでいる   |
| 8．通勤通学の交通の便がよい | 17．公園や街路樹などの緑が多い      |
| 9．商店が多く買い物が便利  | 18．その他( )             |





問 12 . 結婚を決めるときに、家柄とか血筋を問題にする風習について、あなたはどのように  
思いますか。( は1つ)

- 1 . 当然のことと思う(いつも気にしている)
- 2 . おかしいと思うが、自分だけ反対しても仕方がないと思う
- 3 . 不合理だから、なくしていかなければならないと思う

#### 男女共同参画

問 13 . 「男は仕事、女は家庭」というように、性別によって固定化された役割分業の考え方  
があります。あなたはこの考え方にどの程度同感しますか。( は1つ)

- 1 . 同感する
- 2 . ある程度同感する
- 3 . あまり同感しない
- 4 . 同感しない

#### 生涯学習

問 14 . あなたは日頃から学習テーマを持って学習活動に取り組んでいますか。( は1つ)

- 1 . ほぼ毎日取り組んでいる
- 2 . 週に1回程度取り組んでいる
- 3 . 月に数回程度取り組んでいる
- 4 . 年に数回程度取り組んでいる
- 5 . ほとんど取り組んでいない

問 15 . あなたは、今後、学習活動に取り組みたいと思っ  
ていますか。( は1つ)

- 1 . はい
- 2 . いいえ
- 3 . わからない

#### スポーツ

問 16 . あなたは、運動・スポーツをどれくらいの頻度で行っていますか。( は1つ)

- 1 . ほぼ毎日行っている
- 2 . 週に1回程度行っている
- 3 . 月に数回程度行っている
- 4 . 年に数回程度行っている
- 5 . ほとんど行っていない

#### 健康づくり

問 17 . あなたのここ数週間の健康状態はいかがですか。( は1つ)

- 1 . 非常に健康である
- 2 . 健康な方である
- 3 . あまり健康ではない
- 4 . 健康ではない

問 18 . あなたは健康増進のために日頃から取り組んでいるものがありますか。( は1つ)

- 1 . ある
- 2 . ない

## 高齢者福祉

60 歳以上の方だけにおたずねします。

問 19 . あなたは、日頃から生きがいを感じて生活していますか。( は1つ)

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 1 . とても感じている      | 3 . どちらかと言えば感じていない |
| 2 . どちらかと言えば感じている | 4 . 全く感じていない       |

## 子育て支援

次の3問は中学生までの子どもをお持ちの保護者の方だけにおたずねします。

問 20 . あなたの世帯では、子育てと仕事がうまく両立できていますか。( は1つ)

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 1 . 出来ている         | 3 . どちらかと言えば出来ていない |
| 2 . どちらかと言えば出来ている | 4 . 出来ていない         |

問 21 . あなたは、子育てに不安を感じますか。( は1つ)

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 1 . かなり不安である      | 3 . どちらかと言えば不安はない |
| 2 . どちらかと言えば不安である | 4 . 全く不安はない       |

問 22 . あなたは、子育てが楽しいと思えますか。( は1つ)

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 1 . かなり楽しい      | 3 . どちらかと言えば楽しくない |
| 2 . どちらかと言えば楽しい | 4 . 全く楽しくない       |

## 防犯

問 23 . あなたは、市内に住むことに対して防犯の面で安心していただけますか。( は1つ)

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 1 . とても安心している      | 3 . どちらかと言えば不安である |
| 2 . どちらかと言えば安心している | 4 . とても不安である      |

付問 1 あなたの家の周囲や市内において、防犯上危険と思われるような場所がありましたら、具体的に記述してください。

( )

## 防災

問 24 . あなたは日頃から災害に対する備えをしていますか。以下の項目について、「はい」か「いいえ」のいずれかを選んでください。

- |                                |         |
|--------------------------------|---------|
| 1 . 2 日分程度の食料・飲料の備蓄をしている。      |         |
| 1 . はい                         | 2 . いいえ |
| 2 . 避難場所を知っている。                |         |
| 1 . はい                         | 2 . いいえ |
| 3 . 避難勧告などの災害情報がどこから来るかを知っている。 |         |
| 1 . はい                         | 2 . いいえ |
| 4 . 家具の転倒防止策をとっている。            |         |
| 1 . はい                         | 2 . いいえ |

### 環境保全への取組

問 25 . あなたは、日頃からアイドリングストップや節電など二酸化炭素排出削減や大気汚染防止のための活動を実践していますか。( は1つ)

- |                    |                  |
|--------------------|------------------|
| 1 . ほぼ毎日実践している     | 4 . 年に数回程度実践している |
| 2 . 週に 1 回程度実践している | 5 . ほとんど実践していない  |
| 3 . 月に数回程度実践している   |                  |

問 26 . あなたは、日頃から洗剤や油流しなど生活排水に気をつけていますか。( は1つ)

- |                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| 1 . ほぼ毎日気をつけている     | 4 . 年に数回程度気をつけている |
| 2 . 週に 1 回程度気をつけている | 5 . ほとんど気をつけてない   |
| 3 . 月に数回程度気をつけている   |                   |

### 自然環境

問 27 . あなたは太宰府市の自然は豊かであると感じますか。( は1つ)

- |            |               |
|------------|---------------|
| 1 . そう思う   | 3 . あまりそう思わない |
| 2 . ややそう思う | 4 . そう思わない    |

### 市街地整備

問 28 . あなたは、今住んでいる地区が快適で住みやすいと思いますか。(公園や身近な道路、住宅など)( は1つ)

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 1 . とても満足している      | 3 . どちらかと言えば不満である |
| 2 . どちらかと言えば満足している | 4 . とても不満である      |

### 都市拠点整備

問 29 . 市には4つの鉄道駅がありますが、道路、駅前広場、公園など公共施設の整備や、商業施設の立地などによって、駅周辺が以前よりも便利になったと思いますか。( は1つ)

- |            |               |
|------------|---------------|
| 1 . そう思う   | 3 . あまりそう思わない |
| 2 . ややそう思う | 4 . そう思わない    |

問 30 . 市内の鉄道駅周辺のうち、市の拠点としてあなたが感じる場所は以下のうちどこですか。( はいくつでも)

- |              |                 |
|--------------|-----------------|
| 1 . 西鉄太宰府駅周辺 | 3 . 西鉄都府楼前駅周辺   |
| 2 . 西鉄五条駅周辺  | 4 . J R 都府楼南駅周辺 |

## バリアフリー

問 31 . あなたは、市内の公共施設（駅、市役所等）が高齢者や障害者などに配慮されていると思いますか。（ は1つ）

- |            |               |
|------------|---------------|
| 1 . そう思う   | 3 . あまりそう思わない |
| 2 . ややそう思う | 4 . そう思わない    |

問 32 . あなたは、市内の民間施設（商業施設等）が高齢者や障害者などに配慮されていると思いますか。（ は1つ）

- |            |               |
|------------|---------------|
| 1 . そう思う   | 3 . あまりそう思わない |
| 2 . ややそう思う | 4 . そう思わない    |

## 道路事情

問 33 . あなたは市内の道路全般について渋滞もなく円滑に移動できると思いますか。（ は1つ）

- |                    |            |
|--------------------|------------|
| 1 . そう思う           | 4 . そう思わない |
| 2 . どちらかと言えばそう思う   | 5 . わからない  |
| 3 . どちらかと言えばそう思わない |            |

## 公共交通機関の利便性

問 34 . 市内の鉄道は便利だと思いますか。（ は1つ）

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 1 . そう思う           | 4 . そう思わない          |
| 2 . どちらかと言えばそう思う   | 5 . 鉄道を利用しないのでわからない |
| 3 . どちらかと言えばそう思わない |                     |

問 35 . 市内のバス便は便利だと思いますか。（ は1つ）

- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| 1 . そう思う           | 4 . そう思わない           |
| 2 . どちらかと言えばそう思う   | 5 . バス便を利用しないのでわからない |
| 3 . どちらかと言えばそう思わない |                      |

## 景観

問 36 . 市内の自然は美しいと思いますか。（ は1つ）

- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| 1 . そう思う         | 3 . どちらかと言えばそう思わない |
| 2 . どちらかと言えばそう思う | 4 . そう思わない         |

問 37 . 史跡地や神社仏閣など市内の歴史的な景観が美しいと思いますか。（ は1つ）

- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| 1 . そう思う         | 3 . どちらかと言えばそう思わない |
| 2 . どちらかと言えばそう思う | 4 . そう思わない         |

問 38 . あなたが住んでいる地区は、良好な街並みだと思いますか。( は1つ)

- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| 1 . そう思う         | 3 . どちらかと言えばそう思わない |
| 2 . どちらかと言えばそう思う | 4 . そう思わない         |

**情報化**

問 39 . あなたの世帯はパソコンを使ってインターネットに接続していますか。( は1つ)

- |        |         |
|--------|---------|
| 1 . はい | 2 . いいえ |
|--------|---------|

問 40 . あなたは、パソコンや携帯電話を使ってインターネットを利用していますか。( は1つ)

- 1 . パソコン、携帯電話いずれでも利用している
- 2 . パソコンで利用している
- 3 . 携帯電話で利用している
- 4 . いずれでも利用していない

**文化財**

問 41 . あなたは市内の歴史文化遺産を誇りに思いますか。( は1つ)

- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| 1 . そう思う         | 3 . どちらかと言えばそう思わない |
| 2 . どちらかと言えばそう思う | 4 . そう思わない         |

問 42 . あなたは、これらの歴史文化遺産を大切にしたいと思いますか。( は1つ)

- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| 1 . そう思う         | 3 . どちらかと言えばそう思わない |
| 2 . どちらかと言えばそう思う | 4 . そう思わない         |

**文化活動**

問 43 . あなたは、日頃から文化芸術に触れていますか。( は1つ)

- |                   |                 |
|-------------------|-----------------|
| 1 . ほぼ毎日触れている     | 4 . 年に数回程度触れている |
| 2 . 週に 1 回程度触れている | 5 . ほとんど触れてない   |
| 3 . 月に数回程度触れている   |                 |

**伝統文化**

問 44 . あなたは、日頃から伝統文化に触れていますか。( は1つ)

- |                   |                 |
|-------------------|-----------------|
| 1 . ほぼ毎日触れている     | 4 . 年に数回程度触れている |
| 2 . 週に 1 回程度触れている | 5 . ほとんど触れてない   |
| 3 . 月に数回程度触れている   |                 |

## 国際交流・地域間交流

問 45 . あなたは、日頃から市内在住の外国人と交流していますか。( は1つ)

- |                    |                  |
|--------------------|------------------|
| 1 . ほぼ毎日交流している     | 4 . 年に数回程度交流している |
| 2 . 週に 1 回程度交流している | 5 . ほとんど交流していない  |
| 3 . 月に数回程度交流している   |                  |

問 46 . あなたは日頃から市の姉妹都市である韓国扶餘邑や友好都市である奈良市、多賀城市の人たちと交流をしていますか。( は1つ)

- |                    |                  |
|--------------------|------------------|
| 1 . ほぼ毎日交流している     | 4 . 年に数回程度交流している |
| 2 . 週に 1 回程度交流している | 5 . ほとんど交流していない  |
| 3 . 月に数回程度交流している   |                  |

## 情報公開

問 47 . あなたは「広報だざいふ」「太宰府市議会だより」「太宰府市ホームページ」を読んでいますか。( は1つ)

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1 . いつも読んでいる | 3 . ほとんど読まない |
| 2 . たまに読む    | 4 . 読まない     |

問 48 . あなたは、市が積極的に情報を公開・提供していると感じますか。( は1つ)

- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| 1 . そう思う         | 3 . どちらかと言えばそう思わない |
| 2 . どちらかと言えばそう思う | 4 . そう思わない         |

問 49 . あなたは市民と行政の情報交換が双方向になされていると感じますか。( は1つ)

- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| 1 . そう思う         | 3 . どちらかと言えばそう思わない |
| 2 . どちらかと言えばそう思う | 4 . そう思わない         |

## 行政サービス

問 50 . あなたは、過去 1 年間で、市役所の窓口を利用したことがありますか。( は1つ)

- |        |         |
|--------|---------|
| 1 . はい | 2 . いいえ |
|--------|---------|

→ 付問 1 問 50 で「1 . はい」と回答された方にお聞きします。窓口での事務処理は迅速でしたか。( は1つ)

- |                   |                  |
|-------------------|------------------|
| 1 . とても迅速だった      | 3 . どちらかと言えば遅かった |
| 2 . どちらかと言えば迅速だった | 4 . とても遅かった      |

→ 付問 2 問 50 で「1 . はい」と回答された方にお聞きします。窓口での職員の対応や姿勢に満足しましたか。( は1つ)

- |                  |                   |
|------------------|-------------------|
| 1 . とても満足した      | 3 . どちらかと言えば不満だった |
| 2 . どちらかと言えば満足した | 4 . とても不満だった      |

## 広域行政

問 51 . 福岡都市圏では道路等交通基盤整備や水資源の確保、図書館の広域利用による生涯学習の体制づくりなど、都市圏に共通する課題に対し、圏域全体の一体的発展と、魅力と活力にあふれた住みよい都市圏の形成に向けて取り組みを進めています。

あなたは、福岡都市圏の広域的な取り組みによって住民サービスが向上したと感じますか。( は1つ)

### [ 福岡都市圏の概要 ]

福岡都市圏は福岡市とその周辺 18 市町 ( 筑紫野市・春日市・大野城市・太宰府市・那珂川町・古賀市・宇美町・篠栗町・志免町・須恵町・新宮町・久山町・粕屋町・宗像市・福津市・前原市・二丈町・志摩町 ) を圏域とし、これら 19 市町で構成する福岡都市圏広域行政推進協議会を設置しています。

- 1 . そう思う
- 2 . どちらかと言えばそう思う
- 3 . どちらかと言えばそう思わない
- 4 . そう思わない
- 5 . わからない

## (歴史と文化の環境税についておたずねします)

問 52 .市では、地方分権一括法の施行に伴い、全国に先駆け独自のまちづくりを行うために、「自主財源の確保」として、平成 15 年 5 月 23 日から法定外税である「歴史と文化の環境税」を導入しています。この税は、一時的有料駐車場の利用者に 1 回あたり普通車であれば 100 円課税するものです。あなたは、この「歴史と文化の環境税」を知っていますか。( は 1 つ)

- 1 . 知っている                      2 . 知らない

問 53 .「歴史と文化の環境税」は、平成 18 年 2 月 1 日までに約 1 億円が納められており、駐車場利用者や市民の意見を反映させながら、運営協議会で協議され、環境にやさしい「歴史とみどり豊かな文化のまち」を創造することに使っています。

「歴史と文化の環境税」の使い方
観光・産業の振興：観光マップの作成、観光ホームページの充実、サイン整備事業、年始の臨時駐車場設置・仮設トイレ設置 など
歴史的・文化の保全と創造：史跡地ライトアップ事業、太宰府発見塾 など
環境保全：花いっぱい運動、美化推進事業 など

あなたは、市のこのような取り組みを、どのように思いますか。( は 1 つ)

- 1 . 評価する  
2 . 評価しない  
3 . わからない

付問 1 問 53 で「1」と答えた方におたずねします。評価する理由は何ですか。( はいくつでも)

- 1 . 観光資源・施設の保全や整備によってサービスが充実する  
2 . 年始の臨時駐車場設置など交通対策の整備によって渋滞が緩和される  
3 . 歴史的文化遺産の保全・整備に生かされる  
4 . 制度がすでに定着している  
5 . まちづくりに独自の財源は必要である  
6 . その他( )

付問 2 問 53 で「2」と答えた方におたずねします。評価しない理由は何ですか。( はいくつでも)

- 1 . 市外からの来訪者に課税することに反対である  
2 . 課税の理由がわかりづらい  
3 . 使い道による効果が薄い  
4 . 新たに財源を求めるよりも、経費を抑えることを進めるべきである  
5 . 協働のまちづくりのためには、市民などから寄付を募るほうがよい  
6 . その他( )



(これからのまちづくりについておたずねします)

九州国立博物館を生かしたまちづくり

問 54 . 市では九州国立博物館を核として、市全体を「まるごと博物館」に見立てたまちづくりを進めています。そのためには、今後どのようなことに取り組むことが必要だと思いますか。次の項目について、あてはまる番号にそれぞれ1つ選んで 印をつけてください。

	1 ・必要だと思う	2 ・どちらかと言えば必要だと思う	3 ・どちらかと言えば必要だとは思わない	4 ・必要とは思わない
1 . 九州国立博物館に関するイベントを開催し、様々な情報を提供する	1	2	3	4
2 . 自然・歴史的景観や街並みを守り、太宰府らしい景観づくりを進める	1	2	3	4
3 . 歴史・文化・観光資源を散策路や遊歩道で結ぶ	1	2	3	4
4 . 公園や公共用地を花でいっぱいにする	1	2	3	4
5 . 太宰府の歴史・文化について市民が気軽に学べる講座を設ける	1	2	3	4
6 . 九州国立博物館の運営を支援する市民ボランティアを育成する	1	2	3	4

問 55 . すみよいまちにしていくために、次の施策について、今後どの程度取り組むべきだと思いますか。あてはまる番号をそれぞれ1つ選んで 印をつけてください。

	1 最 先 で 力 を 入 れ て 取 り 組 む べ き で あ る	2 ど ち ら か と 言 え ば 今 ま で よ り 力 を 入 れ て 取 り 組 む べ き で あ る	3 今 ま で ど お り で よ い	4 ど ち ら か と 言 え ば 今 ま で よ り 力 を 入 れ ず に 取 り 組 む べ き で あ る	5 今 ま で よ り 力 を 入 れ ず に 取 り 組 む べ き で あ る	6 わ か ら な い	7 関 心 が な い
1 . 人権尊重と差別のないまちをつくるため、男女共同参画社会の実現や同和対策の推進を図る	1	2	3	4	5	6	7
2 . 市民ボランティアを育成し、地域コミュニティ（共同体）づくりに力を入れる	1	2	3	4	5	6	7
3 . 生涯にわたる学習の場やスポーツ環境を充実させる	1	2	3	4	5	6	7
4 . 市民の多様な生活様式に応じた健康づくり事業を展開する	1	2	3	4	5	6	7
5 . 育児相談体制や託児施設などを整備し、子育てしやすい環境をつくる	1	2	3	4	5	6	7
6 . 高齢者・障害者の福祉施策やバリアフリー化などを充実させる	1	2	3	4	5	6	7
7 . 事故や災害、犯罪のない、安心して生活できるまちづくりを進める	1	2	3	4	5	6	7
8 . ゴミ減量や資源リサイクルに取り組み、良好な環境を次世代に引き継ぐ	1	2	3	4	5	6	7
9 . 美しい自然や歴史景観を守り、公園や街路樹などの身近な緑を育てていく	1	2	3	4	5	6	7
10 . 道路交通施設の整備やコミュニティバス路線の充実を進める	1	2	3	4	5	6	7
11 . 高度情報基盤の整備を進め、行政や地域の情報などの積極的な公開を進める	1	2	3	4	5	6	7
12 . 商工・農林業、観光などの振興を図り、活力のある地域をつくる	1	2	3	4	5	6	7
13 . 豊富な文化・歴史資源を生かした文化の香り高いまちづくりを進める	1	2	3	4	5	6	7
14 . 伝統文化の継承や市民の自主的文化活動、国際交流など様々な文化的活動を推進する	1	2	3	4	5	6	7
15 . とにかく歳出の無駄をなくして納税者の負担を軽減する	1	2	3	4	5	6	7

**(最後にまちづくりについてご意見などがありましたら、お聞かせください)**

自由意見欄

貴重なご意見をありがとうございました。  
今後も、市政へのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

ご記入が済みましたら、同封の返信用封筒(切手は不要です)に入れて、3月3日(金)までに投函してください。